

# 社 会 科 教 室

第 153 号

平成 22 年度

香川県小学校教育研究会社会科部会  
香川県小学校社会科教育研究会



## は じ め に

教育基本法, 学校教育法の改正において、『伝統と文化を尊重し, 国土・郷土愛の態度を養うこと』, 『生涯にわたり学習する基盤が培われるよう, 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに, これらを活用して課題を解決するために必要な思考力, 判断力, 表現力その他の能力を育み, 主体的に学習に取り組む態度を養うことに, 特に意を注がなければならない。』等が明記され, その改正の趣旨を踏まえ改訂された新しい学習指導要領が平成23年度からいよいよ完全実施となります。

香社研においては新学習指導要領の趣旨を踏まえ, 平成21年度から『「社会科ノート」による思考力の育成 ～新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる～』を研究主題として3年計画で研究を進めてきているところです。一人一人の子どもたちが社会科の基礎・基本を確実に身に付け思考力を育てるという研究の方向は, 今後各教科の研究を進める上におきましても, 範ともなるべき研究内容であると考えています。

3年計画の2年目にあたる本年度は「学習材の開発により, 集団と個のかかわりを深める」を視点とした研究を各郡市社研において進めていただきました。各郡市における実践の研究成果や課題は, 各定例研修会において公表していただき, 会員の先生方との意見交流を通して研究を深めてまいりました。

さらに, 7月28日(水)に開催された香小研社会科部会夏季研修会では, 文部科学省初等中等教育局教科調査官 澤井 陽介先生をお招きし, さぬき・東かがわ社研による各学年の授業提案・課題提案や各郡市社研による演習提案を行い, 香川県下の先生方と意見を交わしました。そこで得た研究内容を各郡市・各学校に持ち帰り, それぞれの実践に生かされたことだと思います。

そして, 2月19日(土)には國學院大學教授 安野 功先生をお招きし, 「研究フォーラム2010」を開催し, 各郡市による1年間の研究成果の発表が行われました。

本年度も, 各郡市社研ですばらしい研究が進められていることを実感した1年でありました。

この冊子は各郡市社研の1年間の研究の成果をまとめたものであります。先生方におかれましては是非一読され, 次年度の研究の手掛かりとして活用していただければ幸いです。そして, 平成24年度の香小研大会, 平成28年度の全国小学校社会科研究協議会全国大会・香小研大会の開催に向けさらに研究が深まっていくことを期待します。

最後になりましたが, 本研究会に対しまして深いご理解とご支援・ご指導を賜りました各教育委員会並びに池内 博先生, 諸先輩の先生方に厚くお礼申し上げますとともに, 今後とも本研究会の充実・発展のためご指導賜りますようお願い申し上げます。

平成23年2月

香川県小学校教育研究会社会科部会  
香 川 県 小 学 校 社 会 科 研 究 会  
(部) 会 長 佐藤 正文



## 平成22年度事業報告

### 1 定例研究集会

#### ○ 6月定例会（丸亀）

- ・ 月 日 6月26日（土）9：30～11：30
- ・ 場 所 丸亀市綾歌町栗熊コミュニティセンター
- ・ テーマ 自分づくりの社会科学習  
ー基礎基本の定着と自ら学ぶ問題解決能力の育成を求めてー
- ・ 提案者 岡野 雄太郎（丸・垂水小）  
第3学年「学校のまわりの絵地図をつくろう」
- ・ 司会者 馬場 直明（丸・飯野小）
- ・ 指導者 山崎 敏和 先生 森 昭 二 先生

#### ○ 7月定例会（高松西・南）

- ・ 月 日 7月10日（土）9：30～11：30
- ・ 場 所 高松市市民防災センター
- ・ テーマ 『社会科』における思考力の育成を図る  
ー子どもの学習意欲を大切にし、読解力と豊かな言語活動の展開による日々の授業実践の充実を目指してー
- ・ 提案者 高松西 姫田 朋樹（亀阜） 轟 秀明（下笠居）  
高松南 中尾 美方子（林） 森口 英樹（十河）  
第6学年「源頼朝と鎌倉幕府」
- ・ 司会者 大奥 洋介（円座）
- ・ 記録者 藤澤 大地（多肥）
- ・ 指導者 植松 勝 先生 岡本 英孝 先生

#### ○ 9月定例会（三豊・観音寺）

- ・ 月 日 9月25日（土）14：30～
- ・ 場 所 三豊市豊中町芙蓉文化の里館（豊中町図書館）
- ・ テーマ 個が育ち、生きる社会科学習の創造  
ー考える力をつけるための社会科学習をめざしてー
- ・ 提案者 出濱 大資（観・豊浜小） 藤本 博文（三・本山小）  
第4学年「水はどこから」
- ・ 司会者 合田 雅気（観・一ノ谷小）
- ・ 記録者 萬亀 弘吉（三・下高瀬小）
- ・ 指導者 前田 高次 先生 森 昭二 先生

#### ○ 10月定例会（高松東）

- ・ 月 日 10月16日（土）9：30～12：00
- ・ 場 所 古高松コミュニティセンター
- ・ テーマ 『社会科』における思考力の育成を図る  
ー子どもの学習意欲を大切にし、読解力と豊かな言語活動の展開による日々の授業実践の充実を目指してー
- ・ 提案者 間嶋 大輔（屋島東小） 真鍋 長嗣（栗林小）  
第5学年「自動車をつくる工業」  
ー自動車工場と消費者をつなぐ自動車整備工場ー
- ・ 司会者 樫原 一宏（中央小）
- ・ 記録者 篠原 絵里香（栗林小）
- ・ 指導者 関根 建一 先生 小原 敏昭 先生

#### ○ 11月定例会（坂出・綾歌）

- ・ 月 日 11月13日（土）9：00～
- ・ 場 所 綾歌町立羽床小学校
- ・ テーマ 分かる喜びを実感できる社会科学習の展開  
ー体験的な学習・問題解決的な学習の充実を通してー
- ・ 提案者 西尾 由加（綾・昭和小） 宮武 克明（綾・宇多津北小）  
第6学年「源頼朝と鎌倉幕府～一所懸命 農村に住む武士の暮らし～」
- ・ 司会者 福家 寿夫（坂・東部小）
- ・ 指導者 唐木 裕志 先生 大谷 伸一 先生



## 2 夏季研修会

- ・ 月 日 7月28日(水)
- ・ 場 所 さぬき市志度音楽ホール  
志度社会福祉センター  
さぬき市志度構造改善センター
- ・ 内 容 提案発表,「教材の構造」「思考の構造」つくり実践演習分科会,講演
- ・ 提案者 本部提案 : 大嶋 和彦(附高小)  
さぬき・東かがわ支部提案: 永坂 邦彦

### 分科会Ⅰ：実践提案発表

| 分科会  | 単元名                              | 授業提案者                | 課題提案者               |
|------|----------------------------------|----------------------|---------------------|
| 第3学年 | 工場の仕事<br>「日本一の手袋のまち・白鳥」          | 教諭 仲内 ゆかり<br>(東・本町小) | 教諭 松村和仁<br>(東・本町小)  |
| 第4学年 | 水はどこから<br>「引田を支える水」              | 教諭 高田 宏隆<br>(東・引田小)  | 教諭 沖 肅二<br>(東・三本松小) |
| 第5学年 | 米づくりのさかんな庄内平野<br>「水主米との出会い」      | 教諭 濱松 春水<br>(東・菅水小)  | 教諭 山下 勝正<br>(東・丹生小) |
| 第6学年 | 米づくりのむらから古墳のくにへ<br>「富田茶臼山古墳から学ぶ」 | 教諭 白澤 一修<br>(さ・富田小)  | 教諭 永坂 邦彦<br>(さ・津田小) |

### 分科会Ⅱ：演習提案発表

| 学年分科会 |    | 単元名                        | 演習推進者               |                       |
|-------|----|----------------------------|---------------------|-----------------------|
|       |    |                            | 提案者                 | 提案協力者                 |
| 3年    |    | 「わたしのまち みんなのまち」            | 教諭 丸尾 浩一<br>(坂・川津小) | 教諭 宮武 克明<br>(宇・宇多津北小) |
| 4年    | I  | 「水はどこから」                   | 教諭 靄羽 美緒<br>(高・多肥小) | 教諭 白川 由美<br>(高・多肥小)   |
|       | II | 「水はどこから」                   | 教諭 藤本 博文<br>(三・本山小) | 教諭 安藤 通<br>(観・豊浜小)    |
| 5年    | I  | 「日本の米づくり」                  | 教諭 北分 英樹<br>(丸・城東小) | 教諭 馬場直明<br>(丸・飯野小)    |
|       | II | 「自動車をつくる工業」                | 教諭 真鍋 長嗣<br>(高・栗林小) | 教諭 岡本 竜也<br>(高・木太南小)  |
| 6年    | I  | 「源頼朝と鎌倉幕府」                 | 教諭 姫田 朋樹<br>(高・亀阜小) | 教諭 轟秀明<br>(高・下笠居小)    |
|       | II | 「武家政権成立」<br>～武士の悲願を叶えた源頼朝～ | 教諭 渡部 岳史<br>(琴・琴平小) | 教諭 佐柳 仁<br>(琴・琴平小)    |

- ・ 講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 澤井 陽介 先生  
「思考力を育てる問題解決的な学習の充実」

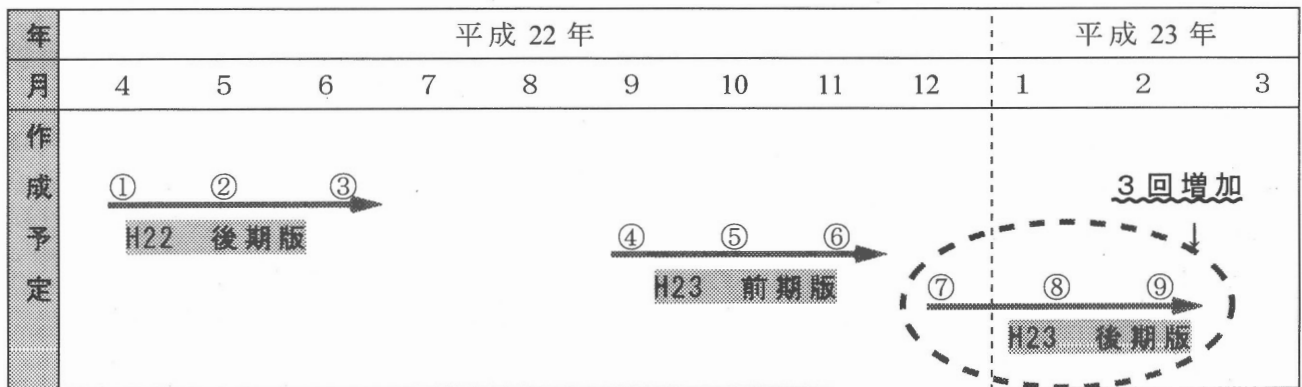
# 1 計画と内容の変更

平成23年度の学習指導要領の完全実施によって教科書が大幅改訂されることが予想される。教科書準拠の社会科の基礎・テストにおいて、教科書（内容や事例地）が変わるということは、そのまま大幅改訂を意味している。

従来通り、半年先のものを執筆・検討していたのでは、入稿が遅れ、学校に届く時期が相当遅くなることが考えられる。そこで、下記の計画により、執筆のサイクルを半年先から一年先に変更することにした。

昨年度までは、年6回（前期版・後期版）の編集会議。

今年度だけは、年9回（前期版・後期版×2）の編集会議とする。



|                | 回 | 日 時                     | 内 容              | 備 考                 |
|----------------|---|-------------------------|------------------|---------------------|
| 22<br>年後<br>期版 | ① | 4 / 29 (木) 13:00～15:00  | 執筆要領説明<br>担当決め 等 |                     |
|                | ② | 5 / 22 (土) 9:00～12:00   | 原稿の検討            | 原稿人数+2 用意           |
|                | ③ | 6 / 5 (土) 9:00～12:00    | 最終の話し合い          | 原稿人数+2 用意<br>■食事を準備 |
| 23<br>期前<br>期版 | ④ | 9 / 25 (土) 14:00～16:00  | 執筆要領説明<br>担当決め 等 |                     |
|                | ⑤ | 10 / 16 (土) 13:30～16:30 | 原稿の検討            | 原稿人数+2 用意           |
|                | ⑥ | 11 / 13 (土) 12:30～16:30 | 最終の話し合い          | 原稿人数+2 用意<br>■食事を準備 |
| 23<br>年後<br>期版 | ⑦ | 12 / 4 (土) 13:00～16:00  | 執筆要領説明<br>担当決め 等 |                     |
|                | ⑧ | 1 / 15 (土) 9:00～12:00   | 原稿の検討            | 原稿人数+2 用意           |
|                | ⑨ | 2 / 26 (土) 9:00～12:00   | 最終の話し合い          | 原稿人数+2 用意<br>■食事を準備 |



## 2 平成22年度 編集・執筆者一覧（敬称略）

### (1)指導者

|      |       |       |                   |
|------|-------|-------|-------------------|
| 全 体  | ・ ・ ・ | 佐藤 正文 | （東かがわ市立白鳥小学校 校長）  |
| 第6学年 | ・ ・ ・ | 安部 幸則 | （高松市立上西小学校 教頭）    |
| 第5学年 | ・ ・ ・ | 臼杵 優  | （観音寺市立柞田小学校 教頭）   |
| 第4学年 | ・ ・ ・ | 山野 正登 | （丸亀市立郡家小学校 主幹教諭）  |
| 第3学年 | ・ ・ ・ | 花房 長広 | （宇多津町立宇多津北小学校 教頭） |

### (2)編集委員

#### ◇総括

河田 祥司 （香川大学教育学部附属高松小学校）

#### ◇学年責任者

|      |       |       |                   |
|------|-------|-------|-------------------|
| 第6学年 | ・ ・ ・ | 山内 秀則 | （香川大学教育学部附属坂出小学校） |
| 第5学年 | ・ ・ ・ | 小西 寛  | （香川大学教育学部附属高松小学校） |
| 第4学年 | ・ ・ ・ | 大嶋 和彦 | （香川大学教育学部附属高松小学校） |
| 第3学年 | ・ ・ ・ | 黒田 拓志 | （香川大学教育学部附属高松小学校） |

#### ◇執筆者

|                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 蘆原 秀稔（高松市立国分寺南部小学校） | 稻田 耕一（直島町立直島小学校）    |
| 池田 誠（高松市立国分寺北部小学校）  | 平田 郁子（高松市立国分寺南部小学校） |
| 瀧 義幸（高松市立一宮小学校）     | 樫原 一宏（高松市立中央小学校）    |
| 柏 徹哉（高松市立木太小学校）     | 真鍋 長嗣（高松市立栗林小学校）    |
| 間嶋 大輔（高松市立屋島東小学校）   | 岡本 竜也（高松市立木太南小学校）   |
| 高重 淳（三木町立白山小学校）     | 白川 由美（高松市立多肥小学校）    |
| 鶴羽 美緒（高松市立多肥小学校）    | 柴原 照子（三木町立平井小学校）    |
| 坪井 孝明（三木町立平井小学校）    | 多田 明広（丸亀市立垂水小学校）    |
| 中西 昇（丸亀市立城北小学校）     | 平田 啓介（丸亀市立城西小学校）    |
| 櫻井 道芳（丸亀市立飯山北小学校）   | 大砂古佳美（丸亀市立飯山北小学校）   |
| 尾畠 良子（綾川町立羽床小学校）    | 福家 寿夫（坂出市立東部小学校）    |
| 福家 実樹（綾川町立昭和小学校）    | 大高 浩一（宇多津町立宇多津小学校）  |
| 藤田真太郎（坂出市立加茂小学校）    | 田村 一郎（小豆島町立星城小学校）   |
| 中西 加代（土庄町立土庄小学校）    | 矢野真奈美（土庄町立豊島小学校）    |
| 永坂 邦彦（さぬき市立津田小学校）   | 仲内ゆかり（東かがわ市立本町小学校）  |
| 白澤 一修（さぬき市立富田小学校）   | 梅本 明宏（さぬき市立長尾小学校）   |
| 近江 麻子（さぬき市立志度小学校）   | 窪田 史子（東かがわ市立白鳥小学校）  |
| 萬亀 弘吉（三豊市立下高瀬小学校）   | 藤本 博文（三豊市立本山小学校）    |
| 安藤 通（観音寺市立豊浜小学校）    | 出演 大資（観音寺市立豊浜小学校）   |
| 岸上也寸志（三豊市立詫間小学校）    |                     |

## 3 おわりに

本年度、短い期間で大幅な改訂にご尽力いただいた先生方に、心より感謝申し上げます。

# 平成 22 年度 香社研フィールドワーク 活動報告

平成 22 年度のフィールドワークは、昨年同様、どこの旅行会社にもない、香社研だけのオリジナルツアーを企画しました。1泊2日でバスを貸し切り、奈良市、海津市、豊田市、関ヶ原町という来年度の社会科の教科書に掲載予定の事例地を巡り、教材研究を深めたり、会員の親睦を深めたりしました。参加人数も 38 名と昨年より増え、バスがほぼ満席になるほどでした。今年度のフィールドワークの概要を以下に報告致します。

- 1 目的： ① 新教科書に掲載されている地域を巡り、教材研究を深める。  
 ② 教員同士の親睦を深め、ネットワークを広げていく。  
 ③ 教科、世代、男女を問わず参加していただき、香社研の輪を広げていく。

2 日程： 平成 22 年 8 月 28 日（土）29 日（日）

| 日次 | 月日           | 行 程                                                                                                                  | 宿泊施設                          |
|----|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 1  | 8月28日<br>(土) | 出発 貸切バス<br>高松市 08:00<br>高松中央 IC 明石海峡大橋 奈良市内 11:30 12:30<br>平城京遷都1300年祭 12:40 15:00<br>宿泊 長良川温泉 17:45<br>夕食はホテル内宴会場にて | 岐阜グランドホテル<br>☎ : 058-233-1111 |
| 2  | 8月29日<br>(日) | 貸切バス 視察研修 名古屋 見学<br>ホテル 海津市 09:00 11:00 12:00 12:50 トヨタ博物館 13:00 14:30<br>解散 高松市 20:00<br>明石海峡大橋 高松中央 IC             |                               |

バス 利用 JR 私鉄 航空 船 徒歩 ケーブルカー

4 参加人数： 38 名

5 交通手段： 貸し切りバス

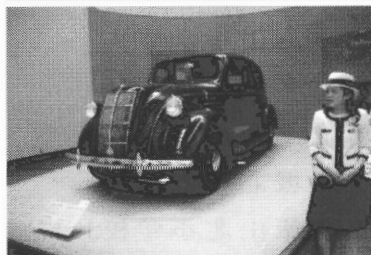
6 各スポット

## 平城京跡



ほぼ完全に当時の姿を修復した大極殿。聖武天皇も座っていたであろう玉座から外を見渡す景色は圧巻でした。当時の技術力の高さ、文化の隆盛を肌で感じました。

## トヨタ自動車博物館



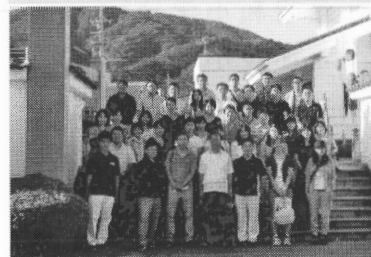
自動車の歴史を時系列で本物の車を見ながら巡ることが出来る博物館。時代時代で消費者の夢や希望を叶える技術者の知恵に驚きました。素晴らしいものは、美しい。そう感じました。

## 海津市



一度は行ってみたいかった。会員の皆さんから聞こえてきた声です。百聞は一見に如かず。この言葉の意味をこれほどまでに感じた場所はありませんでした。先人の工夫と努力に驚愕です。

## 関ヶ原歴史資料館

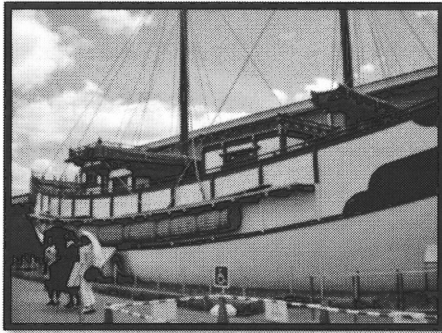


山々に囲まれた緑深い場所。バスが到着した時にすでに雰囲気があります。この地で天下分け目の合戦が行われていたことを想像するだけで歴史好きの我々にはたまらないものでした。

## 7 旅を終えて

「社会科教師の本分は教材研究である」その言葉の意味を体験を通して実感した旅でした。こうした実地研修を通して本当に価値のある教材研究ができたり、教材研究の本当の楽しさを感じたりできるのだと思います。また、車内や研修中、夜のお食事での会話などを通して会員同士のつながりも深まりました。会を重ねるごとに盛会となるフィールドワーク。来年はさらにたくさんの会員の皆さんと、さらに教材研究や親睦を深めていきたいと思っています。

## フィールドワーク参加者報告



＜圧巻の遣唐使船復元模型＞

大変わかりやすく工夫された展示でした。それから遣唐使船の復元模型の甲板に上がり全長30メートル排水量300トンの船を見学しました。1000年前につくられていたとは思えないほど大きくて立派なものでした。その後大極殿まで歩いて行っただけですが、なんと敷地の広いこと、都の大きさを「実感」できました。

翌日は以前から行ってみたいと思っていた岐阜県海津市の「輪中」の見学でした。木曾三川に囲まれた低地のくらしの様子を「海津市歴史民俗資料館」の館長さんがとても熱く語ってくださいました。ここではじめて知ったことは、輪中では川の水の浸入を防ぐ工夫とともに、輪中の中にたまった雨水や生活排水を外に出す工夫がなされていたということです。

写真は木製の自動排水施設「門樋（もんび）」です。観音開きの扉が水圧によって自動で開閉する仕組みになっています。明治の中ごろから昭和初期まで使われていた本物で、平成7年に堤防の工事をしている時に偶然掘り出されたものだそうです。この設備は堤防に穴をあけるため、堤防を弱くしてしまい、ここから決壊することもあったそうです。「川からの浸水を防ぐ」「中の水を排水する」この相反することへの工夫と努力、当時の技術の高さに驚かされました。

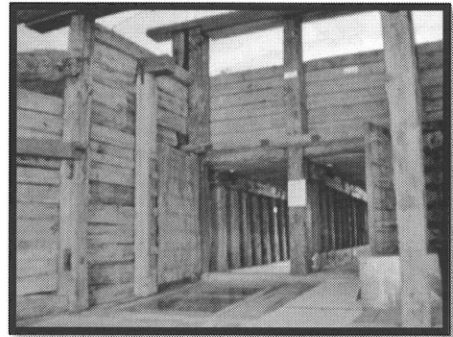
お昼にトヨタに着きました。工場が休みだったので、博物館の見学でした。日本人が乗り継いできた国産車や輸入車が多数展示してあり、車好きにはたまらない施設でした。思わず息子への土産を買いこんでしまいました。



＜各スポットごとに楽しいガイド＞

夏休みも終了間際の8月28日ー29日に、平城宮跡・輪中・トヨタ等をめぐる大変楽しいフィールドワークに参加しましたので、報告いたします。

朝、丸亀、坂出、高松駅などに集合した参加者を大型バスでピックアップして周り、最初の見学地「平城遷都1300年祭」へ向かいました。平城京歴史館では平城京の歴史と遣唐使に関する様々なことを映像で説明していました。どのブースもとても詳しい説明で



＜自動配水施設「門樋」＞

帰りに関ヶ原古戦場跡に立ち寄った時には、周りの山を見渡しながらか、「あの山に小早川、あの山に毛利」と布陣の様子を空想してしまいました。

この旅に参加して、引き出しの中身がずいぶんふえました。授業中の脱線に注意しながら子どもたちに還元しようと思っています。事務局の皆さま大変お世話になりました。次回も楽しみにしております。



# 平成22年度 香社研研究主題について

## 《研究主題》

### 「社会科ノート」による思考力の育成

— 新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる —

— 平成22年度研究の視点 「学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める」 —

## I はじめに

平成22年度の香社研の研究を進めるにあたり、平成20年度四国社会科教育研究大会の研究と21年の研究の成果を踏まえ、今後の研究を深めていきたい。そして、平成24年度香小研大会、平成28年度全国社会科教育研究大会に向けて、研究を積み重ねていきたい。その目標を目指して研究主題「社会科ノート」による思考力の育成にあるように、思考力の育成を「社会科ノート」の研究によって充実させたい。その充実に向けて平成21年度は、『学ぶ意欲を高める学習の工夫』の視点から追究してきた。これを上台に平成22年度は、『学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める』という視点から、研究主題に迫っていきたいと考えている。

## II 研究の方策

### 1 研究計画の立案

#### (1) 研究の視点(3年計画)

|                                                                 |         |
|-----------------------------------------------------------------|---------|
| <p><b>視点Ⅰ</b> 主に1年次(平成21年度)</p> <p>・学ぶ意欲を高める学習の工夫</p>           |         |
| <p><b>視点Ⅱ</b> 主に2年次(平成22年度)</p> <p>・学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める</p> | ※今年度の重点 |
| <p><b>視点Ⅲ</b> 主に3年次(平成23年度)</p> <p>・確かな学力を見取る評価</p>             |         |

#### (2) 長期の計画(平成21年度～平成28年度)

| 21年度<br>(坂・綾) | 22年度<br>(小・さ・東)             | 23年度<br>(三・観) | 24年度<br>県大会                                                                                           | 25年度 | 26年度                                                                                     | 27年度 | 28年度<br>全国大会 |
|---------------|-----------------------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------|
| I 期           |                             |               | II 期                                                                                                  |      | III 期                                                                                    |      |              |
| 研究主題(3年計画)    |                             |               | <p>◎ 21,22,23 年度の研究を受けて、県大会の開催</p> <p>◎ これまでのまとめと新しい教育の動きを見て、大会主題(仮)の設定</p> <p>◎ 新指導要領に向けての動きの始まり</p> |      | <p>◎ 全国大会(県大会)に向けての準備</p> <p>◎ 27年度には、大会主題の決定</p> <p>◎ 新指導要領改訂が具体的にできるので、それを受けての研究推進</p> |      |              |
| <b>視点Ⅰ</b>    | 視点Ⅰ                         | 視点Ⅰ<br>視点Ⅱ    |                                                                                                       |      |                                                                                          |      |              |
| 視点Ⅱ<br>視点Ⅲ    | <div> <div>視点Ⅱ</div> </div> | <b>視点Ⅲ</b>    |                                                                                                       |      |                                                                                          |      |              |

## 2 研究成果を踏まえて

### (1) 平成20年度四国社会科研究大会の研究から

#### 研究主題設定の理由

#### 「社会科をひらく」カリキュラムによる研究を基盤にして

今起きている環境問題一つをとっても、ある自然現象として現れているもののなかには、社会科学的な側面からとらえることも必要になっていることは明らかである。また、その逆も言えるのではないだろうか。

つまり、今日ほど複雑化した社会構造の中では、一人ひとりの人間が生きているという現実においては、諸科学の分化というよりはむしろ、諸科学の総合を含まなければならないということである。これは、小学校社会科が総合社会科としての性格を有していることと価値を同じくする点である。

こうした点から、社会科の内容を考える際には「社会科をひらく」という視点が大切になってくる。

従来までのように3年生の「わたしのまち、みんなのまち」は主として地理的内容から、4年生の「郷土の開発」は歴史的内容から迫る等といった単元の特色に応じて地理的内容、歴史的内容、公民的内容を分けてそれぞれの内容から迫っていくという領域別学習からの脱却を図りたい。

そして、真に実社会、実生活に生きて働く資質・能力を育成するためにも、社会諸科学（地理学、歴史学、政治学、経済学、社会学等）を相互に横断した（ひらく）内容から迫るだけでなく、人文科学、自然科学等、他科学の研究成果も同時に取り入れる（ひらく）ことによって、いわば社会事象を総合的な側面から考察できるように「ひらかれた社会科学習」を創造していくこととする。

こうした基本的な考え方の上に立って、年間指導計画案（試案）の作成を行い、子どもたち一人一人の学力向上を目指した「社会科経営の構想」を創っているところである。

また、これまで学校と家庭の連携の要となる「社会科ノート」を通じて、「見える学力」である知識・理解のみを重視した研究だけではなく、「育てたい力（見えにくい学力）」といわれる思考力・判断力、資料活用の技能・表現等も大切にしたい学力向上に向けての取組を行い、学校評価としての説明責任・結果責任にもつながる研究を行っている。さらに、学校週五日制のもと、子どもたちにある程度自由に活動ができる時間的余裕が与えられた中での自己の学びの充実をどう図っていくかが、学習習慣の形成、学習意欲の向上と大きくかかわって問われている。

そこで、家庭学習の充実のための方策、学校と家庭、地域との協働型学習への転換等という視点から、学習指導の工夫・改善を図っている。

今後とも前述した研究の方向を大切にしつつ、1単位時間の授業改善のための研究実践にとどまるのではなく、各学校の学校改善に寄与する香川県小学校社会科経営に向けた研究を進めていきたいと考えている。

### (2) 平成21年度「学ぶ意欲を高める学習の工夫」の研究から

#### 〈主張点①〉指導計画に教科書教材・副読本教材の活用を重視して、社会科授業の日常化を図る

社会科学習を意欲をもって学習する、それも日常化していくためには、どの学校もどの子どもも教師も保護者も手元にある「教科書教材」を有効に活用することによって社会科授業の日常化を図っていくことを模索したい。「教材」は、「素材・資料」を学習として意味あるものとして解釈し、値打ちあるものにして活用するものである。これが教師の「教材観」なのである。教科書教材を使って、どう現象を見取り、どう考え、どのような意味としてとらえ、そして、自分の考えを表現するかが教材を値打ちあるものにできるのである。このことを「教材の構造化」としてとらえていきたい。

この「教材の構造化」を2つの点から考えたい。

1つは、教科書教材の「基礎・基本の事項と内容」の構造化である。教科書教材を①基礎・基本の内容は何か②それを支える基礎・基本の事項は何かで分析し、関係づけ、構造づけること「知識の構造」というものである。

2つは、教科書教材を学ぶ意欲づくりの「何を」と「どのように」から、学びの内容と方法によって構造づける

ものである。これは、「思考の構造」と言えるものである。個に応じて見つめ、考え、表す喜びから真の分かる喜びを味わうことのできる構造づけを問いたいと考えている。

そして、香社研「社会科をひらくカリキュラム」は、香川県下各校が作成する社会科指導計画の基盤となるものである。実際の授業にあたっては、地域や学校や子どもの実態に応じて、指導計画を改善・作成しなければならない。「学ぶ意欲」を高めるには、まず、指導計画の改善が強く求められる。

現在、教育現場では、どの教科等の授業においても教科書等を使った一斉授業が行われがちではないだろうか。中には、教科書をなぞるような授業、教師用指導書による単元計画・学習計画による授業でよしとしていることもあるのではないだろうか。そのような場合、教師もつまらないと思いながら授業をするようになる。これでは、学習意欲は決して起こらない。学ぶ意欲を高めるには、まず教師が「これはおもしろい。」「日常生活や社会とつながり、子どもの将来の夢や職業にもつながっている。」「知的好奇心も効力感がもてる」と感じられるような『教材の値打ち』が重要な鍵をもつ。ネタ的な教材を教師が与えるのでは、その一時の意欲づくりにしかならない。

教師の意識が変わるきっかけは、授業改善によって子どもの反応が大きく変わる瞬間である。これはおそらくどの教師にも共通する内発的なきっかけである。その点でカリキュラムマネジメントは、「論より証拠」を求めている。その証拠では、授業改善の効果を示すことが必要である。

それは、教員がチームで授業を起点にカリキュラムを改善する試みである。授業技術の改善のみならず、単元や年間指導計画の改善も視野に入れる必要がある。

#### 〈主張点②〉「学ぶ意欲」を高めるとは～「子ども主義」に立つことである～

子どもは、対象に思いや願いをもつことができれば、自ずと意欲が高まり、自ら進んで活動したり、活動そのものに喜びを感じたりして、主体的にねばり強く活動する。それは、何かやりがいのあることを成し遂げたいという欲求、達成動機があるからである。「動機づけ」とは、何らかの行動を引き起こし、ある方向に向け、それを持続させる過程と定義されている。また、「達成動機」とは、活動の結果、成功や失敗として表れるような場面において、できるだけ高いレベルでものごとを成し遂げようとする動機で、いわゆる「やる気」である。そして、達成動機が高い子どもは失敗を恐れず成功を求め、自分の能力に適した少し難しい課題に挑戦する。一方、達成動機の低い子どもは、失敗を避けようとする気持ちが強く、確実に成功する課題か、ほとんど成功の見込みがない課題を選ぶと言われている。

さて、「動機づけ」には、外発的動機づけと内発的動機づけがあるとされている。外発的動機づけは、何か物質的な賞罰とか賞賛・叱責における動機づけであり、内発的動機づけは、ある活動をする事自体を自己目的的に求める欲求による動機づけである。そして、外発的動機づけと内発的動機づけについては、内発的動機づけを重視するのであるが、この2つは対立的に捉えるのではなく、連続的に移行すると考えたり、対象への働きかけのちがいで捉え方を工夫して生かすというカウンセリング的な考えを取り入れたりすることが望まれる。

内発的動機づけの柱は、知的好奇心である。「知的好奇心」には、拡散的好奇心と特殊的好奇心がある。拡散的好奇心は、多様な幅広い情報に方向性をもたずに働きかけ、興味・関心のある情報に知的に好奇心をもつものであり、特殊的好奇心は、集中的に事象を追求する好奇心である。拡散的好奇心は創造的思考力を、特殊的好奇心が論理的好奇心を育てるものになるものと言える。

ところで、現実の学級では、外発的動機づけに片寄ったり、外発的動機づけも内発的動機づけももたないほどに、学ぶ意欲を失いかけている子どもたちがいるのではないだろうか。いくら、教師が教材の価値を研究して生かそうとしても、その働きかけに応じようとしない子どもが何人かいる傾向になってはいないだろうか。いったい、何が子どもたちの学ぶ意欲を失わせているのが課題なのである。おそらく、個々に応じた基礎学力が身に付く学習でなかったり、学習習慣が形成されていなかったり、心身の健康上の問題があったりなど様々な要因によるものだろう。

しかし、多くの場合、自己効力感、自尊感情が弱くなっていることが大きいのではないだろうか。自分の能力に対する自信やよさをもつことが失われつつあるからであろう。「自己効力感」は、効力期待から効力期待結果によって育てられる。効力期待は、こんな活動や練習などに取り組むことによって効力結果を期待する感情であり、成果を上げる結果を得るよう活動や結果などに取り組もうとする感情である。自己効力感を高め、「わかる」ことが「喜び」に結びつく学習は、そう簡単に実現しない。今までの仕方や考え方で「わかる」のでは、「喜び」になら



ない。個人差、個性差に応じ、新しい知識なり技能なりを獲得することで「喜び」を得るものでなければならない。そこには、当然目的意識、問題意識をもつ解決・探究の過程が条件となる。

以上、「学ぶ意欲を高める」研究を支える「論」を述べてきた。このことを項目でまとめると、次の通りである。

- 動機づけは外発的動機づけと内発的動機づけがあり、内発的な動機づけを重視する。
- 内発的動機づけの柱は、知的好奇心であり、拡散的好奇心は創造的な思考力を特殊的好奇心は論理的思考力を育てるものになる。
- 自己効力感は、やる気をもって喜びに結びつく学びを求めるという効力期待と特殊結果期待により、高められる。

#### 〈主張点③〉「学ぶ意欲」を高める考えを学習過程でとらえる

学ぶ意欲を高める学習の過程は、①問いをもつ、②問いを追求する、③問いを広げるといったそれぞれの段階に分けて考えることができる。

- ① 問いをもつ……子ども自らが生み出すことが大切、追求への意欲を育てることが中心
- ② 問いを追求する……表現活動を中心に据え、学び方を援助、交流の場を工夫することが大切
- ③ 問いを広げる……伸びを認める、社会の一員としての自覚、次の学習への出発点

### Ⅲ 研究主題を探究する考え方

#### 《「思考力の育成」にかかわる国の施策》

##### ◎ 中央教育審議会答申(平成20年1月)より抜粋

#### 5. 学習指導要領改訂の基本的な考え方

##### (4) 思考力・判断力・表現力等の育成

○ 3で示した子どもたちの学力に関する各種の調査の結果は、いずれも知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等に課題があることを示している。今回の改訂においては、各学校で子どもたちの思考力・判断力・表現力等を確実にはぐくむために、まず、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。

(中略)

○ 現在の各教科の内容、PISA調査の読解力や数学的リテラシー、科学的リテラシーの評価の枠組みなどを参考にしつつ、言語に関する専門家などの知見も得て検討した結果、知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、例えば、以下のような学習活動が重要であると考えた。このような活動を各教科において行うことが、思考力・判断力・表現力等の育成にとって不可欠である。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる(例示は省略)

○ これらの学習活動の基盤となるものは、数式などを含む広い意味での言語であり、その中心となるのは国語である。しかし、だからといってすべてが国語科の役割というものではない。それぞれに例示した具体的な学習活動から分かるとおり、理科の観察・実験レポートや社会科の社会見学レポートの作成や推敲、発表・討論などすべての教科で取り込まれるべきものであり、そのことによって子どもたちの言語に関する能力は高められ、思考力・判断力・表現力等の育成が効果的に図られる。

このため、学習指導要領上、各教科の教育内容として、これらの記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があることを明示すべきと考える。

## ◎ 学習指導要領解説総則編より抜粋

### 第1章 総説

#### 2 改訂の基本方針

##### ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

### 第3章 教育課程の編成及び実施

#### 第5節 教育課程実施上の配慮事項

##### 2 体験的・問題解決的な学習及び自主的、自発的な学習の促進

(2)各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

これからの学校教育においては、変化の激しいこれからの社会を考えたとき、また、生涯にわたる学習の基礎を培うため、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を重視した教育を行うことが必要であり、児童がこれらを支える知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組む態度を養うことは極めて重要である。このような資質や能力を育成するためには、体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を充実する必要がある。

## ◎ 学習指導要領解説社会編より抜粋

### 第1章 総説

#### 2 社会科改訂の趣旨

また、実際の授業では、問題解決的な学習などを一層充実させることや、観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け、総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習など言語活動の充実を図ることを求めている。

### 第2章 社会科の目標及び内容

#### 2 学年の目標

##### (2) 各学年の目標の系統

##### ③ 能力に関する目標

社会的な思考力や判断力について、第3学年及び第4学年では、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を、第5学年では、社会的事象の意味について考える力を、第6学年では、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようにすることを求めている。表現力については、いずれの学年においても、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにすることを求めている。

## 《研究内容の全体像》

### Ⅲ 研究主題を探究する考え方

#### 1 思考力について

##### (1) 思考力の発達

##### (2) 思考力を育てること

① 思考の構造と思考力の内面化

② ことばと思考力

#### 2 思考力を育てる「授業スキル」

##### (1) 魅力的な授業の要件と研究の視点

##### (2) 研究の視点① 「学習材の開発」

① 教材と学習材

② 「教材の構造」を明らかにする

③ 教材を学習材として「思考の構造」を明らかにする

##### (3) 研究の視点② 「個に応じた学習と集団と個のかかわり」

① 「集団と個のかかわり」とは

② 「個に応じた学習」について

③ 「個に応じた学習」を支える言語活動と学習習慣

### Ⅳ 研究主題を探究する具体策

#### 1 学習観を明らかにもつこと

##### (1) 求める学習観

##### (2) 「学習の要訣」

① 子ども中心

② 批判的思考

③ 創造的思考

④ 課題や問題解決と評価

#### 2 考える力を育てる学習に取り組むために

##### (1) 考えを伝える(表現する)スタイルによる

～批判的思考と創造的思考を育てる「思考図」の開発～

##### (2) 課題・学習問題関与意欲を高める

##### (3) 授業のタイプにより学習の性格を明らかにする

① 教材反応学習

② 反応類型学習

③ 課題選択学習

##### (4) 内容による学習形態のちがいを

#### 3 社会科ノートにより思考の構造の視覚化を図る

##### (1) 相互交流の視覚化を図る社会科ノート ～思考の構造の視覚化を図る～

① 相手に分かりやすく、自分の考えを表現する

② 相互交流の視覚化を図る

③ 視覚情報化のポイント

#### 4 社会科ノートを評価につなぐ

##### (1) 「見える学力」「見えにくい学力」の評価

① 「見える学力」の評価

② 「育てたい力(見えにくい学力)」の評価

### Ⅴ 「考える力を育てる」学習の具体的実践事例

実践の具体例 4年「わたしたちの県」の実践をもとにして



## 1 思考力について

### (1) 思考力の発達

子どもの思考力は、経験を通して得たもの、こと、人について思考を働かせて解釈し、説明する能力を獲得することで発達していく。その過程は、技術（できる・できそう）から科学（わかる・なす）への発展の過程といえる。技術（できる・できそう）は、もっぱら対象にあたって、興味と断片的な知識をもとに知ろうとし、それを利用しようとすることに関心が向けられる。そこで、簡単に問題解決して目標に達すればそれで終わってしまい、その過程を説明することはない。科学（わかる・なす）は目標達成のために、対象にあたって知り、その取り組みの結果に終わらず、さらに深く解決過程を意識して説明していくことに特徴がある。

このように、思考の発達は、目標に達することに関心をもち、周辺の活動の段階から始まって、具体的活動に意味を意識する段階を経て、最後に、反省的思考にもとづいた論理によって意識的に行動する段階へとすすんでいく。これを、ピアジェは、思考の発達の筋道といい、「周辺から中心への発達」として、特徴づけている。

### (2) 思考力を育てること

#### ① 思考の構造と思考力の内面化

思考力を育てるとは、「ものごとを構造的に把握する態度を育てることである。構造的な把握を行うために、種類や用途、場所、時間経過などで分析したり、類別したり、関係づけたり、条件を変えたりしながら、思考そのものが特色としてまとまっていなければならない。思考力を育てることは、思考を思考の構造化している過程としてとらえることが大切である。

思考力は、従来は、ただ、感受性、記憶、言語、数、推理などばらばらな能力のよせ集めとして、取り扱われてきた。そのため、これら個々の能力を別々に訓練することによって、思考力を発達させることができるものとしていた。だが、断片的な能力の訓練では、たとえ知識として覚えたり、技能として習熟できたものであっても、それだけで、思考力が育つことにはならない。

たしかに、読み、書き、算の技能は、思考力の発達の重要な道具である。しかし、その技能自体が、思考力の発達の原動力ではない。例えば、ことばが読めることと、ことばの意味を理解することとは違う。読みの技能は、習熟だけで獲得できるが、意味の理解は論理的思考の構造を前提とする。そして、この思考の構造は、子どものそれまでの成熟、経験、知識、技能などが組織的に統合されている全体なのであり、子どもの思考構造とのかかわりの中で、学習により、生きて働く思考力になるのである。

思考力は、正しい知識の積み重ねだけで思考力を伸ばそうとしてきた伝統的な教育方法で育たない。思考力を育てるには、子どもに正しい知識を理解させる手立てとして、わかりやすいことばで説明する、具体的な身近な例を示す、実験や実習を取り入れる、視聴覚機材を利用する、ユーモアを交えるなど、様々な工夫をして、わかる授業を進めなければならない。しかし、子どもは必ずしも教師が意図した通りの知識を理解するとは限らない。理解したように見えても、誤解、曲解が生じている。子どもは、教師の教えたことがらを覚えることはできる。しかし、そういう知識は、不安定で活用、応用がきかない。

この点から考えると、思考力を育てるために大切なのは、正しい知識の理解に当って、過ちやつまずき、意識のずれを自分で発見して、それを修正していく過程である。この自己評価を伴う活動は、思考の構造の中に確実に組み込んで、より正しく深い理解を進めていくことになる。これは「思考力の内面化」と呼ばれている。

このように、思考の質的な発達を促すためには、活動がある点でせき止められるような状況に立たせることが必要である。このせき止められる状況は、社会的事象の矛盾や対立の場面であり、課題や学習問題の設定などの学習活動に生かしていくことで、学習に意欲的に取り組むようになり、飛躍的な発展にもつながってくる。

## ② ことばと思考力

ことばは、思考の道具というよりは、思考の表現といった方が適切である。ことばに思考をつくり出すはたらきがあるわけではなく、思考が自分のことばを見出し、表現することになる。この思考による表現をもとに、話し合い活動としての交流が行われる。その際、表現することばがうまく選ばれなかったり、語彙が貧しかったりすると、思考が深まっていけない。豊かな思考は一度には成立しない。つまづきを克服するために、表現した自分のことばを見直してみることが大切になってくる。この見直し、修正の時間こそ思考力を育てる上で大切なのである。

このように、話し合い活動・交流は、子どもの創造的思考の表現なのである。考えや思いを相手に理解されるように表現しながら、集団の中の個のかかわりとして、相手のことばの意味を見定めるのである。話し合い活動は、創造活動そのものであり、ことばの深層構造の部分は論理的な言語表現によるものであるのに対し、表層の構造は、創造的な言語表現、創造的思考によるものである。

## 2 思考力を育てる「授業スキル」

### (1) 魅力的な授業の要件と研究の視点

魅力的な授業の要件をあげると、1つは「強い信念と説得力」をもって、一言一言に示唆と感銘を受ける授業である。2つには、自己研鑽の厳しい跡をもち「深い認識」を感じる授業である。3つには、子どもを「温かくにこやかな笑顔」で包み込む授業である。すなわち、魅力的な授業の要件は、この3つの教師力をもつ授業といえる。

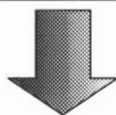
この3つの魅力的な授業を実践するには、「教える授業」から「学ぶ授業」への変革の鍵となる。そのためには「授業スキル」としての教師の技が必須である。この「授業スキル」の研究の視点として、研究主題「社会科ノート」による思考力の育成のもと、次の2つの研究視点を設定した。

#### 研究の視点① 「学習材の開発」

～教材を学習材にすることで「思考の構造」を明らかにする～

#### 研究の視点② 「個に応じた学習と集団と個のかかわり」

～個に応じた学習を進めるよう「集団の中での個のかかわり」を明らかにする～



社会科ノートによる思考力の育成

## (2) 研究の視点① 「学習材の開発」

～教材を学習材にすることで「思考の構造」を明らかにする～

### ① 教材と学習材

「教材」とは、教科書教材に代表されるように、ある一定の目標を実現するために、基礎・基本の事項や内容を精選して取り入れた素材である。その形態は様々で、事物・事象という形、映像という形、言語や記号で表現した形など多様であり、一定の認識やイメージをもたせることができる。しかし、個々の子どものもつ認識・イメージづくりに応じるものとは言えないことから、従来は、教科書解釈や教材分析による教師の指導方法の工夫により補ってきた。

それに対して、「学習材」とは、個に応じた学びができる教材であり、「操作材」ともいえる。子どもの個々の学びが成立するためには、教材のもつ価値を十分に踏まえ、子どものもつ具体をもとにして、自然・社会・生活の事象と結び、具体的操作や形式的操作を通して思考や表現を促し、個々の子どもの認識やイメージを深化・拡充させていくことが重要である。今後、この「学習材」の開発が一層望まれる。

### ② 「教材の構造」を明らかにする

香社研では、平成20年度四国社会科教育研究大会において、社会科の学問的本質に立った「社会科をひらく」を論じ、方法として「ノートによる思考力の育成」に取り組んできた。これを基盤にして、教材と学習材について研究を進めていくことにする。

さて、教材は、どの教科等も学問的内容を子どもの発達や興味の実態に合うよう科学や芸術・文化から選ばれたもので構成されており、①「共通教材」として教科書・補助教材 ②「自主教材」として子どもが自主的に活用する参考図書、インターネット、その他の資料 ③「教師教材」として教師・専門家などが提供する資料があげられる。ところで、教材は、「素材・資料」ではない。教材は、学習の目標を達成するよう素材・資料を発達に合わせ精選し、価値づけたものである。このことから、①は教育法規に定められた教材であるのに対し、②と③は素材・資料を教材化しなければ「自主教材」「教師教材」にはならない。

しかし、日常の授業を見る時、①の教科書などの主たる教材によって発問と応答・支援による一斉授業の中で、②の子どもたちが自主的に調べた資料によって挙手による指名で学習内容をふくらませたり、③の教師などの資料・説話で深めたりしていることが多い。この場合、②の自主的に調べた子どもたちにとっては、自分の調べを入れた授業展開で意欲をもち満足であろうが、それは一部の子どもたちだけの学習の成立としかならない。このことが、社会科学学習を楽しくしていない大きな原因とも考えられよう。すべての子どもたちが社会科学学習を好きになり、思考力を育てる学習にしたいものである。

そのために、①「共通教材」②「自主教材」③「教師教材」を入れた「教材の精選」を明らかにする教材の構造化を授業スキルとして取り組みたい。まず、「教材の構造」は、学習指導要領と教科書や補助教材を分析し、「基礎基本の事項」と「内容」を明らかにし、それを基盤とする。(A)

次に、「教材の構造」の中心になる「共通教材」である。教科書・補助教材の内容を中心教材と関連教材を構造化して図示する。(B)更に、その図示の周辺に「自主教材」と「教師教材」を関連付ける。(C)この際、子どもが自主的に調べた資料を教材化する手立て、及び教師や専門家の資料をどのように教材化するかが今後の研究の課題となる。

では、「教材の構造」について、次頁より具体例を紹介する。

(A) 教科書分析(基礎・基本の事項と内容)

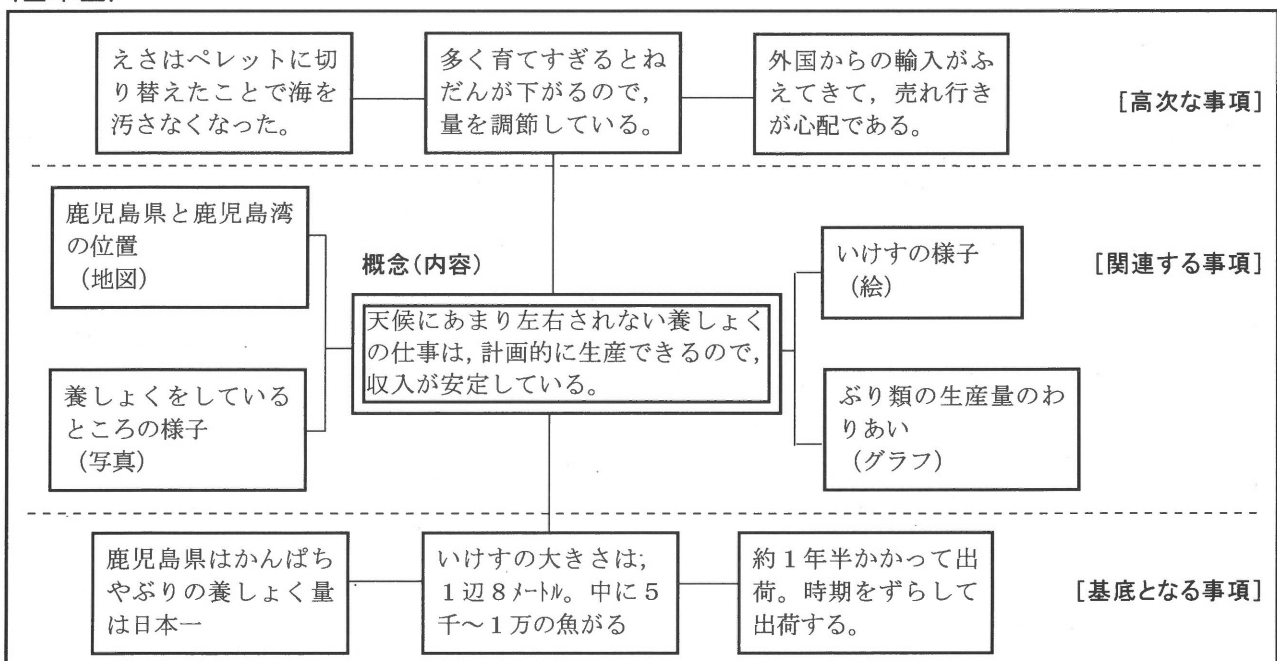
第 5 学年 単元名「水産業のさかな枕崎市」

| 型   | 頁        | 教科書にみる基礎・基本の事項(○)と内容( )                                                                                                   |
|-----|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 探究型 | 27       | ○まきあみ漁は効率がよい ○かつお節<br>○遠洋かつお船は冷凍設備がある ○一本づりは、新鮮さが保たれる<br>遠洋かつお漁は、まきあみ漁と一本づりの2つの特徴を生かしている。                                 |
|     | 28       | ○漁業生産量 ○沿岸から200海里水域の漁の制限<br>○遠洋漁業の減少 ○漁業で働く人の減少<br>○輸入の魚が増えた ○魚より肉を好む食生活<br>日本の漁業では、年々、魚の生産量が減っている。                       |
|     | 29       | ○日本船による魚の生産の減少 ○養しよく漁<br>○さいばい漁業 ○作り育てる漁業<br>○とる漁業 ○稚魚<br>作り育てる漁業でにも力を入れている。                                              |
|     | 30<br>31 | ○かんぱち ○ぶり ○養しよく<br>○いけす ○計画的に生産<br>○漁業協同組合 ○えさは、あじやいわし ○ペレット状のえさ<br>○多く育てすぎると値段が下がる ○量の調整<br>計画的に生産できる養しよくの仕事は、収入が安定している。 |

〈教材の構造〉

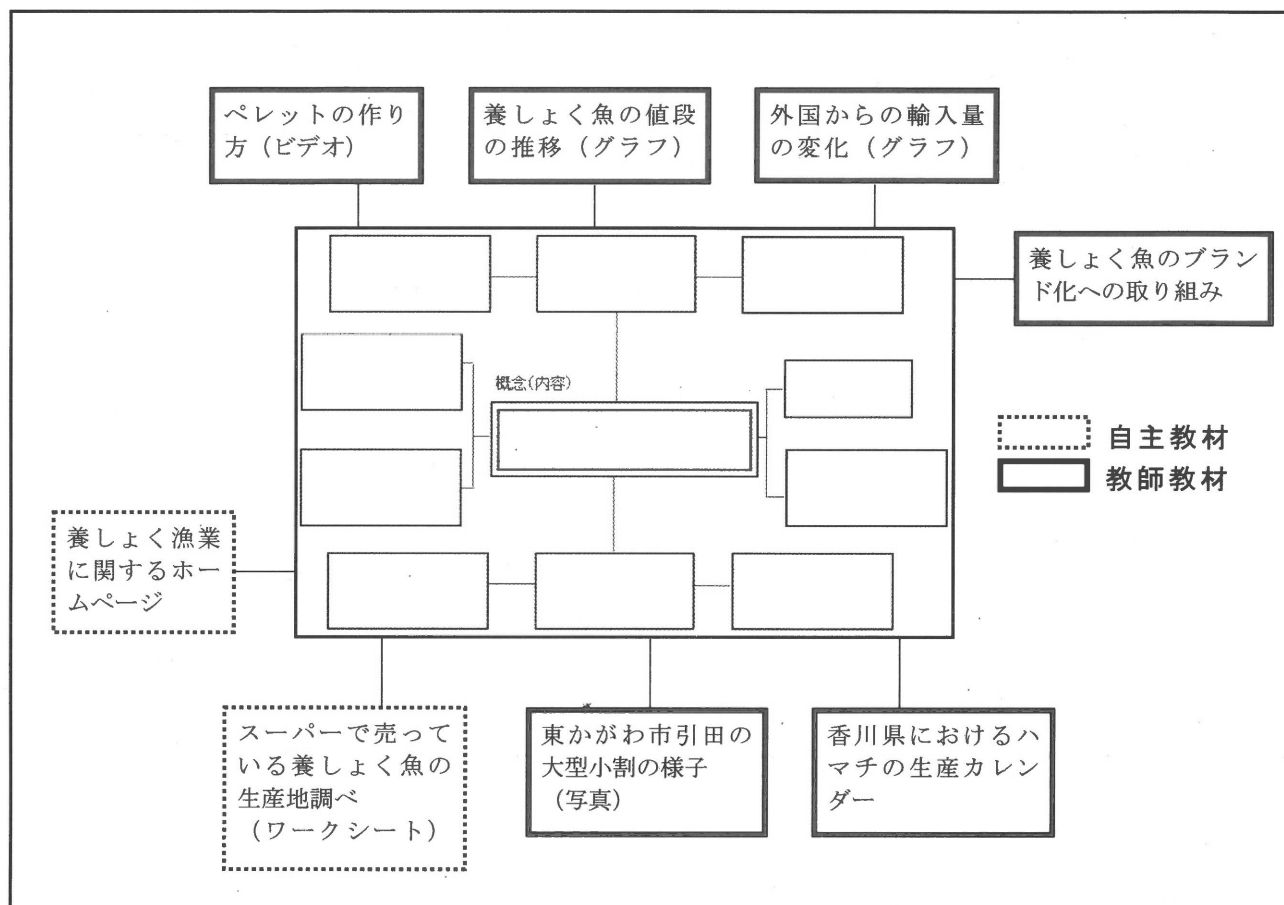
(B) 共通教材(教科書・補助教材)1時間分(教科書見開き2ページを中心に)

〈基本型〉

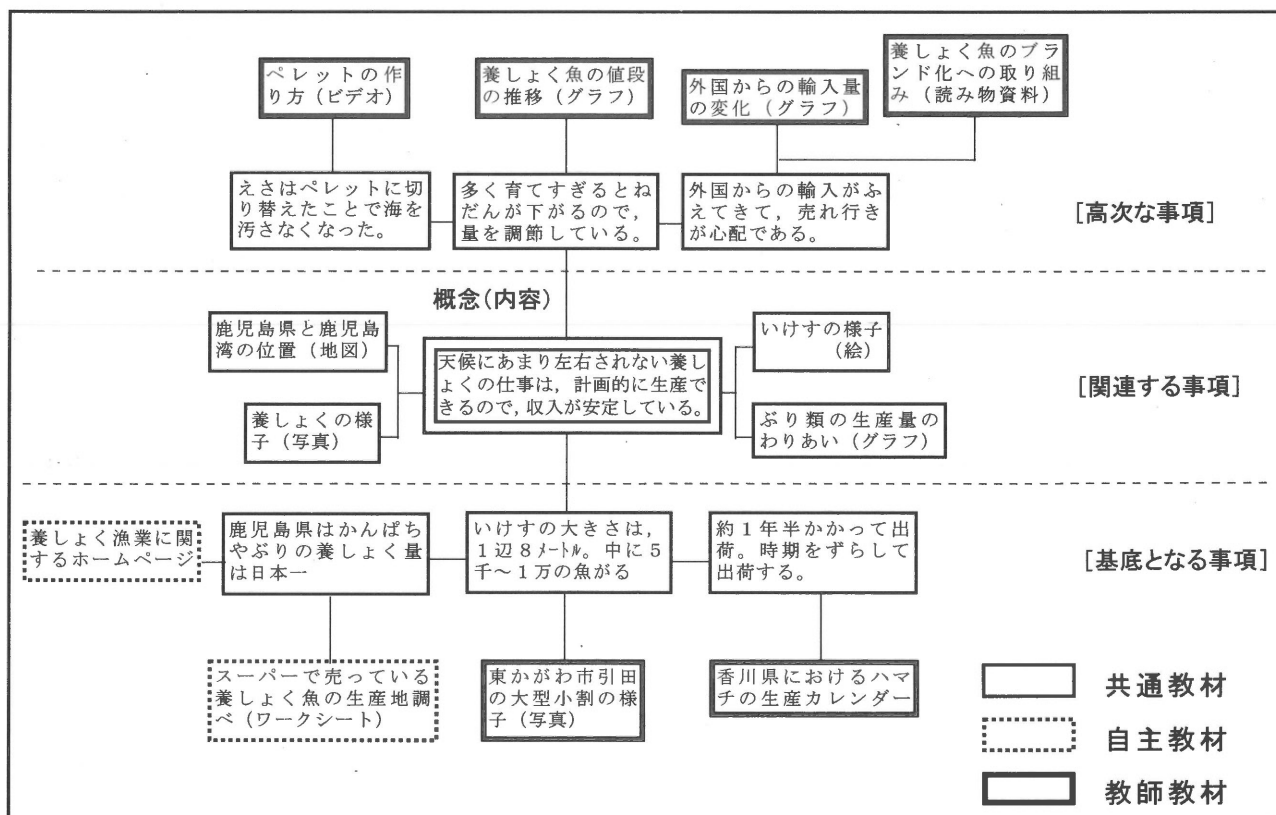




(C)「自主教材」「教師教材」(資料を教材化したもの)



(D)「教材の構造」完成図



### ③ 教材を学習材として「思考の構造」を明らかにする

学習材の開発は、単に子どもが意欲をもって学習に取り組める、あるいは操作活動により授業が活性化するというだけではない。研究テーマにあるように、思考力の育成こそが、一番のねらいである。そのためには、単に学習材を用意するというのではなく、学習材に合わせて、学習類型を選択したり、体験や表現方法を選択するといった一連の流れが重要になってくる。このような一連の流れをまとめて「学習材の開発」と呼びたい。

#### 《学習材の開発の流れ》

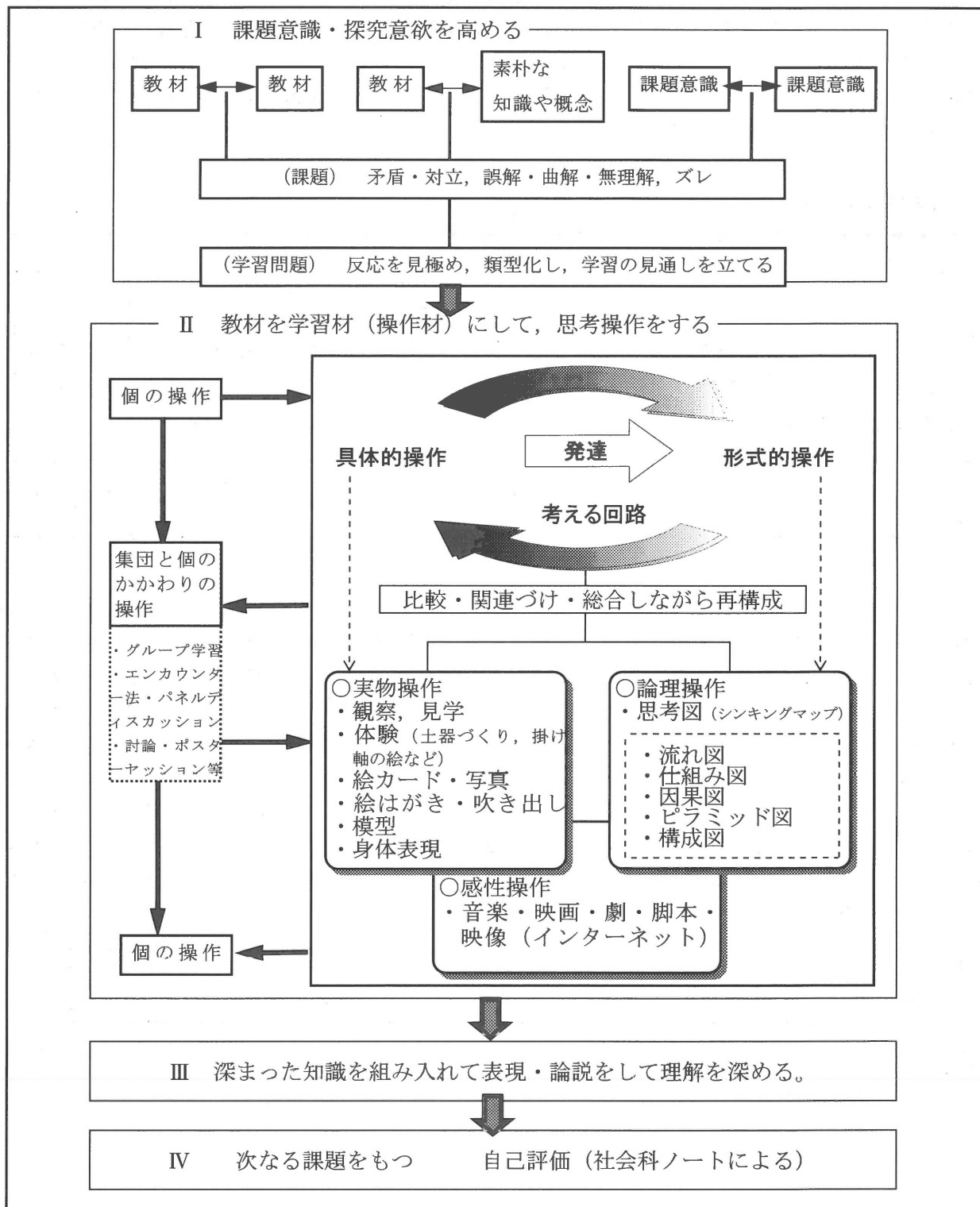


また、今回、学習材の開発により、より深まった思考力の育成が期待できる。思考力は、既有的知識の上に、新しく学んだことを取り入れて、比較・関連づけ・総合しながら再構成を行い、新しい知をつくり上げていく過程で育まれる。教師は、子どもがどのような思考の過程を経て、新しい概念を再構成していくのか見通しておくことが必要である。それができていなければ、適切な支援を行うことは難しい。そこで、今年度は、学習材の開発に合わせて、「思考の構造」(子どもが思考する道筋)を明らかにすることを研究していきたい。その中心として、「思考図」(シンキングマップ)の活用を置き、研究したことが日常の授業場面で具体的に活用できるようにしていきたい。思考図(シンキングマップ)とは、考えを図式化することによって、発想の個別化と個性化を目的にしたもので、アメリカのハイルー氏やイギリスのベン氏などによって発表されたものである。その内容は、次のようなものである。その具体例については、次のページで紹介する。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| ① ○ (円) で考える  | ② - (線) で考える |
| ③ □ (四角) で考える | ④ 重ねる・立体で考える |

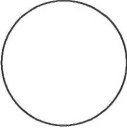
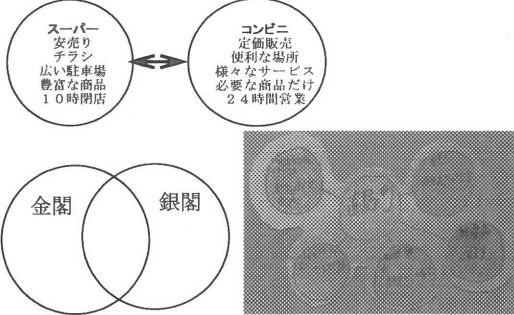
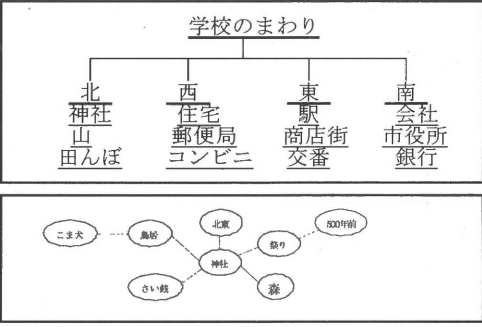
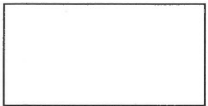
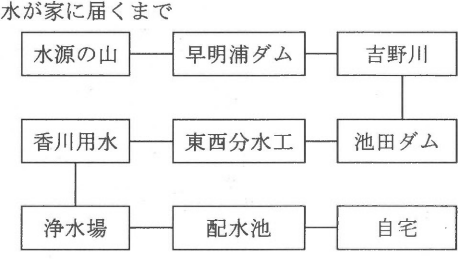
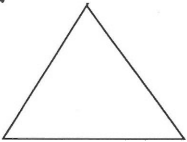
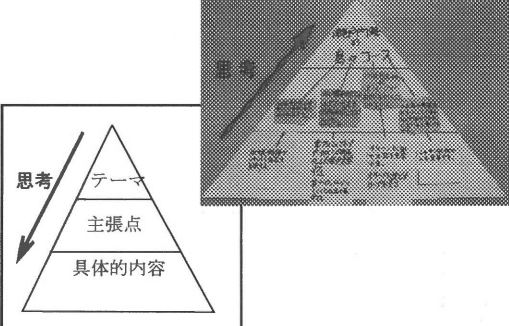
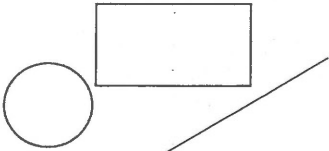
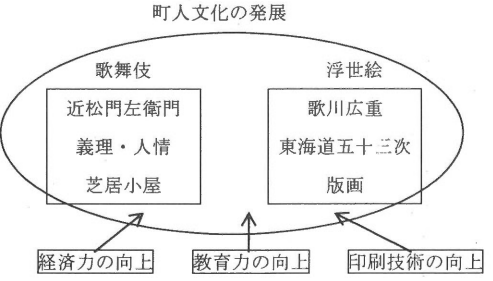
では、まず子どもがどのような思考の過程を経て、新しい概念を再構成していくのか、その思考の過程について次頁の図をもとに見ていきたい。

# 〈子どもの思考の過程〉

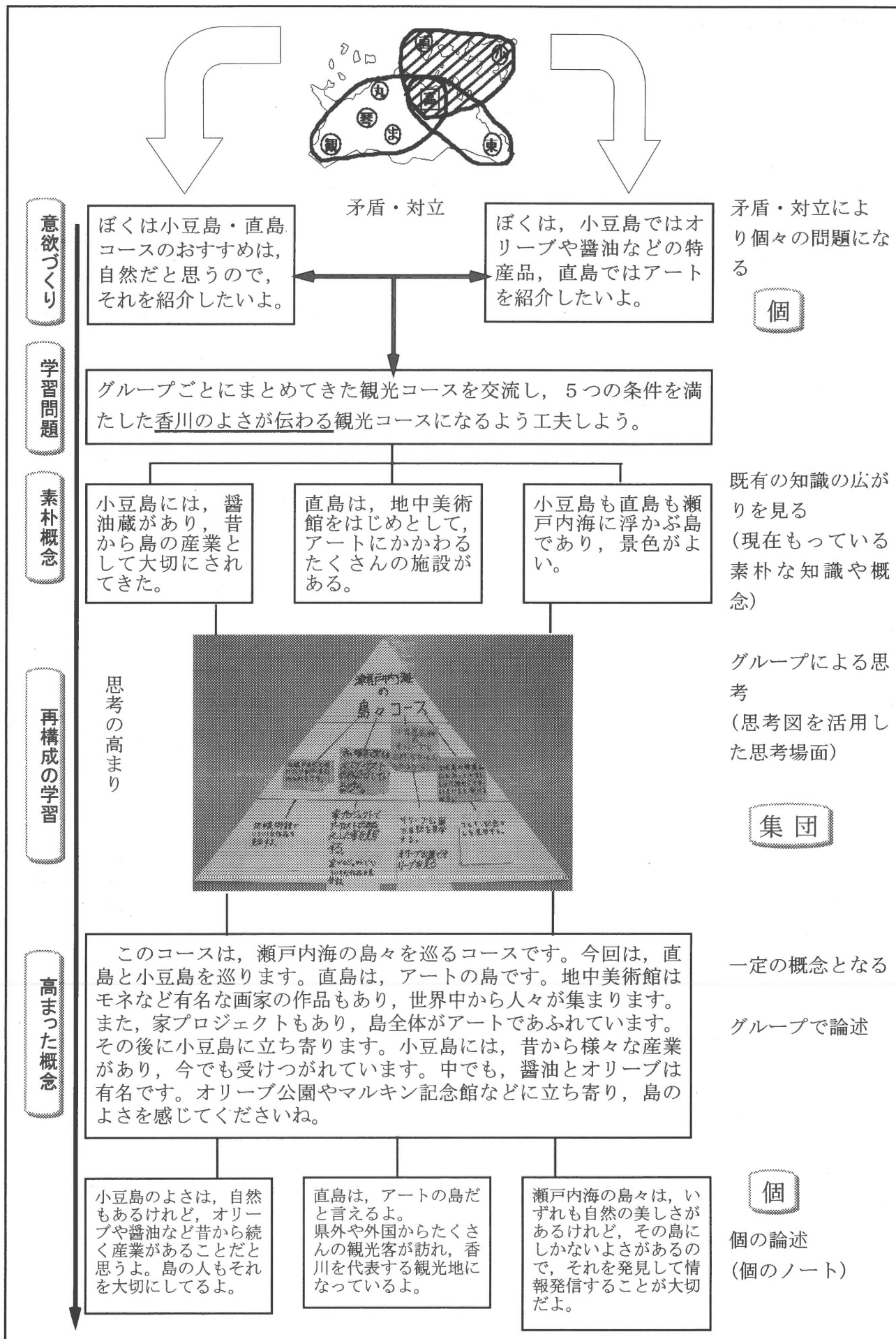


次に、思考図(シンキングマップ)の具体例を示す。

〈思考図(シンキングマップ)の5つの型〉

|   | 名称                                                                                                                            | 思考の様相                                           | 例                                                                                    |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | サークルマップ<br>丸<br>                             | 分析する<br>比較する<br>仲間分けをする<br>自分の考えをふくらませる         |    |
| ② | ツリーマップ<br>線<br>                              | 考えを整理する<br><br>自分の考えをふくらませる<br><br>発想を広げる       |   |
| ③ | フローマップ<br>四角<br>                           | 順序性を明らかにする<br><br>原因と結果をつなぐ                     |  |
| ④ | ピラミッドマップ<br>三角<br>                         | 自分の考えを積み上げていく<br><br>考えを概念化する<br><br>主張点を具体で述べる |  |
| ⑤ | コンストラクションマップ<br>丸, 四角, 線等の<br>構成・組み合わせ<br> | いくつもの考えを<br>構造化し、整理する                           |  |





### (3) 研究の視点② 個に応じた学習と集団と個のかかわり

～個に応じた学習を進めるよう「集団の中での個のかかわり」を明らかにする～

#### ① 「集団と個のかかわり」とは

「集団と個のかかわり」は、集団の中での個のかかわりを意味する。従来、「個」と「集団」については、まず、個を育て、「集団」づくりをするという考えに立っていた。しかし、そうではなく、社会性の発達の研究から「集団」の中で「個」を育てるように進められ、「協働性」を育てることとして、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領に示されている。このことから、低学年は主に「対話」を、中学年以降から小集団、大集団でと、広まり、深まっていく。しかし、学習論には必ず、「個」→「集団」→「個」の過程を大切にしたいものである。

そこで、「集団と個のかかわり」の意味を述べておく。集団の中での個のかかわりの姿としての仲間グループは、学校での学びの中で自然に形成されたり、教師の意図性によってつくられたりする。その集団で個と個が納豆の糸のように「引き合い」「粘り合い」ながら、集団をつくり上げていくのである。

そこで、この集団の中で個と個が引き合う意味を考えてみたい。これには、2つの様相がある。

1つは、集団の中での個のかかわりが「個性」を育てることになることである。すなわち、個性を生かし、伸ばすことを、子のよさを伸ばすと考えたい。その様相には、次の3つの面がある。

◎知的な能力としての「知力」

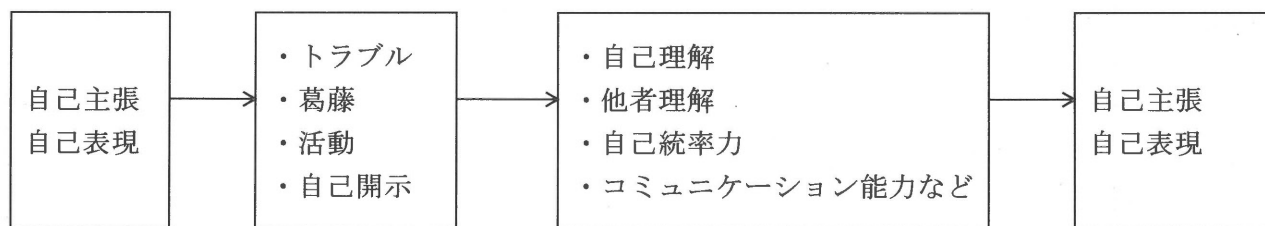
◎感じる力、活動する力、技としての力などの「表現力」

◎人柄とか性格としての「人間力」

このことから、集団と個のかかわりについてみる観点は、知力・表現力・人間力という観点であり、学習に際しての支援・援助の観点になったり、学習記録の観点になったりする。

2つには、集団の中での個のかかわりが、「集団の中での生きる力」を育てることになることである。すなわち、「社会性」を育てることである。仲間との学び合い、互いの「引き合い」の中で、トラブルや葛藤が生じ、それを解決するには、相手の行動の意図や要求に気づくことや、自分の意図の中で一人一人が仲間意識を持ち、自分の役割の自覚や責任感、みんなの役に立つことの喜び、他人のことを考え、自分を制御することなど、相互に引き合いながら調整していく。その中で、自我の発達を伴いつつ、他者理解を深めたり、社会のルールを身につけたり、自己統制力やコミュニケーション能力を身につけたりしていく。この様相は、次のようにとらえることができる。

◎ 集団の中での個のかかわりをみる観点

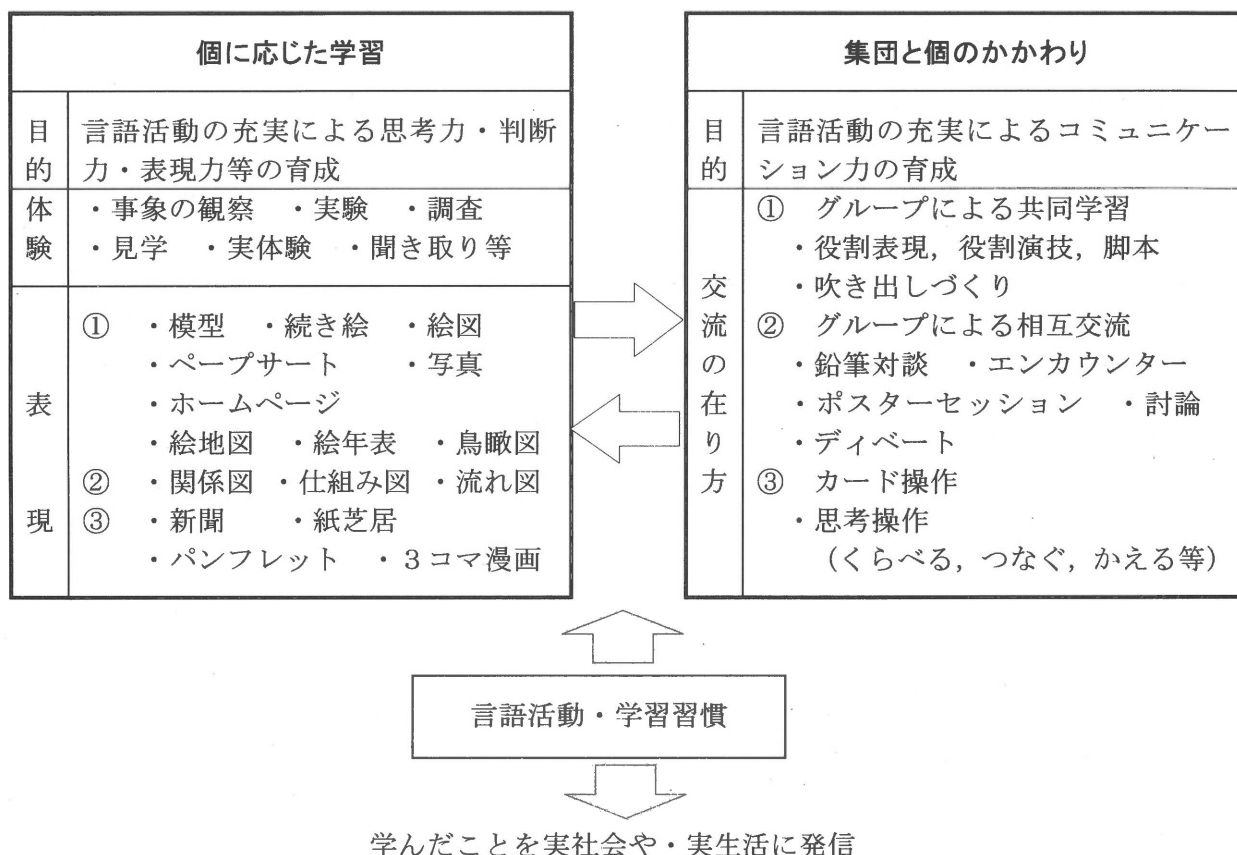


この「集団と個のかかわり」の活動は、相互交流として先の「思考の構造」で示したように、具体的には、グループ交流、エンカウンター交流、パネルディスカッション、討論、ポスターセッション等である。

#### ② 「個に応じた学習」について

ところで、下図のように、「集団と個のかかわり」を大切にしたい個に応じた学習を進めることは、今求められている学習論の最大の課題なのである。それには、1つは、A個のもつ学習の個人差をどうみるかである。認知心理学では、「学習者が外界からの刺激や情報を取捨選択して取り入れ、それを分類し、変換して記憶したり、判断したりして自分の知識の体系の中に組み入れていく認知過程」

を重視する。しかも、その操作の仕方には、個人差があることを認め、学習者それぞれの認知スタイル、学習スタイルを考慮していくとしている。2つには[B]個に応じた学習を集団と個のかかわりを大切にして取り組む学習方略及び支援方略は、「学習の効果を高めることを目指して意図的に行う行動」であり、特に言語活動や学習習慣について研究を行うものである。



## A 個人差のとりえ方

### ア 認知スタイル

|            |                                                                             |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 場独立型<br>↑↓ | 場全体の全体的な影響を受けないで、特定の対象を容易に認知するタイプ。仲間の考え方に影響されることが少なく、興味や好奇心に対する内発的な動機づけが強い。 |
| 場依存型       | 場全体の影響を受けて、特定の対象を分離して認知するタイプ。他人の存在や考え方に左右されたり、外発的な動機づけが強い。                  |
| 熟慮型<br>↑↓  | 課題が不確かなとき、思慮深く、慎重に反応するタイプ。問題解決において無駄の少ない解決行動で、よりよい方策を探す。                    |
| 衝動型        | 衝動的に思いつきで反応するので、拡散思考に向くが、非能率的な問題解決を示す。                                      |

### イ 学習スタイル

学習は、学習者の積極的な役割を認め、知的操作を強調し、しかもその操作のしかたに個人差があることを認める。学習スタイルは、知覚・記憶・思考などの認知活動の様式に対する好みから、どんな場面で、どんな学習活動に訴えて学習するのを好むかといった、学習環境、学習活動のスタイルをいう。学習スタイルは、認知スタイル、学習方略を含めてとらえることができる。学習の個別化が強調され、重視されていることから、学習スタイルも個人差の一つとして考えることができる。

**B** 学習を効果的に行う方略

|           | 学習材の開発による                                     |                                                                                                                                                  |
|-----------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 個に応じた学習   | <p>〈学習方略〉</p> <p>言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成</p> | <p>① 事象への働きかけ</p> <p>○ 観察・体験・調査・調べ</p> <p>② 学習類型と学習材</p> <p>○ 教材反応習得学習</p> <p>○ 反応類型活用学習</p> <p>○ 課題選択探究学習</p> <p>③ 表現と学習材</p> <p>～情報発信のために～</p> |
| 集団と個のかかわり | <p>〈支援方略〉</p> <p>言語活動の充実を図るコミュニケーション力の育成</p>  | <p>① 学び方の系統と多様性と発達段階</p> <p>② 学習スタイルと相互交流</p> <p>③ 達成目標 「ラーニング目標」とパフォーマンス課題、ルーブリック</p>                                                           |

**③ 「個に応じた学習」を支える言語活動と学習習慣**

ア 言語活動の充実

⑦ 言語活動とは

○ 言語活動の充実の在り方

研究テーマにある思考力の育成を考えていく際に、言語活動の充実ということは避けて通れない。なぜなら、今回の指導要領の改訂においては、活用する力(思考力・判断力・表現力等)を育成するために欠かせないものとして、言語活動の充実が図られた経緯があるからである。「個に応じた学習」と「集団と個のかかわり」という学習論に入る前に、まず、社会科として言語活動の充実をどうとらえたらよいのかということをはっきりと明かにしておきたい。

○ 言語活動にかかわる問題点

最近の実践において、言語活動の充実が一人歩き(自己目的化)して、文字どおり言語活動を取り入れることに懸命で、思考力・判断力・表現力等を育むという本来の意図が必ずしも生かされていないことが問題ではないだろうか。思考力・判断力・表現力等は、「付けたい力」でありながら、「付いていない力」になりがちである。

○ 言語の役割は何か

各学校で子どもたちの思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、レポートの作成、論述といった知識・技能を活用する学習活動を教科で行い、言語の能力を高める必要がある。言語の能力は、(中略)子どもたちが他者や社会とかかわる上でも必要な力である。

(中教審答申より抜粋)

〈言語の役割〉



○ 子どもたちの思考力・判断力・表現力(=知的活動(論理や思考)の基盤))

○ 子どもたちが他者や社会とかかわる上で必要な力

(=コミュニケーションや感性、情緒の基盤)

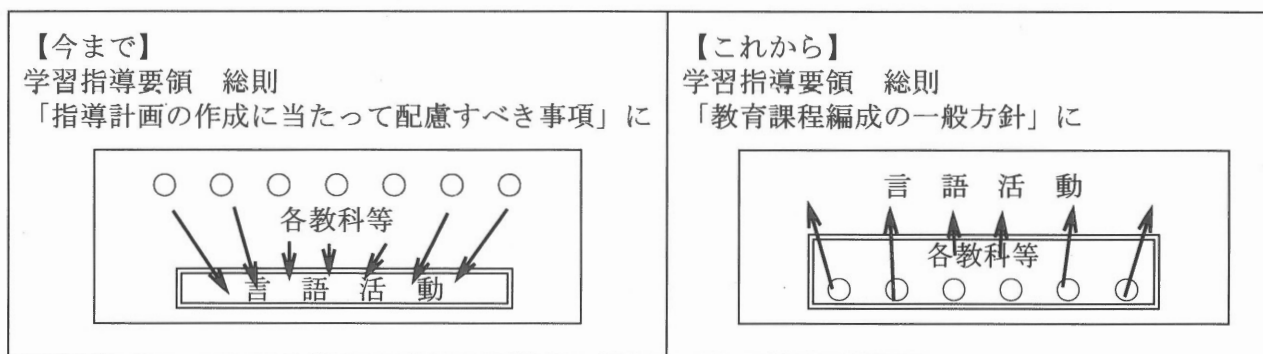
○ 非言語コミュニケーションの重要性

人間はコミュニケーションを行う時、言葉を使い互いの感情や意思を伝えあってもいるが、「目は口ほどにものをいう」といった諺にも示されているように、言葉よりも、顔の表情、視線、身振りな

どが、より重要な役割をになっていることがある。日常的に人間は複数の非言語的の手がかりを使いメッセージを伝達しあっている。子どもたちが集団の中で他者とかかわる際に、言語によるコミュニケーションと合わせて、非言語によるコミュニケーションも重視していかなければ、真の交流にはならない。

④ 学習指導要領における言語活動のとりえ方

○ 今までとこれから



○ 教育活動全体でとらえる言語活動であるために  
言語活動とは

「教科等で学んだ基礎・基本の事項や内容を，実生活や実社会の事象とのかかわりの中で，自分の思いや考えを目的をもった流れとして，論じ，語っていく活動」としてとらえる。

② 「国語科における言語活動の充実」と「他教科における言語活動の充実」のちがいは何か

○ 国語科における言語活動の充実

- ・ 目的・手段の二重性
- ・ 言語能力の育成それ自体が目的

- ・ 的確に理解し，論理的に思考し表現する能力
- ・ 互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力
- ・ 感性や情緒

- ・ 思考力・判断力・表現力等を育成する手段

○ 各教科等における言語活動の充実

- ・ 各教科等における言語活動は，教科のねらいを効果的に達成するその手段であるとともに思考力・判断力・表現力等を育成する手段



言語活動の充実が（とりわけ国語科以外の教科では）それ自体を目的とするのではなく，「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ」ために取り入れられている。つまり，言語活動の充実は，「思考力・判断力・表現力等の育成」の効果的な方法・手段として位置付けられる。

⑤ 社会科においてどう言語活動の充実を図ればよいのか

○ 各学年の目標の改訂

「調べたことを表現する」→「調べたことや考えたことを表現する」

○ 言語活動の充実にかかわって重視したいこと

各学校においては，地域の実態を生かし，①児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに，②観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。  
(指導要領解説 社会科「指導計画の作成と内容の取り扱い」より抜粋 番号下線は大嶋)



①については、地域にある素材を教材化すること、地域に学習活動の場を設けること、地域の人材を積極的に活用することなどに配慮した指導計画を作成し、児童が興味・関心をもって楽しく学習に取り組めるようにすることが重要である。児童が実物や本物を直接見たり触れたりすることを通して社会的事象を適切に把握し、具体的、実感的にとらえることができるようにすることが大切になってくる。このことが、社会科における言語活動の基盤となる。

②については、調査・見学、体験などによって分かったことや考えたことなどを適切に表現する活動を効果的に位置付け、調べたことや考えたことを表現する力を育てる必要がある。調べたことや考えたことを表現することを通して、思考力の育成が図られる。ここに言語活動充実の意味がある。

#### ○ 学習の進め方における具体的工夫

- ・ 問題解決的な学習の充実
- ・ 観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手して的確に記録する
- ・ 入手した情報を比較・関連付け、総合しながら再構成する
- ・ 考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく

#### イ 学習習慣の確立

##### 〈学習習慣〉

「自主教材」は、子どもたちが自主的に収集した参考図・インターネットなどの資料を教材化したものであるが、子どもたちが資料を収集するのは、主に学校図書であったり、家庭であったりする。そこでは、どうしても子どもによって、調べる資料の収集する意欲をもつての学習習慣が大切になってくる。学習習慣を育てるとは、次のような要件が考えられる。

①授業がよく分かることが学習習慣の基盤となる。

②自分にもできるという成就感が学びの習慣づけになる。

③家庭学習が、授業とかかわりが深いほど学習習慣が育てられる。

④家庭学習の方法（学習ガイド等）が発達段階と応じて工夫されている必要がある。

⑤家庭学習は、学習習慣として、教師、家庭の励まし、認められることが効率を高める。

そして、子どもたちが仲良く協力的な関係の中で、安心・安定感のある学級・学校であることが大切である。そんな中で、学習習慣（学習ルール）は学校全体で発達を踏まえながら大きな枠組みがあり、その枠組みの中で、学級の特色を出すという調和が必要である。学習の準備、話の聞き方、発言の仕方、ノートの書き方、いろいろな活動の仕方など多様な場面で、学校のルールの中で学校として教師と子どもが創り上げていくものである。

とにかく、教師は、「子どもが話し合いを楽しんでいるか」「子どもの思考をたくさん引き出しているか」「子どもの声をしっかり聞いているかを常に見て評価することが望まれる。」

## Ⅳ 研究主題を探究する具体策

### 1 学習観を明らかにもつこと

#### (1) 求める学習観

学習とは、「子どもを白紙の状態」としてとらえるのではなく、子どもが現在持っている「素朴な知識や概念」を組み替えたり、既有知識を強化する活動として捉える。そこでは、教師は、子どもが現在持っている「素朴な知識や概念」を捉えるために、子どもの反応を類型化して捉えることが大切になる。また、子ども自身が、①意欲をもって課題や問題に向かって積極的に学習に参加し、②じっくり観察・分析・批判し、③それを土台に創造的な発想を生かし、④深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深め、その過程で自分自身をモニタリングする評価を加え、⑤課題や問題を解決していく学習観、すなわち「再構成する学習観」に立つのである。

そこで、この学習観を支える「学習の要訣」を次に述べる。

## (2)「学習の要訣」

子ども主義の学習観に立つ「学習の要訣」を、4つ挙げておく。

### ① 子ども中心

教師は、「何を教えるか」より「いかに教えるか」に立つ。教材を指導する「指導観」中心から、子どもの学ぶ意欲を常に中核におく進行役、介助役の役目をもつことから、学習材の開発を重視する。

### ② 批判的思考

批判的思考とは、注意深く、より正確な論理的思考である。何が問題なのかを見極めたり、データを集めて問題と照らし合わせたり、比較、関連させたりする論理的な方法により、問題に対する批判、考え方を展開し、「理論的な裏づけ」をする思考である。単なる懐疑的な批判ではなく、理論的な批判である。

### ③ 創造的思考

創造的思考とは、自主的で個性的なさまざまな視点から考えて、論理的、批判的な思考を交えながら既存の定義にとらわれない思考である。

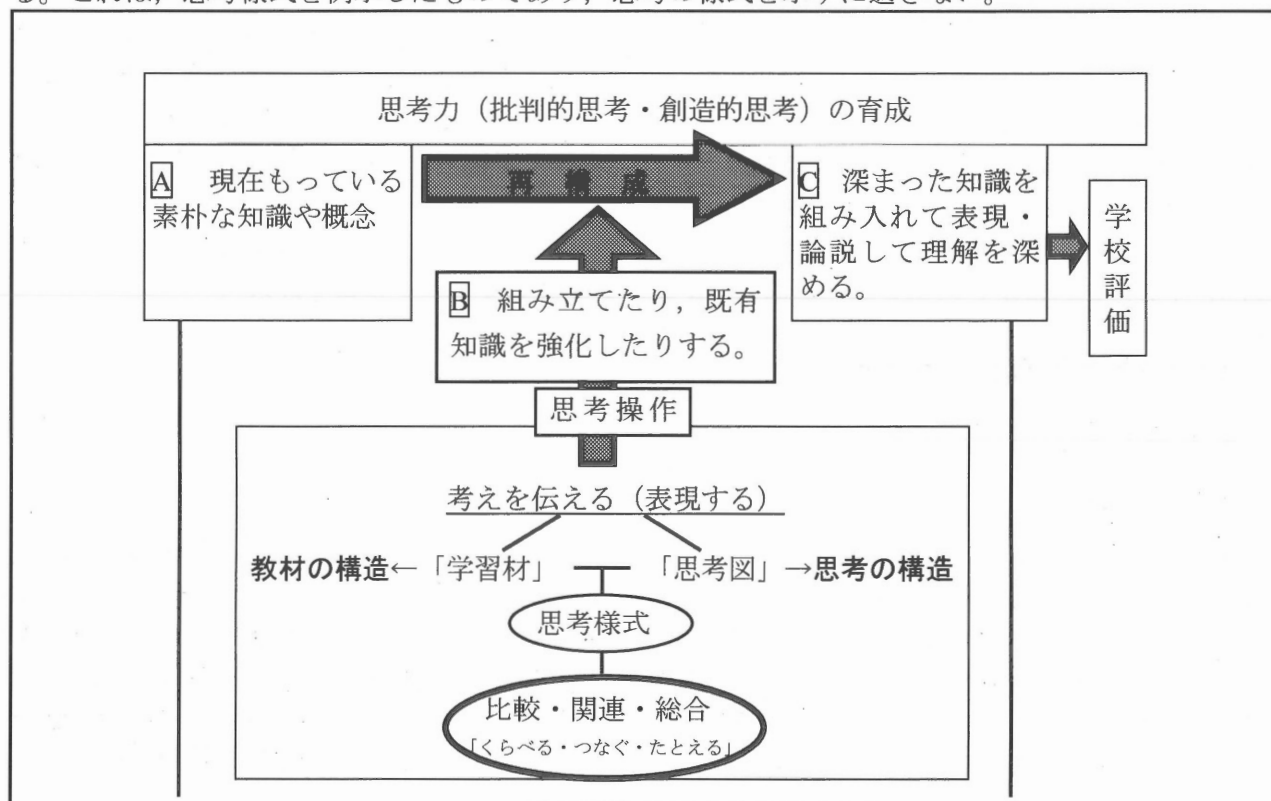
### ④ 課題や問題解決と評価

課題や問題解決に向けて学習評価を行いつつ、探究的に取り組む能力や態度を育て、学校評価につなぐ。

## 2 考える力を育てる学習に取り組むために

### (1) 考えを伝える(表現する)スタイルによる ～批判的思考と創造的思考を育てる「思考図」の開発～

考える力を育てる学習を組むには、先に述べた研究の視点①「学習材の開発」と研究の視点②「個に応じた学習と集団と個のかかわり」を踏まえた研究を行う。思考力と表現力の育成については、新学習指導要領に活動例として「比較・関連・総合」(くらべる・つなぐ・たとえる)などを表示している。これは、思考様式を例示したものであり、思考の様式を示すに過ぎない。



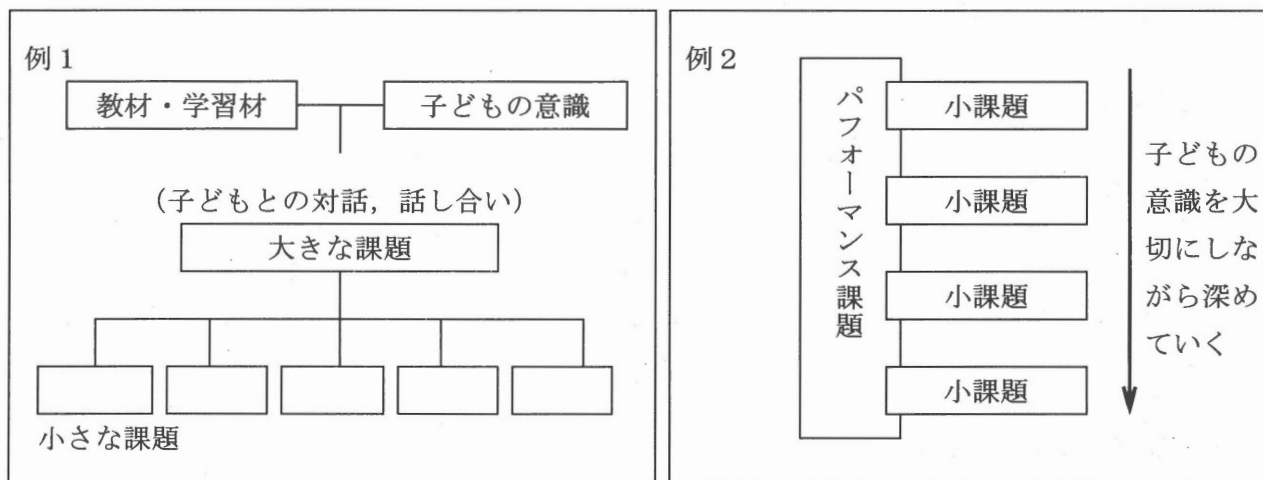
思考力は、図のように、**A**「現在もっている素朴な知識や概念」を、**B**「組み立てたり、既存知識を強化したり」して、**C**「深まった知識を組み入れて表現・論説して理解を深める」よう再構成することによって育てられる。すなわち、思考力は**A**から**C**に高めることによって育てられる。その高める過程の活動が、思考様式の活動であり、自分自身をモニタリングによる評価をしながらの活動である。

この思考様式による活動は、考えることと伝える・表現することと合わせて「考えを伝える(表現する)」活動である。そのための「思考図」の開発が望まれることについては、先に述べたとおりである。

## (2) 課題・学習問題関与意欲を高める

### 〈課題・学習問題関与意欲〉

考える力を育てるには、課題や学習問題を解決する問題解決的な探究の学習において、課題や学習問題に関与する力の意欲が強いことがポイントである。では、課題を学習問題に関与する意欲を高めるにはどんなことを工夫すればよいか、図で示してみる。



## (3) 授業のタイプにより学習の性格を明らかにする

授業は、いつでも同じようなスタイルで行うのではなく、授業のタイプによって学習方法を変えていくことが大切である。下に、授業の3つのタイプを示す。

- ① **教材反応学習**・・・基礎・基本の事項の徹底や学び方の確実な習得をねらいとする授業のタイプである。地図指導や資料の読み取り、事項や用語の把握を図り、きちんと分かることを徹底する授業である。教師は、子どもの教材への反応を見極め、「個別化」のための援助、指導を行う。
- ② **反応類型学習**・・・大まかな授業の流れとしては、まず、どの子ども共通に基礎・基本の事項をつかむ。そして、その事項をもとに、表現と思考を組み合わせながら基礎・基本の内容に高めていく。子ども自らが、自分たちの反応を類型化する過程で、教師は個々の反応を見極め、指導の「個別化」と、学習の「個性化」を求めていく。
- ③ **課題選択学習**・・・子ども一人ひとりが、自らの興味・関心に基づいて課題を選択し学習を進める。そして、何を学ぶかという学習の対象となる教材の選択をする。と同時に、どのように学ぶかという学習の方法や進め方をも選択する。つまり、課題によって、教材と学習方法の選択が子どもに任されるのである。創意を生かした自他の学び方や考えのよさを認めながら、個性化を目指す授業の展開である。

#### (4) 内容による学習形態のちがい

| 内容    | 学習形態       | 特色                                                         | 学習材開発のポイント                                                             |
|-------|------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 習得の内容 | 教材反応<br>学習 | 一斉学習，個別指導<br>共通教材，共通表現<br>個別化，個人差に応じる学習                    | どの子にも <u>基礎・基本の内容の確<br/>実な定着をめざす個別的な学習材<br/>の開発</u>                    |
| 活用の内容 | 反応類型<br>学習 | 子どもの反応を学習材に<br>共通な課題や異なる課題の交流<br>により一定の概念をつかむ              | 習得した内容や方法を活用し， <u>活<br/>用する力（思考力・判断力・表現<br/>力等）を育成するための学習材の<br/>開発</u> |
| 探究の内容 | 課題選択<br>学習 | 課題づくり，課題選択<br>課題ごとの探究・表現<br>多様な見方・考え方による概念<br>の交流により個性化を図る | 選択した課題ごとに子ども自らが<br><u>個性を生かして探究していくこと<br/>のできる学習材の開発</u>               |

### 3 社会科ノートにより思考の構造の視覚化を図る

#### (1) 相互交流の視覚化を図る社会科ノート ～思考の構造の視覚化を図る～

##### ① 相手に分かりやすく，自分の考えを表現する

相互交流に入る前に，まず自分の考えを相手にとって見やすいよう表現することが大切である。それには，2の表現の仕方ですした関係図，仕組み図，流れ図，新聞などの表現物をしっかりしたものにすることや思考操作（くらべる，つなぐ，かえるなど）のあとをノートなどに残しておくことが大切である。相互交流には，まず，このことが前提になる。

##### ② 相互交流の視覚化を図る

相互交流は，音声言語で行われることが多いため交流後，どのような話し合いが行われたのか，交流によってどのようにお互いの考えを深められたのかが見えにくいのが現状である。そこで，音声言語での話し合いを文字化や図示化しながら，支援する方法について考えていきたい。

##### ③ 視覚情報化のポイント

###### ア 話し合いの手順を共有する

話し合いの方法が毎回異なるようでは，子どもたちも戸惑うことが多く，話し合いも深まりにくい。そこで，いくつかの話し合いの方法をパターン化しておき，その手順について，教師と子どもが共有しておくことが大切である。そのことによって，子どもたちは，話し合いにスムーズに入れるようになる。その共有の仕方であるが，クラスのあるグループをモデルとして，モデルの討議の進展に合わせて，教師がその構造をリアルタイムで板書し，視覚情報化することで話し合いの手順・ポイントを理解する方法がある。

###### イ 相互交流のあとを残す

例 グループによる話し合いの記録づくり

- ・ グループで1枚の記録づくり → 記録をもとにして他グループと交流 等

## 4 社会科ノートの評価につなぐ

### (1)「見える学力」「見えにくい学力」の評価

現在、学力は、知識や技能にとどまらず学習意欲、思考力、判断力、表現力等を含むものというとなえ方をし、その育成を重視した授業づくりが重視されている。

そのためには、次のような視点からの授業改善を行っていききたい。

- 通知表や指導要録の評定のためにだけあるのではなく、授業の中での形成的評価として機能させる。
- 評価は知識・技能といった見える学力だけでなく、思考力等見えにくい学力も評価対象にできるような評価方法を開発する。

#### ①「見える学力」の評価

「内容知」における「見える学力」とは、主に都道府県名、主な山地、河川等の名称、歴史的事象等の社会的事象についての知識・理解といった学んだ結果身に付いた知識であり、これはペーパーテスト等で測りやすい。このような基礎・基本の事項の理解の上に立つてこそ、その教科ならではの思考が可能になることは明白である。

#### ②「育てたい力(見えにくい学力)」の評価

その一方「育てたい力」としては、その子ならではの「基礎・基本の内容」が挙げられる。これは、その子の学習過程での発言や表現物から、その子の思考の流れを読み取り確実に「定着」しているかどうかを見取るわけであるから、テスト等では簡単には測れないものであろう。

また「方法知(学習力)」については、まさに「育てたい力」である。

学習力には、論述力、討論力、論理的思考力、問題を追究したり解決したりする力などがあるが、それ自体、数値化が難しい。これらの力は、ポートフォリオやグループエンカウンター、ポスターセッション等を体験していく過程で、しかも教師の適切な指導のもとに身に付いていく力でもある。

現在主としてなされている学習指導は、主として見える学力を数値化して、どの程度到達できたかを見取り、少人数指導等の指導法の工夫・改善により、知識や技能の習熟度によって評価する傾向が強くなり打ち出されているものである。しかし、それは一面的な取り組みでもある。

社会科授業では、自ら主体的に調べ、調べたことを効果的に表現し、表現と思考の連続によって社会的事象の本質について考え、深めていく力を育てていくことを大切にしたい。そのためにも、「見えにくい学力」の評価の工夫をより一層重視したいと考えたのである。

評価は、通知表や指導要録の評定のためにだけあるのではなく、授業の中での形成的評価として機能させる。そして、評価は知識・技能といった測りやすい学力だけでなく、思考力等測りにくい学力も評価対象にできるような評価方法を開発していくこととする。

|                | 測りやすい力                   | 測りにくい力                                          |
|----------------|--------------------------|-------------------------------------------------|
| 知 識<br>(内容知)   | 漢字・計算等<br>基礎・基本の事項(社会用語) | 基礎・基本の内容<br>表現                                  |
| 学 習 力<br>(方法知) |                          | ポートフォリオ<br>グループ・エンカウンター<br>ポスターセッション<br>ディベート 等 |

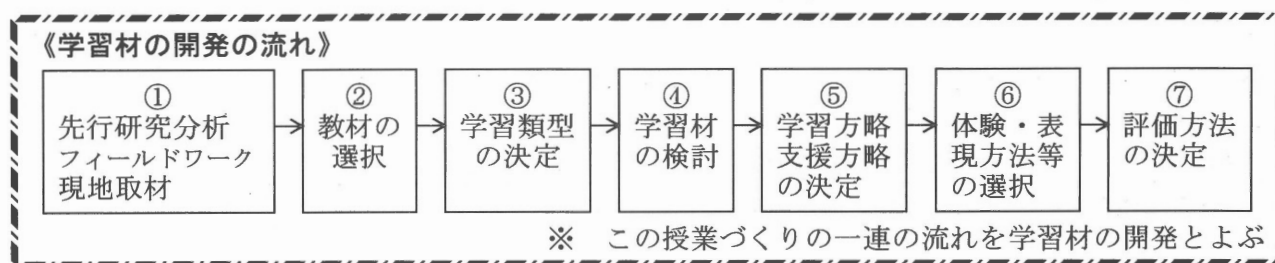
そこで、子どもの行動や作品に着目して評価するものとして、パフォーマンス評価がある。ただ、その行動や作品等を評価する基準が明示されない限り、評価としての客観性や信頼性を得ることはできない。そこで、この課題を克服するものとしてルーブリック(評価指標)づくりを考えている。

ルーブリックとは、学習課題に対する子どもたちの認識の質的な転換点に基準を合わせて評価の指標を段階的に設定する試みである。ルーブリックの研究実践を積んでいくことにより、より精度の高いルーブリックが作成され、到達目標の明確化による確かな学力の形成がなされるのではないかと考え、今後ルーブリックの開発を行っていきたいと考える。



## V 「考える力を育てる」学習の具体的実践事例 ～「4年 わたしたちの県」の実践より～

ここからの実践は、先にも述べた以下の「学習材の開発」の流れに沿ったものである。



### (1) 先行研究分析・フィールドワーク・現地取材

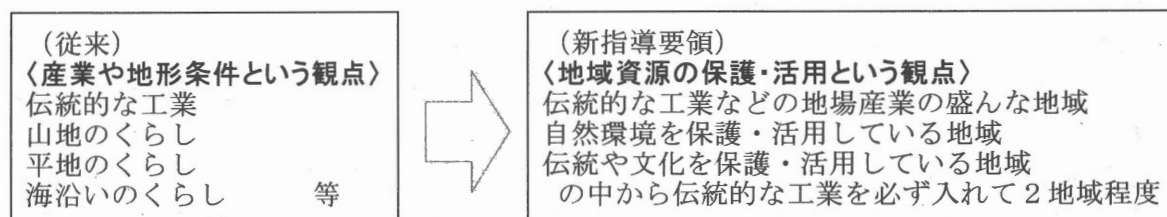
#### ① これまでとの大きな変更点

##### 新 設

- 我が国における自分たちの県（都、道、府）の地理的位置や 47 都道府県の名称と位置をおさえ、子どもたちに身に付けさせること。

##### 変 更

- これまで産業や地形条件から見て県内の特色ある地域の人々の生活が教材選定のポイントであったが、地形条件の内容が 5 年生に移行したため、4 年生においては、地域資源の保護・活用という視点から教材を選定することとなった。



#### ② この単元では、何を学ぶのかということをはっきりさせる

「県のように」の学習で学ぶべきは何であろうか。この学習のねらいの一つには、地域の活性化やよりよい地域づくりに協働して取り組む人々の生き方に触れ、社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことがある。中央教育審議会の答申の改善の基本方針の中でも、「公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視していく」と述べられている。自分の生活舞台である地域で社会参画の基礎を学ぶという視点が重要である。二つ目として、自分の住む県の特色が表れている事例であることが重要である。県を代表するような典型的な事例について学ぶことによって、県の特色を少ない事例からでも浮き彫りにすることができると考えている。以上の 2 つの面から事例を調べ、自分たちの住んでいる県の特色を考え、誇りと愛情を育てていくことが大切である。

今回、地域資源の保護・活用ということがクローズアップされ、移行措置を踏まえて各校でも実践されていることと思うが、この地域資源の保護・活用の内容は、まだ、副読本等でも作成されておらず、各校での教材研究によるところが大きいと思われるが、これまで述べてきた 2 つの点を重視しながら、事例地の洗い出しを行うことが大切であると考えている。

事例地を選定する際に考えたいことは次の 2 点である。

- 「地域社会の形成に参画する人々の知恵や汗が見えてくる」事例かどうか
- 「県の特色を語るのにふさわしい」事例かどうか

以上の視点を踏まえて、県内において、事例地として取り上げることが可能と思われる地域を挙げてみたい。県の学習では、自分たちの住んでいる地域以外の地域について学んでいくため、高松市以外の地域の中から事例地の候補を挙げてみたい。

## (2) 教材の選択

### ① 県内で取り上げることが可能だと思われる事例地(高松市以外)

#### ① 伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域

- ・ ア 丸亀市のうちわづくり

#### ② 自然環境などの地域の資源を保護・活用している地域

(渓谷や森林、高原や湿原、河川や海辺などの豊かな自然)

- ・ イ さぬき市大串半島周辺
- ・ ウ まんのう町(満濃池を生かした公園)

#### ③ 伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域

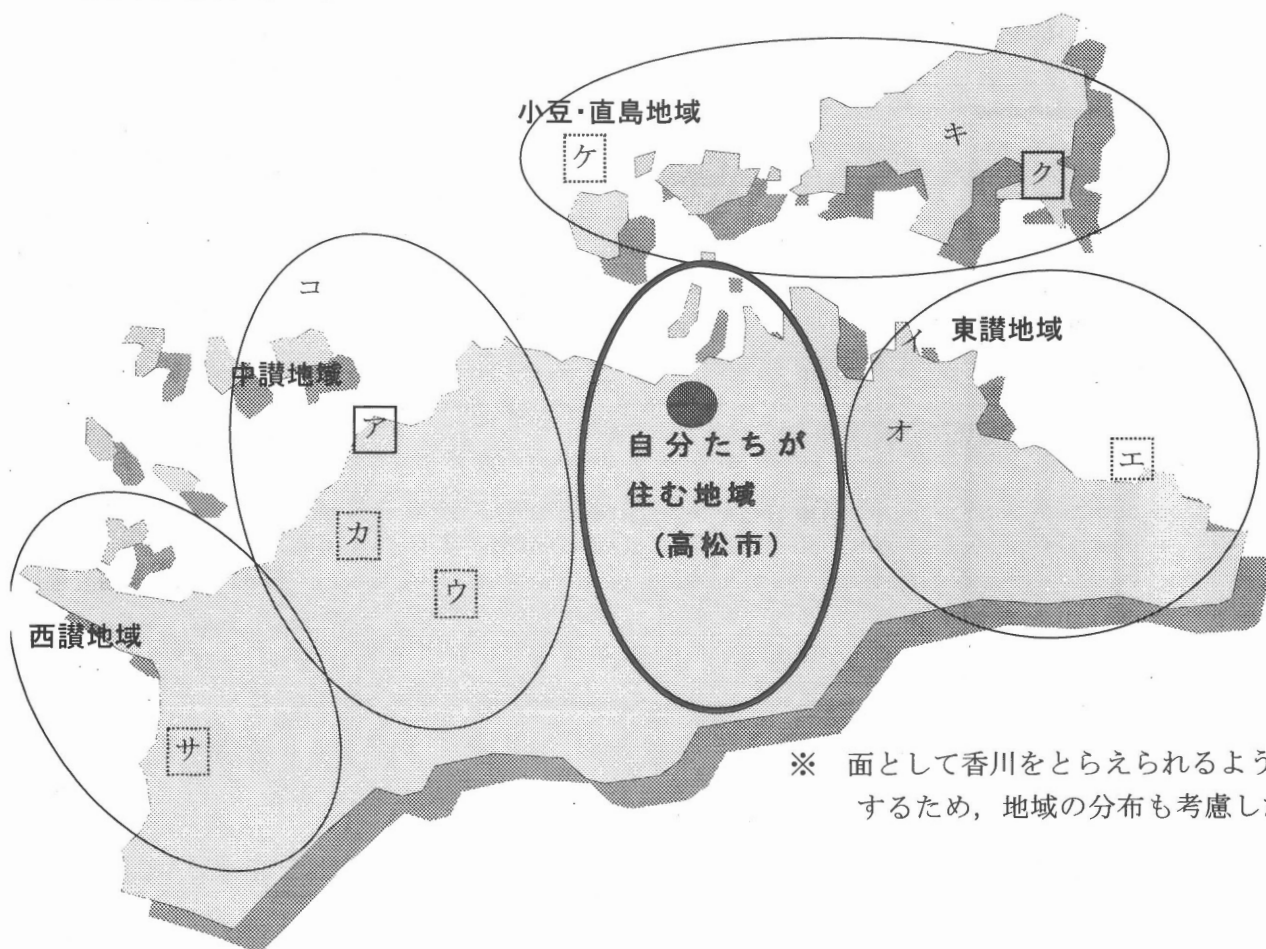
(歴史的な景観、文化財や年中行事、その土地の特性を生かした産物など)

- ・ エ 引田(歴史的町並み保存地区と和三盆糖づくり)
- ・ オ さぬき市(四国八十八カ所の遍路道を生かしたまちづくり)
- ・ カ 琴平(金丸座を復興し、それをもとにしたまちづくり)
- ・ キ 小豆島のオリーブ栽培(オリーブを生かした特産品づくり)
- ・ ク 小豆島町苗羽地区(醬の里での醤油づくりと、町並み保存)
- ・ ケ 直島(アートの町を支える地域の力)
- ・ コ 本島(塩飽勤番所と笠島歴史的町並み保存地区)
- ・ サ 観音寺市豊浜(ちょうさ祭を受け継ぐ住民の力)

□ は、今回習得の学習として一斉に学習を行った事例。

□ は、活用・探究の学習として課題別に調べを行った事例

### 【取り上げた地域の分布】



### (3) 学習類型の決定

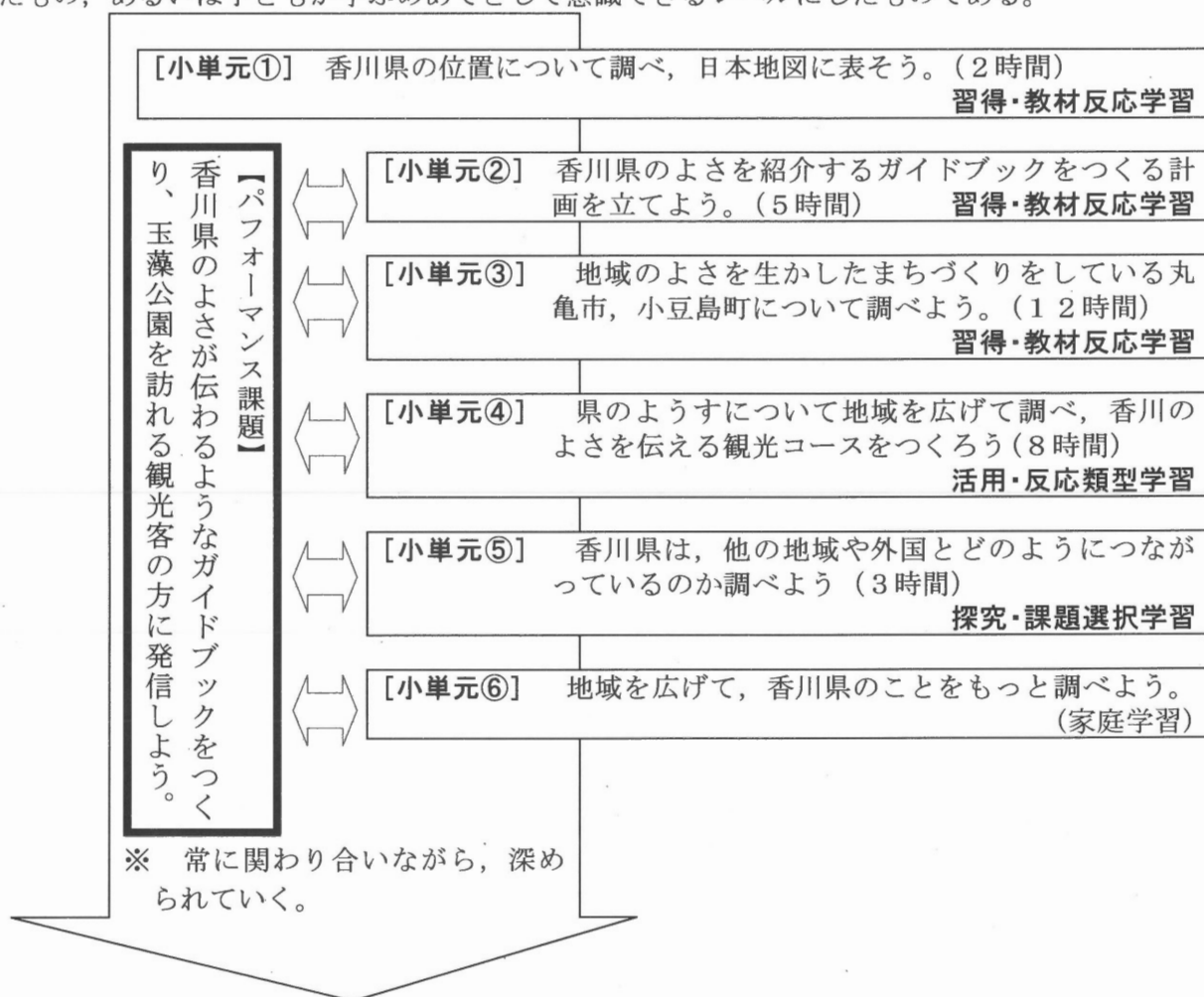
#### ① 本単元のパフォーマンス課題

社会科の学習として、ただ香川県のパンフレットをつくろうといっても、それは子どもの意識には沿っていない。やらされている感が残る。子ども自らが、主体的に取り組むようになるためには、子どもが意欲をもてるようにすることが大切である。総合的な学習の時間で玉藻公園（高松城跡）を調べているが、調べの中で、年々観光客が減ってきており、現在では、最盛期の約3割程度の観光客しかいないことを知った。そこで、社会科で香川県のことについて学んでいるので、香川県のよさをパンフレットにまとめ、玉藻公園を訪れる観光客に発信することで、観光客を増やしていこうということとなった。そこで、本単元におけるパフォーマンス課題を次のように設定し取り組むこととした。

香川県を訪れる観光客が、昔に比べずいぶん減ってきている。県も観光客の増加に向けて、いろいろな取り組みを行っている。そこで、香川県のよさが伝わるようなガイドブックをつくり、楷の木活動で調べている玉藻公園を訪れる観光客の方に発信することで、自分たちにもぎわいのある香川の実現に協力していこう。

#### ② 学習内容と学習形態

本単元は大まかにまとめると、下記のような構成になっている。パフォーマンス課題は、通常サイズの単元においては、そのみで課題として十分使えるものである。ただ、本単元は、全30時間という大単元であり、単元内に含まれる内容也多岐にわたることから、子どもにとって常に意識するには大きすぎる存在である。小単元は、それを子どもが学習として考えていくことのできるレベルにくだいたもの、あるいは子どもが学ぶめあてとして意識できるレベルにしたものである。



#### (4) 学習材の検討

県のようにすについて地域を広げて調べ、香川のよさを伝える観光コースをつくることをこの単元の大きな課題にしている。そこで、習得の学習で調べる内容や方法を学んだ後、子どもたちがその町のよさが伝わる壁新聞をつくる。そこには、香川のよさが伝わる内容が盛り込まれており、相互の交流によって、それぞれのまちのよさを知るのである。

ここでは、子どもたち自身がつくった右の写真のような壁新聞を学習材として、観光コースづくりに生かしていく。

#### (5) 学習方略・支援方略の決定、体験・表現方法等の選択

##### ① 本時における「活用する力」

「活用する力」とは、思考力・判断力・表現力等の学力の要素のことを指す。本時では、その中でも思考力にポイントを置く。ねらいとしたのは、総合的な思考である。具体的に述べると、これまで自分たちで調べてきたそれぞれの地域のよさ(点)をつないで、香川のよさ(面)をつかむことである。子どもの様相としては、「自然や伝統・文化、産業や人の営み、交通といった5つの観点を生かして、香川のよさが伝わるような観光コースを考え、香川の特徴を紹介文にまとめることができる」ことを想定した。

つまり、本時では、これまで学んできたことを総動員して、香川のよさが伝わる観光コースをつくるというパフォーマンスが求められる。その中で思考力を働かすのである。活用は、「単元で獲得した知識・技能やこれまでの学習や生活経験の中で、既に獲得している知識・技能をつなぎ、知識の組織をつくっていく」という学習の流れである。知識はつないだりつなぎかえたりすることで、いろいろな事態に遭遇しても活用できるようになり、柔軟に使える知識・技能となっていく。この点は、指導要領でも重視されている知識の再構成である。今まで学んできたことを総動員しなければ解決できないような状況設定をすることで、本校の研究テーマにもあるように、子どもは、自らの学びを高め、伸びを実感することができると考えている。

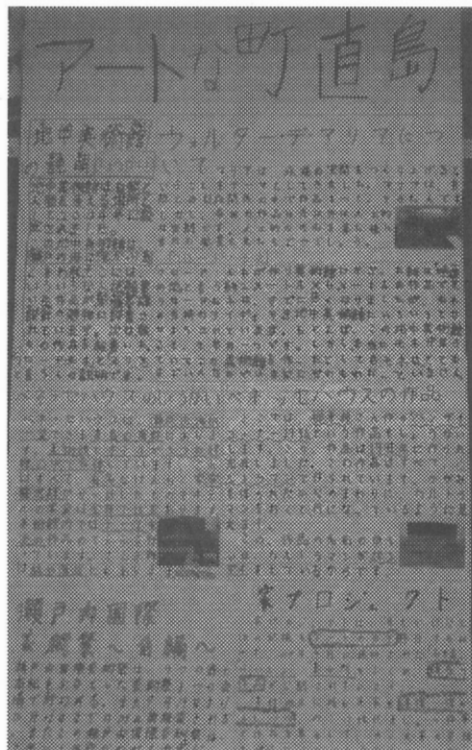
#### (6) 表現する中で思考力・判断力・表現力等を育成する

##### ① 前時までの思考操作の具体例

子どもたちは、前時までに5人が1組になって、自分たちが考える観光コースを考えてきた。この5人の組み合わせは、課題選択で5つの町を調べたが、それぞれの町を調べたものが1名ずつ集まって、1つのグループを構成している。

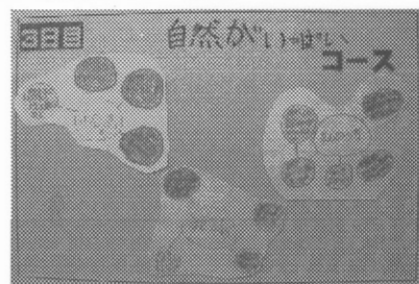
観光コースは、ただ、組み合わせればよいというのではなく、次の5つの条件を必ず満たすものとした。このことにより、どのように組み合わせればよいのかという思考が働く。

その組み合わせに活用したのが、右のようなバブルマップである。中央に、自分たちの調べた市や町の名前を入れ、そこから外に向かっていろいろな情報を書き出しておく。その情報は、5つの条件にかかわったものである。そして、7つの市や町のカード



##### 【コースをつくる5つの条件】

- 1 香川らしい自然環境のよさを感じられるか
- 2 伝統や文化のよさを感じることができるか
- 3 香川らしい産業のよさを感じられるか
- 4 地域を大切にしている人の思いにふれられるか
- 5 交通網を利用することで見学ができるか



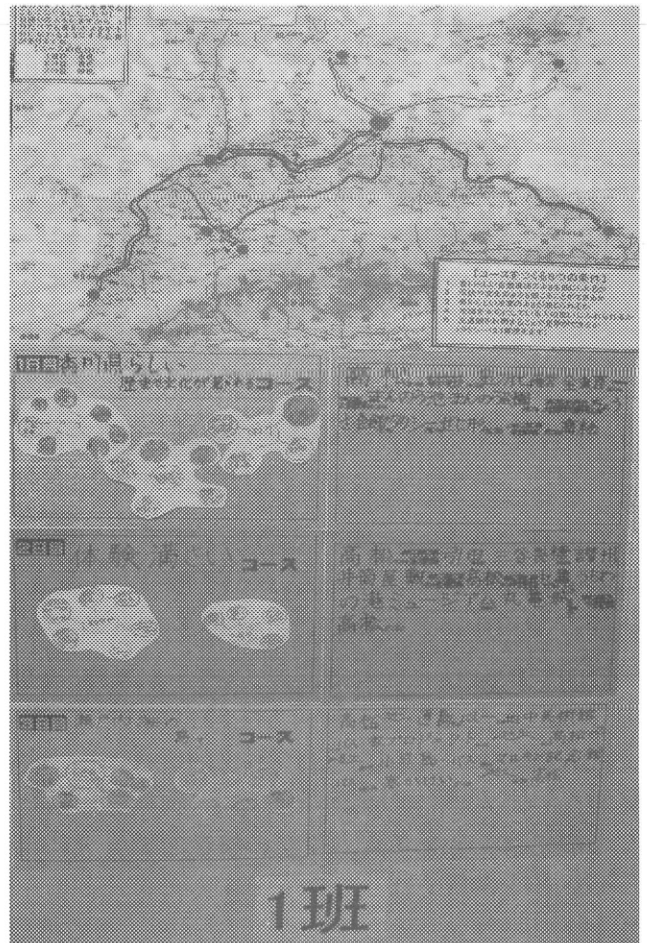
がそろった段階で、組み合わせていくのである。このことにより、何となく組み合わせという状況から脱却し、条件を組み合わせという思考操作を経て、観光コースをつくることができた。右の写真が、前時までに子どもたちがつくりあげたコースである。

本時では、2つのグループが交流し、よりよいコースをつくるということを目的にする。同じようなコースを考えているグループを交流させることによって、自分たちの考えるコースの充実を図っていきたい。

前時の終わりに、1日のコースの紹介文をノートに書かせてみた。順を追っては書けてはいたものの、主張したいことが明確になっておらず、羅列的になってしまった反省がある。

そこで、「さあ、書きましょう。」といっていきなり書かすのではなく、授業の中で、思考操作を取り入れながら、1日のコースを考え、そして、授業の終わりには、その思考図を使って、コース紹介を書くというように、授業を構成してみた。その際に活用したいのが、トライアングル思考図である。具体的な事実から概念を生み出し、構造的な文章が書けるように支援していった。

これまで述べてきたように、言語活動の充実、思考力の育成には欠かせないのである。次に、本時の操作の具体について、「えらぶ」「くらべる」「つなぐ」という思考の過程とつないで述べる。





〈具体例〉

4年 単元「香川のよさを地域資源の保護・活用から探る」

| 学 習 活 動                                                                                                                                                            | 自分の伸びを自覚していく過程                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------|---------------|--------------|-------------|--------|--------|---------|----------|--------|-----------|----------|----------|
| <b>【パフォーマンス課題】</b><br>香川県を訪れる観光客が、昔に比べずいぶん減ってきている。県も観光客の増加に向けて、いろいろな取り組みを行っている。そこで、香川県のよさが伝わるようなガイドブックをつくり、楷の木活動で調べている玉藻公園を訪れる観光客の方に発信することで、自分もにぎわいのある香川の実現に取り組もう。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| (前時まで)                                                                                                                                                             | 5つの条件（自然環境、交通網、伝統や文化、産業、人の営み）を入れてコースをつくったよ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 1 前時までに学習してきたことをふり返り、本時のめあてをつかむ。                                                                                                                                   | <div><div>A</div><div>B</div><div>C</div><div>D</div></div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| <b>I 課題意識・探究意欲を高める</b>                                                                                                                                             | グループごとにまとめた観光コースを交流し、5つの条件を満たした香川のよさが伝わる観光コースになるよう工夫しよう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 2 グループで考えたコースを交流し、よさが伝わるコースについて考える。                                                                                                                                | <table><tr><td>琴平を中心にアートや気になる食べ物何でもあります。</td><td>方面別に設定されていて見どころ満載。無理なく回れます。</td><td>興味があるものごとのプランです。好きなコースからどうぞ。</td><td>どのコースも充実しています。香川のよさを感じてください。</td></tr><tr><td>アートコース</td><td>島周遊コース</td><td>島周遊コース</td><td>醤油と産業コース</td></tr><tr><td>金比羅コース</td><td>和三盆コース</td><td>伝統文化コース</td><td>芸術と産業コース</td></tr><tr><td>特産品コース</td><td>見どころ満載コース</td><td>芝居・祭りコース</td><td>自然と祭りコース</td></tr></table> | 琴平を中心にアートや気になる食べ物何でもあります。             | 方面別に設定されていて見どころ満載。無理なく回れます。  | 興味があるものごとのプランです。好きなコースからどうぞ。                                          | どのコースも充実しています。香川のよさを感じてください。                                | アートコース | 島周遊コース        | 島周遊コース       | 醤油と産業コース    | 金比羅コース | 和三盆コース | 伝統文化コース | 芸術と産業コース | 特産品コース | 見どころ満載コース | 芝居・祭りコース | 自然と祭りコース |
| 琴平を中心にアートや気になる食べ物何でもあります。                                                                                                                                          | 方面別に設定されていて見どころ満載。無理なく回れます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 興味があるものごとのプランです。好きなコースからどうぞ。          | どのコースも充実しています。香川のよさを感じてください。 |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| アートコース                                                                                                                                                             | 島周遊コース                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 島周遊コース                                | 醤油と産業コース                     |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 金比羅コース                                                                                                                                                             | 和三盆コース                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 伝統文化コース                               | 芸術と産業コース                     |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 特産品コース                                                                                                                                                             | 見どころ満載コース                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 芝居・祭りコース                              | 自然と祭りコース                     |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| (1) お互いのコースについて紹介する。                                                                                                                                               | <div><div>A' B'</div><div>C' D'</div></div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| <b>II 教材を学習材(操作材)にして、思考操作をする</b>                                                                                                                                   | <table><tr><td>交通機関を考え、方面別のよいところを生かしながら、特色が出るコースにしよう</td><td>島のよさ、職人の技をまず見てもらうコースを考えたいよ。</td></tr><tr><td>自然とアートコース</td><td>芸術・産業コース</td></tr><tr><td>特産品コース</td><td>受け継がれる職人の技コース</td></tr><tr><td>金比羅と自然・祭りコース</td><td>自然・祭り・芝居コース</td></tr></table>                                                                                                                                              | 交通機関を考え、方面別のよいところを生かしながら、特色が出るコースにしよう | 島のよさ、職人の技をまず見てもらうコースを考えたいよ。  | 自然とアートコース                                                             | 芸術・産業コース                                                    | 特産品コース | 受け継がれる職人の技コース | 金比羅と自然・祭りコース | 自然・祭り・芝居コース |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 交通機関を考え、方面別のよいところを生かしながら、特色が出るコースにしよう                                                                                                                              | 島のよさ、職人の技をまず見てもらうコースを考えたいよ。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 自然とアートコース                                                                                                                                                          | 芸術・産業コース                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 特産品コース                                                                                                                                                             | 受け継がれる職人の技コース                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 金比羅と自然・祭りコース                                                                                                                                                       | 自然・祭り・芝居コース                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| (2) 2つのグループが協同して新しいコースをつくる。                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 3 全体で交流する。                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 4 旅行会社の方の話を聞く。                                                                                                                                                     | 旅行会社の方の話                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
|                                                                                                                                                                    | A" B" C" D"                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 5 コースの紹介文を書く。                                                                                                                                                      | よさの生かし方は違うけれど、県内各地で自分たちの住んでいる地域を活性化するための取り組みがされている。自然環境や伝統・文化などそれぞれの地域の特色を生かした人の営みがあり、県全体のよさを生み出している。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| <b>III 深まった知識を組み入れて表現・論説をして理解を深める</b>                                                                                                                              | <table><tr><td>例 (金比羅と自然・祭りコース)</td><td>例 (芸術・産業コース)</td></tr><tr><td>金比羅さんは歴史ある神社で、丸亀うちわは、金比羅参りの土産として発展しました。また、近くには満濃池の周りの緑を生かしたまんのう公園が・・・</td><td>島の景観を生かした美術館、昔ながらの醤油づくり、古いものと新しいものが入り交じり、島の文化をつくっています・・・・・・</td></tr></table>                                                                                                                                                                   | 例 (金比羅と自然・祭りコース)                      | 例 (芸術・産業コース)                 | 金比羅さんは歴史ある神社で、丸亀うちわは、金比羅参りの土産として発展しました。また、近くには満濃池の周りの緑を生かしたまんのう公園が・・・ | 島の景観を生かした美術館、昔ながらの醤油づくり、古いものと新しいものが入り交じり、島の文化をつくっています・・・・・・ |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 例 (金比羅と自然・祭りコース)                                                                                                                                                   | 例 (芸術・産業コース)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |
| 金比羅さんは歴史ある神社で、丸亀うちわは、金比羅参りの土産として発展しました。また、近くには満濃池の周りの緑を生かしたまんのう公園が・・・                                                                                              | 島の景観を生かした美術館、昔ながらの醤油づくり、古いものと新しいものが入り交じり、島の文化をつくっています・・・・・・                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                       |                              |                                                                       |                                                             |        |               |              |             |        |        |         |          |        |           |          |          |

## ② 本時の思考操作

①「えらぶ」… 課題を解決するときに必要な知識・技能を既有的知識群の中から探し出して、喚起する。

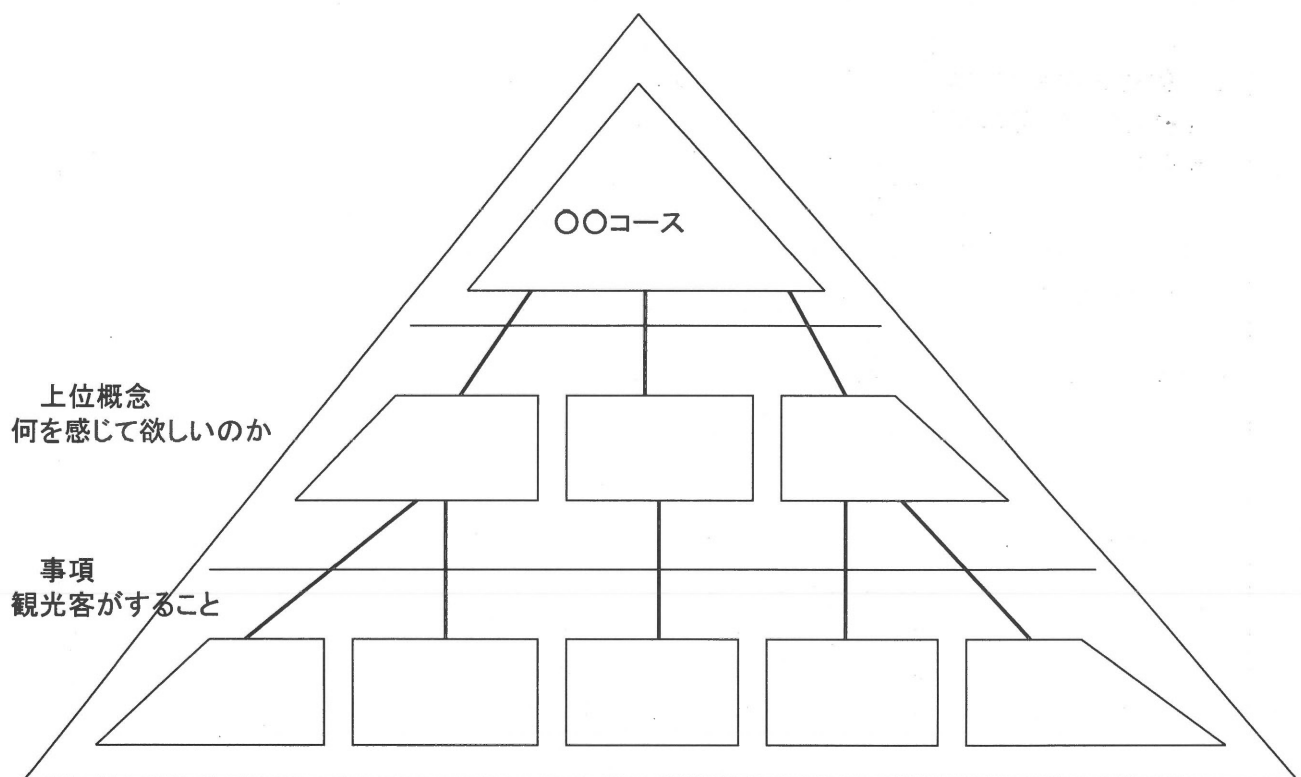
子どもたちは、1日のコースが決まったら、その日に訪ねる市や町の中から、どこを見学すればよいのかということ「えらぶ」。選ぶ基準は、先ほど述べた5つの条件をフィルターとして見ているのである。本時では、時間の都合で、既に子どもたちは選んで、ガイドブックにポストイットとして貼り付けている。今回は、観光客の方がすることという視点で書かせている。

②「くらべる」… 事象・表現・行為そのものを分析したり、他の事象・表現・行為と比較したりして、共通点や相違点を抽出し、観点の発見していく。

選んだカードを数人で持ち寄り、類別を行い、見出しを付ける。この操作により、情報が整理されるとともに、新しい観点の発見も期待される。この段階で、子どもたちは、どういう思いからその観光地を訪ねてほしいと思ったかということを再発見する。

③「つなぐ」… 知識と知識をつないだりつなぎかえたりすることで、その教科において望まれるより高度で洗練された体系へとつくりかえていく。

②によって再構成されたコースの中身について、トライアングル思考図を見ながら、文章化していく。これにより、子どもたちの中にも知識の新しい枠組みができるのである。



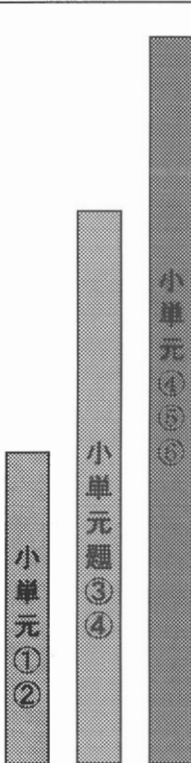
トライアングル思考図例

この図をもとに、コースの紹介文を記述する

(7) 本時における評価

本時のルーブリック(例)

|      |                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 評価規準 | 県内各地域のよさを自分たちの住む高松とくらべることによってつかみ、香川のよさが感じられるような観光コースをつくることを通して、香川の特徴をつかむことができる。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------|

|          | ねらいとする<br>段階                                                                       | 評価基準<br>(単元全体を通して)                                        | 本時の評価基準                                                                                      |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| A<br>(4) |  | 自分たちで調べてきたそれぞれの地域のよさ(点)をつないで、香川のよさ(面)をつかむことができる。          | 自然や伝統・文化、産業や人の営み、交通といった観点を生かして香川のよさが伝わるような観光コースを考えている。また、香川の特徴が出るように構造的に紹介文にまとめられる。          |
| B<br>(3) |                                                                                    | 自分たちが調べている県内のそれぞれの地域の特徴について、自分たちの住む高松とくらべながら、まとめることができる。  | 自然や伝統・文化、産業や人の営み、交通といった観点を生かして香川のよさが伝わるような観光コースを考えているが、紹介文は、順を追った説明にとどまっており、意味をもってつなぐことが難しい。 |
| C<br>(2) |                                                                                    | 自分たちが調べている県内のそれぞれの地域の特徴について、調べた事実をもとにまとめることができる。          | 各地域をつないだ観光コースになってはいるが、5つの観pointsの趣旨が理解できていない。そのため、香川の特徴をとらえた紹介文をつくることが難しい。                   |
| D<br>(1) |                                                                                    | 自分たちが調べている県内のそれぞれの地域について、事実を書き出しまとめることができるが、特徴をつかむことは難しい。 |                                                                                              |

参考文献

「授業改革と学力評価」 北尾 倫彦 図書文化社 2008 年

「子どもの思考力」 滝沢武久 岩波書店 1984 年

「考える・まとめる・表現する」 大庭・コティ・さち子 NTT出版 2009 年

「学ぶ意欲の心理学」 市川伸一 PHP新書 2001 年

「学習心理学」 辰野千寿 教育出版 1994 年

「社会科ノート」による思考力の育成 香社研 2008 年

「社会認識の系統からみた社会科新単元構成(試案)」 香社研 2008 年

「幼・小の連続性に立つ連携交流の在り方」

生活科・総合的な学習全国大会提案 大森明美・合田真理子  
その他

## 本年度総括 さ・東社研

### 研究主題

### 思考力の育成をめざした地域プランの開発

#### 1 研究主題について

本年度は、「思考力・判断力・表現力の育成」という観点から社会科学習を見直した。特に、知識の再構成を大切に学習を考えていく上で、地域教材と教科書教材をうまく組み合わせて地域プランを作成して、思考力の育成をめざそうと考え、テーマを「思考力の育成をめざした地域プランの開発」とした。

地域プランとは、さぬき市、東かがわ市独自の地域教材を教科書教材とともに単元の中に位置づけて思考の育成をめざすものである。

#### 2 本年度の具体的な研究内容

- (1) さぬき市、東かがわ市独自の地域教材の開発。
- (2) 集団と個のかかわりを重視した学習スタイルの研究
- (3) 思考が見えるノート活用の研究

#### 3 研究の実践について

- (1) 第1回研究会 6月17日 会場 東かがわ市立引田小学校

##### ① 研究授業 4年 単元名 水はどこから ―引田のくらしをささえる水―

授業者 さぬき市立引田小学校 教諭 高田 宏隆

本時の主張点

- ア 学習意欲を高めるために地域の実態を含んだ単元構成を工夫する。……………(地域教材の開発)
- イ 問いを追究するために資料を活用し、自分の意見を表現する能力を育成する。(集団と個のかかわり)
- ウ カード操作を用いて思考を深める。……………(思考が見えるノート活動)
- エ 学習を通して学んだことをもとに、社会へ水の大切さと節水の情報を発信させる。

##### ② 研究討議

- ア 水不足で困った生活を思い出し、水の大切さを痛感できた授業であった。
- イ 交流によって3地域の情報を整理し、他地域との相違点や協力体制などを理解することができた。その内容を確実にするために教師の助言や実験などの工夫もあり児童もよく分かったのではないかと。
- ウ 習得した内容から何を情報発信するのかを明確にすべきである。また、誰に発信するかによって表現方法も異なる。その時には言語活動も活発に行わねばならないと思う。このような活動を繰り返すことにより、児童も社会への参画について考えることができる。

##### ③ 実践交流

研究討議後、参加者による「社会科ノート」の実践交流を行った。

- ア 地図や表・グラフなどをノートに貼り込む。(資料の読み取り、資料をもとに考える力の育成)
- イ 自分らしさを表現する。(事象をどのように表現するか。「国語力の育成」)
- ウ 的確な教師のコメントを朱書きする。(学習の評価、授業の評価に生かす。)
- エ 家庭学習の充実を図る。(学習の報告、授業評価、学校評価へも関与する。)
- オ 思考がノートに見えるようにしたい。視覚で内容をしっかり理解することが必要である。
- カ 言語能力の育成が大切である。ノート上でも社会科の言語活動を明確化したい。

##### ④ 指導 東かがわ市立白鳥学校 校長 佐藤 正文

- ア 児童が学習の対象である社会的事象に対して主体的にかかわるようにする。
- イ 学習の調べ方やまとめ方など、学習の仕方に対する児童のかかわりを大事にする。
- ウ 児童と教師のかかわりを大事にする。
- エ 児童と地域社会のかかわりを大事にする。

(2) 第2回研究会 10月27日 会場 東かがわ市立丹生小学校

① 研究授業 5年 単元名 「わが国の工業」

授業者 東かがわ市立丹生小学校 教諭 山下 勝正

本時の主張点

<授業説明>

ア 教科書では自動車工場を勉強するが、教科書で自動車工場について勉強した後、帝国製薬でも同じ観点で学ぶことができるので取り上げた。

イ 近くに帝国製薬があるので、実際に見学に行くことができる。地域に根ざした工場であり、学級で数人の保護者が働いている。

ウ 願いや工夫を表現させるために、ノートや表現物の活用が重要である。

エ 本時の最後にコマーシャルを書かせることで、願いや工夫を入れたまとめが書ける。今回は、時間が足りなかった。

② 研究討議

ア 帝国製薬は重工業ではないので自動車工場とは違う。だが、工程には共通点が多い。先に教科書の自動車工場を学ぶ事で、学ぶ観点が分かり、それを利用して地域教材で深く学習することができる。

イ 保護者に勤務されている方がいるので、教材化するにあたって好都合であった。見学などの視点を共通理解できたと思う。人材のつながりを確保しておくことは教材化にあたり重要である。

ウ グループ討議より抜粋

- ・ 自作新聞の記事について交流を行ったが、同じ記事の内容では多様な考えは出にくい。
- ・ グループ活動、ゲストティーチャーの活用がよかった。児童たちから出てこない観点を出示してもらうものもある。

(3) 指導

東かがわ市立白鳥小学校 校長 佐藤 正文

社会科は大変というイメージ。児童に力がつくのであれば、教材開発等をぜひ行ってほしい。

体験が児童の学習意欲を高める。教科書だけに頼らない。社会科の言葉を大切にしたい。

講話 「学習評価」の充実と活用

附属高松小学校

教諭

大嶋 和彦

① 指導要領分析から

「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」

ア 地域教材の開発

帝国製薬の取り扱いについて、さぬき・東かがわ両市の先生方の意欲を感じた。

ゲストティーチャーを見たときの児童の反応が良く、児童の意欲を高めることができた。

イ 集団と個のかかわりを意識した学習スタイル

グループで交流することで、自分の気付かなかったことに気付くことができる。

(本時) 仕事の効率化、ものづくりへの願い (大切に)

ウ 思考力を育成するために、いろいろなところから調べた願いを広告にまとめる→思考の再構成

思考→批判的思考・創造的思考などの場面を効果的に活用することが大切である。

4 本年度の成果

夏季研を機会に地域の教材化や思考図を用いた授業展開を行い、授業力の向上につながった。さらに、思考が見えるノート活用の方向性も明確になってきた。会員の実態を踏まえ、一人一人が活躍できる場を設けていくことも続けていきたい。

5 本年度の課題と来年度の方向性

(1) 課題の真正性と学習の妥当性 (例: 児童たちが本当に働く人々の願いを考えたいと思っているのか。)

(2) 授業改善のポイント

ア 学習課題を大切にして、問題解決のために思考・判断・表現の流れを明確にする授業展開

イ 学習評価を学習に生かしたい。(パフォーマンス評価)



# 本年度総括 高松市社研

報告者 高松市立屋島小学校

池田 茂樹

## 1 研究主題

### 「社会科ノート」による思考力の育成を図る

～ 子どもの学習意欲を大切に、読解力と豊かな言語活動の展開による、日々の授業実践の充実を目指して ～

## 2 本年度研究の概要

### (1) 研究主題について

平成23年度からの新学習指導要領の全面実施に向け、各校が特色ある教育を展開することが期待されている。「生きる力」を育てるという理念が継承される中、それを支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の調和が重視されている。

教育内容の主な改善としては、「言語活動の充実」「伝統や文化に関する教育の充実」「道徳教育の充実」「体験活動の充実」等が挙げられ、社会科教育を考えていく上でも、これらは重大な課題といえる。

したがって、実際の授業においても、体験的・問題解決的な学習の充実や、知識・技能の習得、言語活動の充実を図ることが求められている。

基礎的な知識・技能をしっかりと身につけ、さらに思考力を育成する日々の地道な授業実践の充実が「確かな学力」の形成につながるものと考え、県の研究テーマとも関連を図り、本研究テーマを掲げることとした。

### (2) 研究活動

- ① 新教材の内容研究に伴うカリキュラムの見直し
- ② 子どもの学習意欲をもとにした学習計画と再構成を図る学習
- ③ 教材の本質を見極め、習得・活用・探究の過程における「学習材」の開発
- ④ 読解力の育成を図り、思考力・表現力を育てる言語活動の充実
- ⑤ 社会科ノートを通した自己評価力の育成
- ⑥ 社会科ノートを通した家庭との連携を図り、家庭学習を生かした自学自習の態度を育てる

## 3 研究実践について

第1回定例研修会 平成22年 7月10日(木)  
第2回定例研修会 平成22年11月18日(木)

### (1) 東ブロックの実践

4年「ごみの処理と利用」 (高松市立太田小学校 高木恭子)

#### ① 新教材のカリキュラム見直し

新学習指導要領の本格実施に向けて、「公共性・規範意識」等の内容研究が求められている。本単元では、「容器リサイクル法」や地域での取り決めやマナー等の事項が教材として取り入れられている。単に社会のルールを学習するだけでなく、社会参画力の育成もねらうことで学習の深化を図った。

#### ② 学習意欲をもとにした学習計画

「なぜゴミは分けて出すのか」「指定ゴミ袋はなぜ必要なのか」等、子どもたちの生活の中から出た素朴な疑問から学習計画を立てていくことで、子どもたちの学習意欲が継続していくと考える。

#### ③ 再構成を図る学習(思考と表現の連続)

「缶ゴミ」と「プラスチックゴミ」の比較・総合の学習によって、既習の学習事項や概念を思考操作によって組み立てたり、知識の強化を図ったりすることができた。

#### ④ 活用の授業の学習材開発

基礎・基本の確実な定着を目指す「習得」の学習から、「活用」「探究」へとつなぐ学習材として、本単元では「プラスチックゴミ」への着目により、現状と今後を考えるゴミ問題に対する理解を深める授業をつくることができた。

5年 工業生産と工業地域 (高松市立高松第一小学校 湊 正寿)

#### ① 歴史的に見る工業地帯や工業地域

四大工業地帯から、三大工業地帯としてとらえ方へ変化してきた日本の工業を、生産額の変化や、IC産業の発展等の視点から見直し工業の学習を構成した。

#### ② 工業地帯のあり方の変化を見る学習

生産力向上により一カ所の工場でも全国生産ができることや、他会社の製造ラインも生かして生産を進めること等、現在の工業スタイルから特徴や課題をつかむことが重要である。

### ③ パブリックコメントでの思考と表現

児童の学習と県や市の計画を双方向的につなぐ表現活動を生かすことで、参画意識を高める学習を進めることができる。

## (2) 南ブロックの実践

### 6年 貴族の世の中から武士の世の中へ (高松市立林小学校 中尾美方子)

#### ① 子どもの学習意欲を図る学習計画

観点を決めてマップに表すことで、読み取った内容を整理しやすくなり、武士の概念をつかむ助けとなったため、意欲的な学習活動を継続することができた。

#### ② 思考と表現の一体化

線マップの作成からタイトルを付ける再構成の学習を通して、理解したことを自分で表現しまとめることができた。

#### ③ 言語活動の充実と思考力・表現力の育成

情報整理の活動は、国語科や総合的な学習と学習法の共有をしながら、言語活動による思考力・表現力の育成を効果的に進めていくことができる。

### 5年 これからの食料生産を考える (高松市立三溪小学校 蓮本和博)

#### ① 今日的課題から食糧問題の問い直し

総合的な学習での田植えや稲刈りの体験や、それにかかわる人々との交流を下地に、食糧生産の問題を自分たちの問題としてとらえることができた。

#### ② 自分の考えを主張文にまとめる

主張文を書く場面で、手順をきめ細かに進めたため、児童が一人一人自分の主張やアイデアを論理的にまとめることができた。

#### ③ 他教科・領域との連携・関連

国語科や総合的な学習と、内容的にも技能的にも関連を図ったため、時間的なゆとりとともに、子どもたちの深い課題追求を得ることができた。

## (3) 西ブロックの実践

### 6年 源頼朝と鎌倉幕府 (高松市立亀阜小学校 姫田朋樹)

#### ① 児童の発見からの学習課題づくり

授業で生まれた児童の素朴な発見や疑問を大切にして、一人調べやグループ交流、課題づくり、課題の予想、調べによる検証へと思考過程を進めていくことで学習効果を高めた。

#### ② 習得・活用・探究の授業の定着化

習得の学習では、自作の年表を作成することで、基礎・基本の内容の確実な定着化を図ることができた。さらに、活用の学習では、イメージマップによる課題づくりとその検証で、思考力・判断力・表現力を育成することができた。

探究の学習では、ノートや新聞等の表現物により個性を生かした学習深化を図った。

#### ③ 具体的なイメージ化を図る資料活用

動画等の児童が意欲を持ち続けることのできるWeb資料を、教科書デジタル掛け図やNHKデジタルビデオクリップ等を利用して活用した。

### 6年 長く続いた戦争と人々の暮らし (高松市立鶴尾小学校 久保 斉)

#### ① 思考力・表現力育成 (言語活動充実)

言語活動の充実によって思考力・表現力を育てるため、前時から自分の考えが新たな課題のもとにどう変容したかが分かるようにワークシートを工夫した。基礎・基本の習得を土台にして、自分の考えを再構成するためのしかけを課題として児童にとらえさせ、思考と表現の一体化を進めることができた。

#### ② 自己評価力の育成 (ワークシート)

新たな資料をもとに自分の考えを付け加えたり、それまでの学習をつないで考えをまとめたり、事象を書き出したカードを整理して分類したりする活動を、ワークシートで資料や手順を示し、自ら成果を確かめたり振り返ったりすることができるようにした。

## 4 本年度の成果

- (1) 新学習指導要領の内容の改善に示された授業やこれまで市社研が積み上げてきたプランの切り口を変えた実践が行われた。また、どの実践も子どもの素朴な疑問を生かし、学習意欲を高める活動が組まれ、子ども一人一人を大切にした授業が展開された。
- (2) 比較・関連づけ・総合による再構成を図る学習を展開したことにより、思考力を育成することができた。

## 5 本年度の課題 (来年度の方向性)

- (1) 個々の調べの後に、学習をより深めていくための効果的な交流をどのようにすればよいのか。
- (2) 学力の向上を促し学校信頼を高めるためには、今後「指導と評価」を統一した授業実践がますます重要になってくる。そのための計画づくりをどのようにしていけばよいのか。

# 本年度総括 小豆社研

報告者 土庄町立北浦小学校 平林泰徳

## 1 研究主題

基礎・基本の確実な定着とその発展を図る学習の展開  
～基礎・基本の内容を習得し、活用・探究の学びを深める社会科学習の在り方～

## 2 本年度研究の概要

### (1) 研究主題について

平成20年度3月に学習指導要領が改訂され、平成21年度から2年間の移行期を経て平成23年度より全面実施される。教育基本法や学校教育法等の改正を踏まえ、「生きる力」をはぐくむという理念の継承と、その具体的な手立てを確立し、子どもたち一人一人が習得した知識や技能をしっかりと活用できる力を育成するという、新しい教育の創造でもある。

そこで、この2つの柱を受け、社会科部会では、「基礎・基本の確実な定着とその発展を図る学習の展開」をテーマとして取り組むこと、さらに「習得」「活用」「探究」の学習における学習意欲を高める指導の充実を図っていくことにした。

社会科の授業を振り返ってみたとき、「事実を調べて、事実をまとめて、事実を発表する」だけの調べ学習・問題解決学習もどきの学習になっていなかっただろうか。これでは学力低下を招きかねない。学力低下を招かないためにも、ある観点に沿って情報を集め、整理して、自分なりの解釈をする「自ら学び、考え深める社会科学習」を目指していきたいと思った。

また、知識・技能のみならず、意欲、思考力、判断力、表現力等を含めた、「基礎・基本」の定着を図るための学習を構築していきたいと考えた。

### (2) 研究活動

| 日 時                       | 活 動             | 内 容                                                       |
|---------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------|
| 平成22年4月17日(金)<br>6月11日(金) | 事業計画<br>第1回授業研究 | 役割分担・研究テーマ・年間計画立案<br>第3学年「学校のまわり」<br>授業者 土庄町立湊崎小学校 黒川幸宣教諭 |
| 11月2日(火)                  | 第2回授業研究         | 第3学年「スーパーマーケットではたらく人」<br>授業者 小豆島町立安田小学校 瀬名宏樹教諭            |
| 平成23年2月19日(土)             | 研究フォーラム2010     | 実践交流にてパネル発表                                               |

## 3 研究実践について

※ 第2回授業研究 第3学年「スーパーマーケットではたらく人」から抜粋

### (1) 単元構成 (◎：各次の目標、○：中心となる活動や内容)

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1次 | スーパーマーケットで見つけたよ。(2時間)<br>-----<br>◎町内には販売の仕事をしているところが多く、なかでもスーパーマーケットの利用が圧倒的であることがわかる。<br>◎スーパーマーケットについて学習問題をもつことができる。<br>○わが家の買い物調べをしてみよう。<br>○スーパーマーケットで働く人々について調べよう。                                                                                                                       |
| 第2次 | スーパーマーケットの秘密(売るための工夫)を調べよう。(4時間)<br>-----<br>◎スーパーマーケットへ見学・インタビューにいった、売るための工夫をさぐることができる。<br>◎たくさんの客がスーパーマーケットへくる秘密について、見学やインタビューでさぐることができる。<br>○スーパーマーケットは、安価の商品、「種類の豊富さ」、食べやすく調理、「商品の並べ方」、「チラシ・広告」「価格のつけかた」「広い駐車場」等の売るための工夫を予想する。<br>○スーパーマーケットを見学、聞き取りをして、売るための工夫を調べる。<br>○売るための工夫についてまとめる。 |
| 第3次 | 商品の産地を調べよう。(2時間)                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | <p>◎スーパーマーケットにおいてある商品は、地元だけでなく国内外から取り寄せていることが理解できる。</p> <p>◎スーパーマーケットで買い物を利用する人の中には、地元だけでなく近隣からもやってきていることが分かる。</p> <p>○スーパーマーケットにおいある商品の産地を調べよう。(見学、聞き取り、チラシなどを使って)</p> <p>○調べた商品の産地を白地図にまとめる。</p> <p>○なぜ、わざわざ外国産を売っているのだろうか話し合う。</p> <p>○商品に、生産者の名前や顔写真がかかっている理由を話し合う。</p> <p>○まとめとふりかえりをノートにする。</p>                                     |
| 第4次       | <p>消費者の買い物をするときの願いは、どんなことだろう。(3時間 本時3/3)</p> <p>◎消費者が、買い物をするときに気をつけていることを理解する。</p> <p>◎スーパーマーケットは、消費者の願いをかなえるための販売活動をしていることが理解できる。</p> <p>○消費者の買い物をするときに気をつけていることを事前アンケートをとる。</p> <p>○「安価」、「鮮度」、「産地」、「賞味期限」等に気をつけて買い物をしている。</p> <p>○スーパーマーケットは、消費者の願いを知っているだろうか。</p> <p>○スーパーマーケットへ見学に行って確かめよう。</p> <p>○消費者の願いとスーパーマーケットの工夫を結びつけてみよう。</p> |
| 到達度<br>評価 | <p>地域には、さまざまな働く入がいるが販売を通して、地域の人だちと結びついているスーパーマーケットでは、地域の願いをかなえるための工夫や努力をしていることをとらえることができる。また、商品の仕入れや働く人で、他地域とつながっていることが理解できる。</p>                                                                                                                                                                                                         |
| 発展        | <p>いろいろな店を調べよう。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

## (2) 討議内容

- ・ 前時までの学習過程や調べた事柄を見せることにより、既習事項・知識の活用を促すことにつながった。学習を可視化しておくことで、児童にとって分かりやすくなる。
- ・ 前時までにスーパーの工夫と消費者側の願いをそれぞれに分類してから、本時に関係づけるカード操作を行ったが、これまでの活動の中で分かっていた内容が多かったのではないかな。
- ・ 児童は、カードの操作活動に未習熟なところがあり、まとめさせるためには時間配分に留意する必要がある。
- ・ 個々のカード操作を行う前に、前時で使用していたもので手本になる操作を見せてから個別活動を行えば、円滑なカード操作が行えたのではないかな。
- ・ 第2次では、スーパー側の工夫をまとめずカードへの記入だけで済ませておき、消費者の願いを聞いてから、カードと消費者の願いを結び付けて分類することによって、双方の内容が表裏一体となって理解できてくる。分類する際、討論することで理解が深まる。共通事項に入らないものがあれば、討議をさらに深めることができる。
- ・ 学習のまとめの際は、キーワードを短く、語彙も少なくした方がまとめやすかった。

## 4 本年度の成果

- ・ 指導要領の改訂に伴う学習内容の変更点の把握。
- ・ 地図やドットマップなど提示資料での活動の可視化による学習内容の理解の深まり。
- ・ 個別活動での理解を集団に広げ深めることで、個の理解をさらに深めることに結び付ける学習サイクルの確立。

## 5 本年度の課題(来年度の方角性)

- ・ 指導要領の改訂に伴う内容の変化に応じた地域教材の洗い出し。
- ・ 調査や集計を行う際のプライバシーへの配慮(家庭での調査内容は、個別のデータが児童間で見えないようにする)。
- ・ 思考図(シンキングマップ)を活用した分析・比較・分類の活動を定着化すること。
- ・ 個→集団→個というサイクルのそれぞれの場面で、効率よく活動を進める手立てを構築すること。

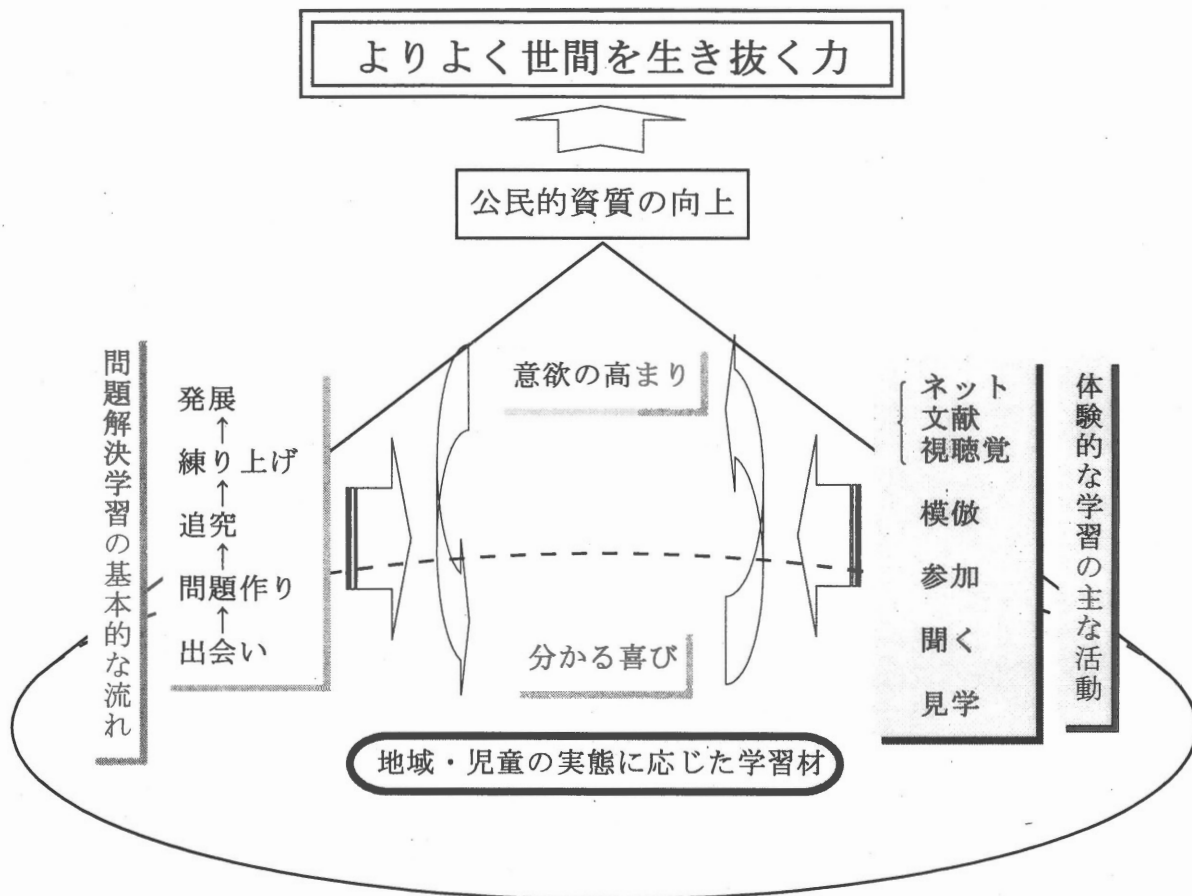
## 本年度総括 坂出・綾歌社研

報告者 坂出市立東部小学校 福家寿夫

### 1 研究主題

分かる喜びを実感できる社会科学習の展開  
—体験的な学習・問題解決的な学習の充実を通して—

### 2 本年度の研究の概要



#### (1) 研究主題について

体験的な学習は自然体験，社会体験，生活経験が不足し，人とのかかわる力が不足している現代の子どもたちにとって，新鮮で楽しさの期待できる学習になる。これは学習する意欲の源であり，学ぶ力の源でもある。

そして，問題解決的な活動を取り入れた学習は，課題を追究していく中で，一人一人の疑問が解決したときに「そうか，そういうことか。」「よし，できた。分かった。」という喜びを感じることができる。

体験的な学習や問題解決的な学習を充実させることにより学ぶ意欲を高め，思考力，判断力を育てることを目指している。

#### (2) 坂・綾社研で目指す児童像

- 社会的事象に驚きや疑問を感じ，意欲的に追究することができる児童
- 既習の基礎・基本の事柄や内容を使って，話し合ったり発表したりすることができる児童
- 調べたことを根拠にして，比較したり，様々な立場から考えることができる児童
- 問題解決に必要な資料を収集・活用するとともに，考えをノートにまとめることができる児童



### 3 研究の実践について

| 日にち            | 場所        | 研修会名         | 内 容                   | 参加者      |
|----------------|-----------|--------------|-----------------------|----------|
| 3月下旬           | 坂・中央小     | 事前検討会        | 22年度の役割分担・計画          | 研究部      |
| 4月14日(水)       | 坂・東部小     | 坂綾小研総会       | 22年度の組織作り<br>夏季研の役割分担 | 坂綾全員     |
| 6月2日(水)        | 坂・川津小     | 坂綾小研教科研      | 研究授業                  | 坂綾全員     |
| 6月11・18・25日(金) | 坂・中央小 他   | 夏季研分科会事前検討会  | 夏季研分科会の事前打ち合わせ        | 研究部      |
| 7月22日(木)       | 坂・中央小     | 副読本編集会       | 副読本「坂出」編集作業           | 坂出会員     |
| 9月10日(金)       | 坂・中央小     | 副読本編集会       | 副読本「坂出」編集作業           | 坂出会員     |
| 10月28日(木)      | 埋蔵文化財センター | 坂綾小研教科研      | 講演会 国府跡フィールドワーク       | 坂綾全員     |
| 11月5日(金)       | 坂・中央小     | 定例会事前研       | 定例会事前打ち合わせ            | 研究部      |
| 11月13日(土)      | 綾・羽床小     | 香社研定例会       | 提案発表                  | 香小研社会科部員 |
| 12月17日(木)      | 坂・中央小     | 研究フォーラム事前検討会 | 研究フォーラムの役割分担等         | 研究部      |
| 1月7日(金)        | 坂・中央小     | 副読本編集会       | 副読本「坂出」編集作業           | 坂出会員     |
| 1月20日(木)       | 坂・中央小     | 研究フォーラム事前検討会 | 研究フォーラム事前打ち合わせ        | 坂綾全員     |
| 2月19日(土)       | 坂出附属小     | 研究フォーラム      | 研究フォーラム発表             | 香小研社会科部員 |

### 4 本年度の成果

#### (1) 授業での工夫点を整理できた

##### ①資料提示の工夫

「なぜだろう。」「どうしてだろう。」という思いにさせるような資料を提示するよう心がけた。授業を展開していく中では、追究意欲を持続させるような補助資料を提示したり、五感に訴えるような資料や体験活動を取り入れるようにした。まとめの段階には課題を解決できるための資料や新たな課題とさらなる意欲が生まれるための資料を提示するようにした。

##### ②体験の取り入れ方の工夫

体験を取り入れることで意欲を高め、主体的な学習ができるようになる。しかし、児童に問題意識がなければ、体験を取り入れても何も残らない。体験前後の手だてを用意し、体験したことから学習が始まったり、体験を単元展開の途中における問題解決に使ったりするなどするよう心がけた。

##### ③ノートの実践の工夫

練り上げる段階でノートを使った。ノートを使って、自分が分かったことについて他の人に知らせるようにした。知らせた人から自分が認められることで、自信がもて、一層考えが練り上っていくことが感じられた。

交流し、互いに考えたことを認め合うことで、個人の認識が集団の共有認識へと高まる。

#### (2) 地域教材を見直すことができた

研究授業では3年生の「学校のまわりの様子」を公開した。研究討議、夏季研事前研を通して地域教材の生かし方について研修ができた。

新学習指導要領では、郷土を愛する気持ちを育むことを重視している。地域の教材を取り上げ、自分の住んでいる地域に対する誇りと愛情をもつことをねらいとした本実践は、社会科で地域教材を取り扱うときの参考になった。

### 5 本年度の課題(来年度の方向性)

今年度の県の視点の一つに「集団と個の関わり」があった。坂出・綾歌社研ではノートを「集団と個の関わり」の通信手段として使う研究を進めてきた。「新・ノート作り10箇条」「スケッチブックのノート」「横に使ったノート」など各自で工夫がされ、社会科を研究教科にしていない先生方にも広まりつつある。

来年度は目指す児童像2番目にある「既習の基礎・基本の事項や内容を使って、話し合ったり発表したりすることができる児童」を育てることに力を入れて行こうと考えている。

今後さらに社会科部会の研究が活発になり、参加者に「参考になった。参加して良かった」と思われるような有意義な研究になるよう内容と方法を考えていく。

# 本年度総括 丸亀社研

報告者 丸亀市立飯山南小学校 眞井 孝征

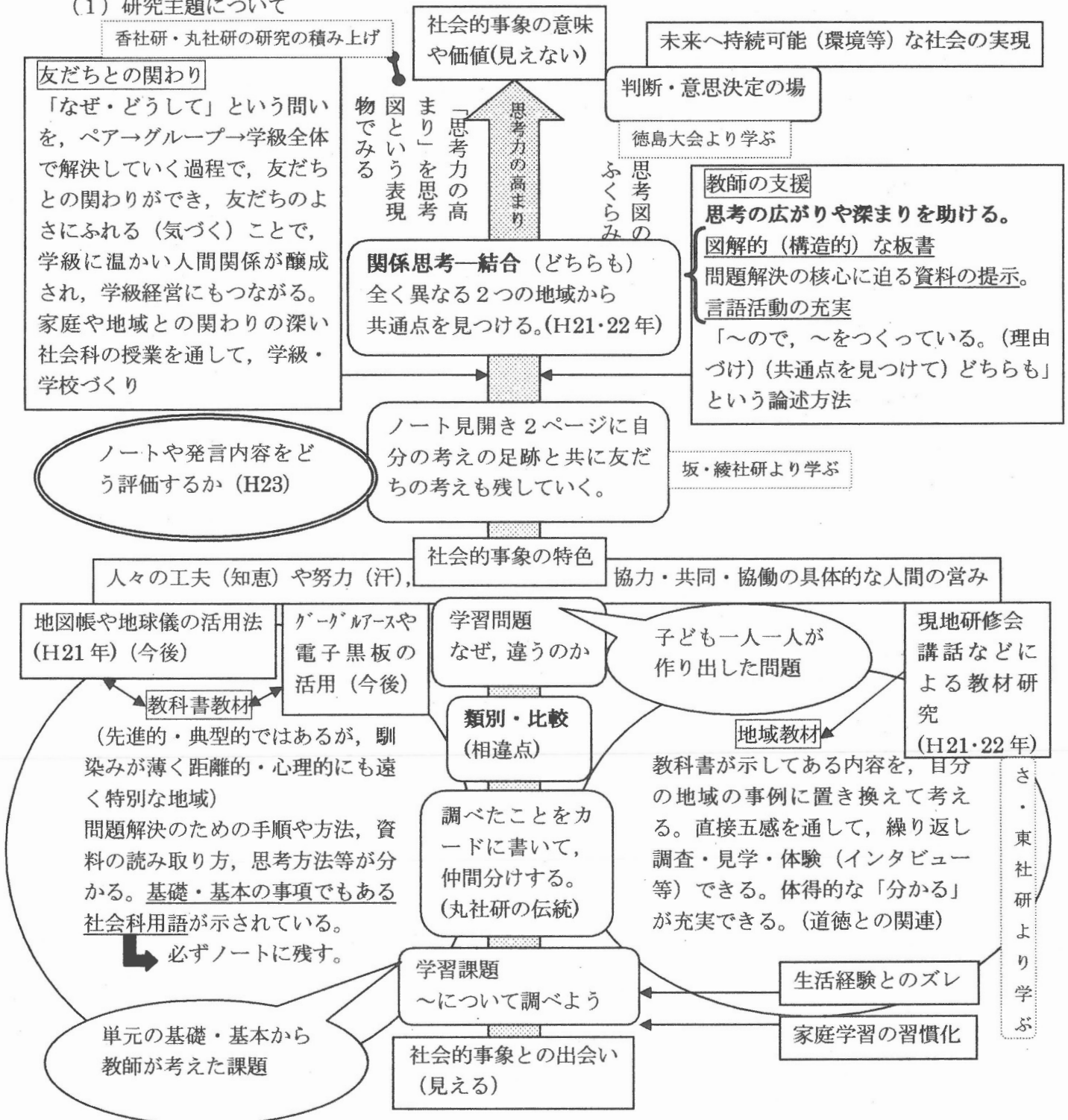
## 1 研究主題

### 社会科部会「自分づくりの社会科学習」

—基礎・基本の定着と自ら学ぶ問題解決能力の育成を求めて—

## 2 本年度の研究の概要

### (1) 研究主題について



## (2) 研究活動

| 日時    | 活動                             | 内容                                          |
|-------|--------------------------------|---------------------------------------------|
| 4月14日 | 城坤小学校 研究組織づくり                  | 研究主題決定, 年間計画作成                              |
| 5月27日 | 城東小学校 事前勉強会                    | 5年「日本の米づくり」の単元構成・学ぶべき内容の勉強会                 |
| 6月3日  | 城東小学校 事前検討会                    | 5年「日本の米づくり」思考の構造図と板書・ノート等について検討会            |
| 6月9日  | 城東小学校 授業研究<br>5年「日本の米づくり」      | 授業者 城東小 教諭 北分 英樹<br>指導者 本島小 教頭 香川 佳和        |
| 6月28日 | 栗熊コミュニティセンター<br>香社研6月定例会(丸亀集会) | 実践提案 3年「学校のまわりの絵地図をつくらう」提案者 垂水小 岡野雄太郎       |
| 12月8日 | 生涯学習センター<br>丸亀市消防庁舎(現地研修会)     | 教材研究「丸亀市内の遺跡・文化財・歴史について」講師 東 信男 氏(丸亀市文化課主査) |

### 3 研究実践について <5年「日本の米づくり」について>

丸社研では、昨年より教科書教材と地域教材を組み合わせることで、「学ぶ意欲」を高め、さらに調べたことを再構成して思考力を育成する実践が積み重ねられてきた。

そこで、本年度も5年の授業研究では、庄内平野の事例(習得)と丸亀平野(活用・探究)を組み合わせた単元構成にした。また、単元で学ぶべき内容(具体的知識→構造的知識→概念)を明確にすることで、知識と思考の構造図と板書・ノートを一致させ、児童の見方・考え方を深めようとした。討議会では、比較する観点が多岐(水の管理・土地の広さや形・水の給水と排水)にわたっていたため、思考が複雑になってしまった。1つの観点到絞って比較するのがよかったのではないかと話し合われた。例えば、「水の確保」という観点で共通点を見つけたらよかったという意見が出された。指導者からは、思考図(シンキングマップ)についてご指導をいただいた。

北分実践から学んだ点として「丸亀平野の標高図(自作資料)」から地形の変化がよく分かった。本時では、香社研の「類別—比較」「関係思考—結合」の2つの思考を使って思考図にまとめている。土地の高低差の違いが農家の人々の水の管理や工夫と大きく関連していることをとらえさせることができていた。さらに、「庄内平野は～。丸亀平野は～。どちらも～。」という論述方法を思考の手段として使うことで、思考図をふくらませ、豊かに社会事象をとらえることができた。

### 4 本年度の成果

- 教科書教材と地域教材を組み合わせ、知識と思考の構造図を作成することで、それが板書や子どものノートのもととなり、基礎・基本の定着と思考力の高まりにつながった。「思考力の高まり」を思考図という表現物でみるということが、これまで研究を積み上げてきた成果である。さらに、言語活動の充実という観点から、この思考図をふくらますことで、より内容が深くなり、豊かに社会事象をとらえることができるようになった。
- 今年度の授業実践、講話や現地研修を通して、社会科を内容教科として「流行と不易」を学び続けることや、校区を歩き実際の遺物に触ってみることの大切さを再認識させられた。
- 社会科の問題解決学習を通して、社会事象にかかわり、友だちにかかわり、自分にかかわり自尊感情を高めていくことは、学級の問題解決につながり、学級に温かい人間関係が醸成される。家庭や地域との関わりの深い社会科の授業こそが、学級・学校づくりの土台になる。

### 5 本年度の課題

- さぬき・東かがわ支部が夏季研で提案された地域プランに学び、美しい自然と歴史に育まれ、代々受け継がれてきた文化と伝統を生かした丸亀市の地域教材の開発と地域プラン作成を行う。
- 県の平成23年度の重点が「確かな学力を見取る評価」であるように、子どものノートや発言内容をどう評価するかは、学ぶ意欲にも大きく関わってくる。客観的で妥当性のある評価が日常的にしかも簡単にできるよう、先進的な取り組みを参考にしながら研究を進めていきたい。
- 徳島大会を参考に「判断・意思決定の場」を単元構成や年間計画の中に位置付けていきたい。

# 本年度総括 三観社研

報告者 観音寺市立豊浜小学校 出濱大資

## 1 研究主題

個が育ち、生きる社会科学習の創造  
～考える力をつけるための社会科学習をめざして～

## 2 本年度の研究の概要

### (1) 研究主題について

社会科の目標は、「公民的資質の基礎を養う」ことである。三社研では、2000年度から公民的資質の基礎を養うとは、「経験」に照らし合わせながら、自分なりにものごとを考え実践することのできる責任ある意志決定の主体を育成することだと考えてきた。そのような主体を『個』にとらえ、その育成を図ることをめざしてきたのである。個が育つ社会科をめざすことは、本質的で普遍的課題であるにとらえ、本年度もその課題を継続研究していきたいと考える。

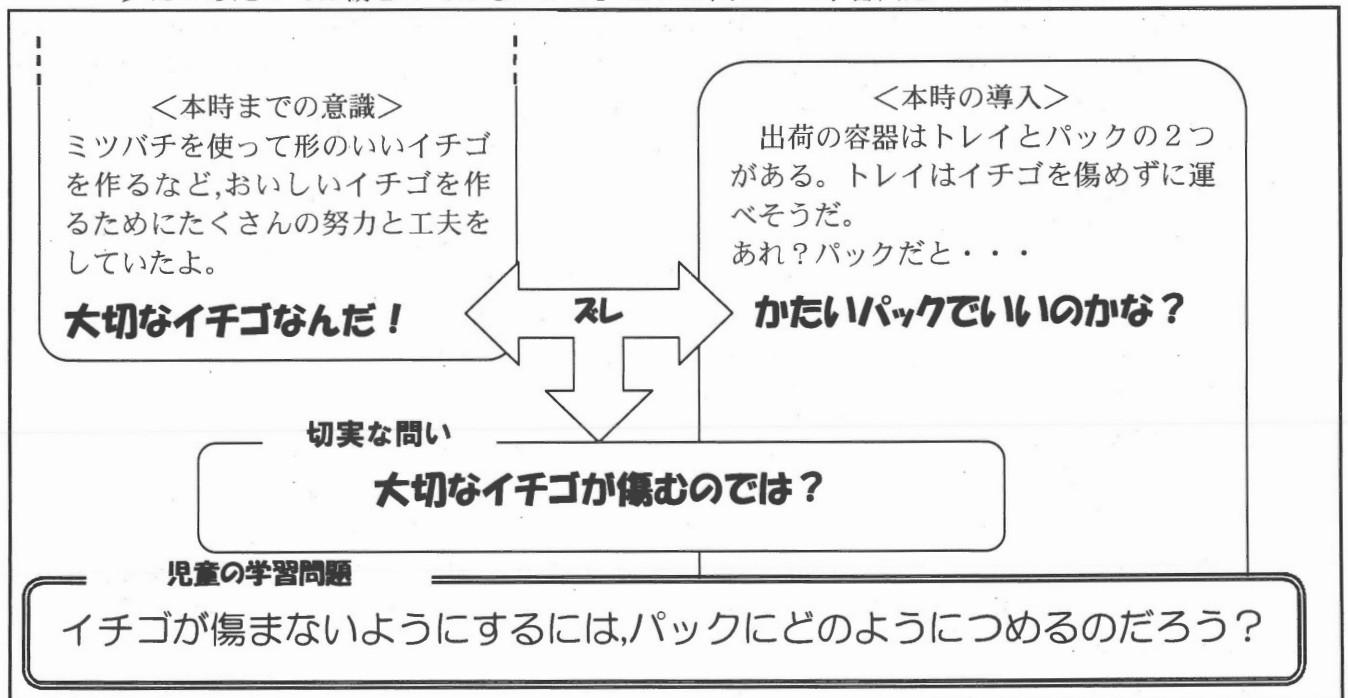
### (2) 研究活動(研究の方向)

- ① 「切実性のある問い」の研究
- ② 内容吟味を行う社会科学習の工夫
- ③ 単元観の確立を目指す教材研究

## 3 研究実践について

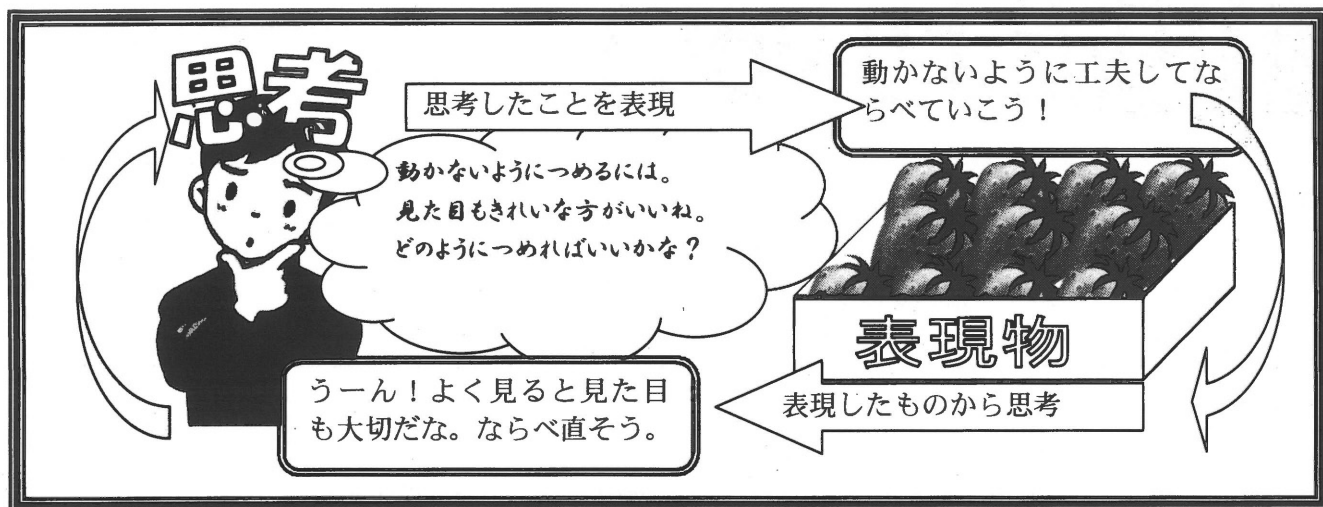
### ① 「切実性のある問い」の実践 ～11月実践第3学年『農家の仕事より』～

切実性のある問いは「子どもの意識と子どもの意識」もしくは「子どもたちの意識と教材」のズレから生まれるにとらえている。本実践では、「大切に育ててきたイチゴを出荷する際にパックにつめたのでは傷むのではないかな？」という問いから学習問題をつくった。



### ② 内容吟味を行う社会科学習の工夫 ～11月実践第3学年『農家の仕事より』～

この実践では、出荷の工夫を疑似体験させることで思考と表現をくり返させた。イチゴのならば方を疑似体験させると班の友達と「もっときれいなならべるには・・・」「このならべ方の方が傷まないよ。」など、子どもたちは考えたことと言葉にしながらいちごの試行錯誤をしていた。思考したことを表現し、表現したことを見ながら再び思考するというサイクルが生まれた。



### ③ 単元観の確立を目指す教材研究 ～6月実践第4学年『水はどこから』～

社会参画を育てる視点から、『水はどこから』の学習で早明浦ダムに沈んだ大川村の人たちの思いを教材化した。それを「情的理解」と位置づけ「人々の思いや願いがこめられた水を大切に使わなければいけない。」という子どもが育つ単元構想をつくった。

#### 4 本年度の成果

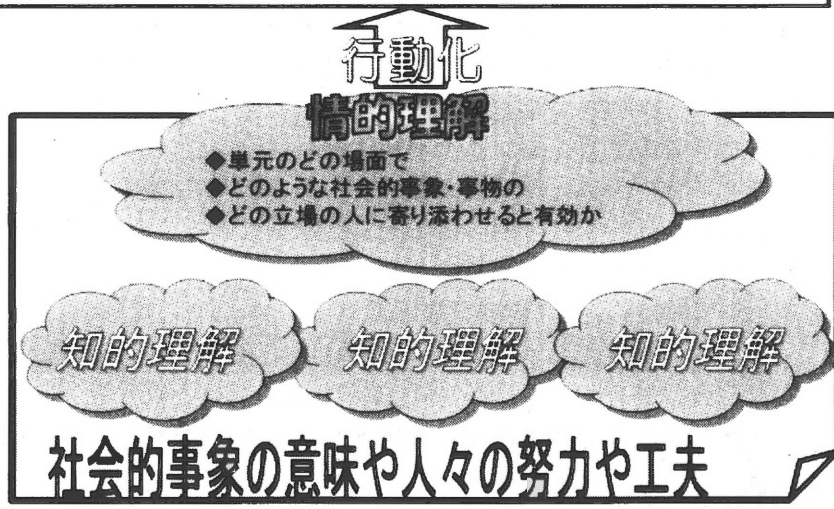
- 農家の人々の仕事の工夫はこれまでによく学習してきたが、本年度は出荷の場面をあつかった。大切に育てた農作物がどのように梱包され、出荷されるかは最後の仕上げとしてとても重要な場面であり、子どもたちも切実性を持って問いをつくれた。
- 疑似体験を通して、子どもたちが考えたことを自分達の言葉にすることができた。この体験は、その後の話し合いを活発にさせた。言語活動を活発化させるのに具体物を使った操作活動は有効であった。
- 「大川村の人達的心情を理解する」という情的理解を通して、人々の思いを大事にし水を大切にしようとする様子が見られた。つまり、実践を通して社会参画へ意欲化がはかれたと言える。

#### 5 本年度の課題(来年度の方性)

- 切実性のある問いの研究  
切実性のある問いをもって子どもたちは課題を解決していく。そこには必ずゴールがあり、子どもたちが納得のいく結末を迎えたい。授業後の子どもたちの姿を問いと関連づけて明確にもち、評価に生かしていきたい。
- 学校現場と研究団体とのギャップ  
理論と実践の両立を目指し、学校現場と研究団体とのギャップを埋めていきたい。そのためには、教材研究をしっかりと行い授業の核となる内容を見つける方向で進めたい。

#### 主体の在り方

### 地域社会の一員としての自覚





# 香社研だより vol.1

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 佐藤 正文  
発行日 平成22年7月10日(土)

## 香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成  
—新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる—  
—平成22年度研究の視点「学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める」—

## 丸社研テーマ

自分づくりの社会科学習  
—基礎・基本の定着と自ら学ぶ問題解決能力の育成を求めて—

6月定例会 丸亀集会 平成22年6月26日(土) 於: 栗熊コミュニティセンター

○実践提案: 丸亀市立垂水小学校 岡野雄太郎 先生

3年「学校のまわりの絵地図をつくろう」～体験的活動を生かした絵地図づくり～

### ○主張点

- ① 生活科での学習を生かした地図学習
- ② 点→線へと視野を広げていく「空間認識」の育成
- ③ 学校のまわりの様子を知る表現活動の工夫(絵地図づくり・絵地図の紹介文の交流)

### 1. 生活科での学習を生かした地図学習

垂水校区は自然と歴史、新興住宅などが良好に融和している地域である。児童は生活科の学習で、探検活動を通して校区内の特徴的文化財や公共施設などについて学んでいて(知識)、本単元では、それらがどのように分布しているかを学ぶ。

### 2. 「点→線」へと空間認識を広げる

見学して発見したものを絵カードにし、白地図に貼っていく。絵カード相互を比べ、違いや共通点を話し合う中で、「点→線」へと空間認識を広げたい。

### 3. 学校のまわりの様子を知る表現活動の工夫(絵地図づくり・絵地図の紹介文の交流)

個やグループで、学校のまわりの絵地図を作っていく。その絵地図に紹介文をつけることで、認識を深める。さらに交流することで、お互いの表現の仕方や内容のよさを学び合わせる。

### ○討議内容

#### 1. 生活科との関連・違い

生活科は自分とのかかわりで町をとらえる学習(私が好きな～、私がよく行く～)である。それに対して社会科は、社会の中での機能、役割をさぐる学習である。「なぜここに店がたくさん集まっているのか」と考えることで、思考がつながり、意味がわかってくる。

#### 2. 空間認識

3年生では、社会的条件や地形的条件もふまえて「点→線→面」まで学習すべきではないか。土地利用が分かる平面図を用いて色分けをすると、住宅地や田畑などの分布がはっきり見て取れる。そこで子どもたちの方から「なぜここに店が集まっているのか」という疑問が出てくる。その疑問を解く際には、人と地図のつながりを大切にしたい。人の願いによって、田が集まる場所があったり店が集まる場所があったりする。人の願いと結びつけて、土地利用の分布を「面」でとらえることが必要ではないか。

### 3. 他校との交流

本実践の最後に、垂水小学校の校区の特徴を紹介するビデオレターを作成し、城西小学校に送った。また、城西小学校からもビデオレターと手紙が送られた。垂水小学校の校区は田畑が多く自然が豊かであるが、城西小学校の校区は市街地で、商店街や市役所などがある。このように、まったく違う特徴をもつ他校と交流することで、自分の学校区の特徴を「面」でとらえることができる。

単元のはじめに「城西小学校のみなさんに垂水校区のことを紹介しよう」と子どもに伝え、目的意識をもって調べ学習を進めてもよかった。

### 4. 国語科とのつながり

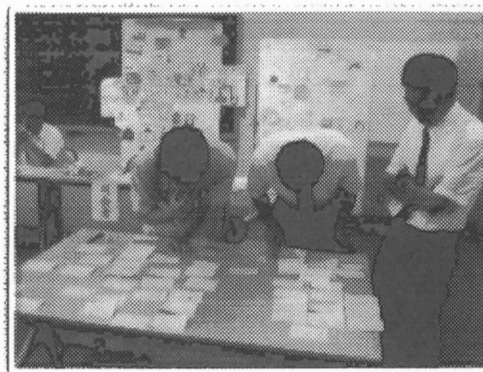
分かったことを文章化することは非常に大切である。しかし、見つけたことや分かったことをそのまま書くのではなく、思考する段階を踏んでから文章化すべきである。

「事実」を集める → 「事実」を分類 → 思考 → 文章化  
(特徴をつかむ、思考図を書く等)

### 5. 今後の指導

本実践で作成した絵地図には多くの内容がつまっている。子どもたちのこだわりも入っている。今後の学習過程において、絵地図を再構成することで学習を発展させることができる。

本実践は生活科での学習を「活用」して社会科へつないでいくものである。今回作成した絵地図をベースに、今後社会認識を形成していくことが必要である。



### 6. 御指導

◇ 西部教育事務所 森 昭二 先生

- ・ 地図を見るときには地形的条件、社会的条件が必要である。地図に川を書きこみ、「川の水がどこから流れているか」と考えさせることで、子どもは土地の高低差に気付くことができる。事実と事実をつないで、一つ上の認識に上げていくことが教師の役目である。
- ・ 言語活動を重視し、社会科の語句を使って説明することは大切である。その際に話型を利用することは、事実と概念をつなぐヒントになる。

事実 → まとめて → 概念      概念 → わけは → 事実

- ・ ランドマークを利用した地図学習展開をすると、「点→面」へ広がっていくのではないかと。友達のお気に入りの場所をつないで、地図を広げていくことで視野が広がる。

◇ 香社研OB 山崎 敏和 先生

- ・ 授業には教師の人間性が出る。岡野先生のあたたかい想いが感じられる、一人ひとりの子どもを大切にされた授業であった。
- ・ 一人ひとりの子どもを大切にするとは、一人ひとりを見ることである。専科であれば担任との連携を十分にはかり、子どものことを知らなくてはならない。
- ・ 社会科は内容教科である。各時間の中に内容が必要であり、活動だけで終わってはいけない。
- ・ 学校の周りのことを教えるのならば、教師自身が校区のことを知っていなくてはならない。歩いたり買い物をしたりして、校区を知るべきである。

#### 【編集後記】

栗熊コミュニティセンターで行われた今年度第1回の定例研。朝からの激しい雨にもかかわらず、多くの参会者を得て開くことができました。

社会科入門期にあたる本単元は、子どもたちの具体的な体験を軸に展開することが絶対条件です。さらに、こうした体験を分かりやすく絵地図にまとめる、という言語活動が必要です。“体験の言語化”が重視される新学習指導要領を具現化する岡野先生の授業、そして提案から、多くのことを学ばせていただきました。また、今回の討議は、参会者が付箋紙に意見を書き、それを整理して進めていくスタイルで行われました。この方法により、討議の柱を明確にして話し合いができる上に、発言する機会がなかった先生方の貴重なご意見も提案者に伝えることもでき、短時間でありながら効果的な討議となっていました。

担当郡市である丸亀社研を始め、ご協力いただいた多くの先生方にお礼を申し上げますとともに、各郡市が独自色を出しながら、共に研究を進めていく良さを実感した第1回の定例会でした。

# 香社研だよりvol.2

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 佐藤 正文  
発行日 平成22年10月16日

## 香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成  
ー新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによるー  
「学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める」

## 高松市社研テーマ

「社会科」における思考力の育成を図る  
ー子どもの学習意欲を大切にし、  
読解力と豊かな言語活動の展開による日々の授業実践の充実を目指してー

### 7月定例会 高松西・高松南ブロック集会（於：高松市民防災センター）

#### 1 実践提案①（高松西）高松市立亀阜小学校 姫田朋樹先生・高松市立下笠居小学校 轟 秀明先生 第6学年 「源頼朝と鎌倉幕府～元の大軍がせめてくる～」の実践を通して

##### ○提案の主張点

- (1) 現教主題「自分に問い、人に問う学習」との関連を大切にした実践
- (2) 子どもの学習意欲をもとにした学習計画
- (3) 教材の本質を見極めるための教材の構造図
- (4) 学習材の再構成による思考力の育成

##### (1) 現教主題「自分に問い、人に問う学習」との関連を大切にした実践

児童が学習問題を作り、予想を立て、試したり調べたりする。（自分に問う）そして、友だちと交流（人に問う）して、さらにより考えや方法を見つけ、最後に自分を振り返るという一連の学習方法を大切に、主体的な学びによる学力形成に力を入れている。

##### (2) 子どもの学習意欲をもとにした学習計画

児童の予想と事実との違いから、「なぜご恩と奉公の関係がくずれたのか。わけを知りたい。」という学習問題を追究する学習計画を設定した。

##### (3) 教材の本質を見極めるための教材の構造図

教科書・資料集の資料をしっかりと分析し、構造化することでその活用方法が明らかになる。

##### (4) 学習材の再構成による思考力の育成

児童が調べたこと（学習材）を各自で（幕府）「ご恩は与えられたか」（武士）「奉公はできたか」という観点で分類し、第一次思考図をつくる。これをグループで持ち寄り、一人の児童の思考図をもとに話し合っ各自の思考図を修正する。この第2次思考図をもとに、学習問題の答えを論述していく。

#### 2 実践提案②（高松南）高松市立林小学校 中尾美方子先生・高松市立十河小学校 森口英樹先生 第6学年 「貴族の世の中から武士の世の中へ」の実践を通して

##### ○提案の主張点

- (1) 子どもの学習意欲を図る学習計画
- (2) 思考と表現の一体化
- (3) 言語活動の充実による思考力・表現力の育成

##### (1) 子どもの学習意欲を図る学習計画

児童の知識や疑問、課題を大切に学習を目指した。

##### (2) 思考と表現の一体化

児童が各種資料から読み取った事柄を線図の思考操作によって関連づけながら詳しく見つけさせる。広がった事項を仲間分けし見出しを付けることで、武士の世の中への変化や時代の概念（イメージ）を再思考する。再思考した概念をもとに、学んだことを自分の言葉で表現した。

##### (3) 言語活動の充実による思考力・表現力の育成

絵図等の比較、関連させて読み取ったことを書き出し言語化する。そして、そこから見つけた事項（言葉）をつないでいく操作活動を行う。さらに、再思考の活動を通して、「貴族の世の中」「武士の世の中」の特色や事象間の関連を、自分の言葉で書いたり説明したりする伝え合う活動を大切にしていた。

### 3 討議記録

- 石塁を後々まで続けていったことが鎌倉幕府の滅亡につながったことは説明したのか？  
また、なぜ元は日本をねらったのか、なぜ3回目の元寇は起こらなかったのか、などといった質問は児童から出なかったのか？

→ねらった理由は日本が黄金の国だったからという知識として教えた。3回目の元寇に関しては元の国内の事情によってだが、これも後日児童には教えた。日本側は元の国内事情までわからないので、2回目の元寇以降も警備を続けていたということも教えた。

- 線マップの効果子どもがどう感じているか。また、石塁を実際に作ってみて子どもは何を学んでいるか？

→観点をもって考え、キーワードをつないでいけるので、子どもは考えが整理しやすい。他教科でも使えるが、観点はその都度違ってくる。線マップはわりと手軽にできるのも魅力。

石塁は復元された写真はあるが、大きさのイメージや陸地側がどうなっているのかのイメージができない。そのため、実際にどうなっているか調べて作ってみた。子どもは石塁を作ることでその重要性を感じていた。その石塁が2回目の元寇を防ぐことができた大きな理由だったとわかった。

- 見えないものを見えるようにする指導がされている。思考がわかりやすいし、それがまた問いにつながっている。人間の模型を作り石塁の大きさと比べることで、石塁を作ることの危険や大変さを実感できる。
- 調べたことを表現する言語活動をしていた。線マップは広がっていく拡散的な思考なので、まとめる必要はない。まとめる時には集団吟味という2つ目の言語活動が起こると思う。時代ごとの土地の意味なども、線マップでわかりやすくなる。また、その線マップでふり返りができるのがよい。
- 体験的な活動が課題の解決につながるにはどうしたらよいか考えていたが、後ろの資料がすばらしくてよかった。実際の石塁の高さも子どもにイメージさせたのか？  
→させた。

#### ご指導

##### 【1】高松市教育委員会 岡本英孝 指導主事

###### 授業展開について

子どもの学習意欲を大切にしたい展開だった。最初に何を調べて次に…というように、見通しをもたせることで意欲を引き出すことができる。線マップを使った後、それで終わりではなく教科書をもとにしてカードにまとめ、グループで話し合い再構成していた。そのため、押さえなければならないキーワードもしっかり入っていてよかった。教材の構造化を行い、見通しをもって調べることが大切である。

###### 評価について

子どもが表現しても、評価がないと何が良いかわからず行き詰まることもある。そのため、評価基準がしっかり決められることが大切である。

##### 【2】香川県教育弘済会 専務理事 元香社研会長 植松勝

###### 教育弘済会について

教育弘済会の教育論文を提出する意義について。書くことによって実践をまとめ、フィードバックできる。それが、自己評価となり、次の教育実践に生きる。

###### 教員に必要なこと

自身の教員生活を振り返って見える教員にとって必要なこと。先輩の先生の実践を見て、真似してみる。素晴らしいモデルはたくさんいる。研究から逃げることなく、失敗を繰り返し、成長していくことが大切。

【編集後記】今回は、南ブロックと東ブロックの共同発表でした。同じ単元の提案ということで、お2人のご実践を比較したり、関連付けたり、総合したりしながら研究を深めることができました。2つの実践に共通していえることは、教材の構造図を教師が描くことで、単元において重要な概念が焦点化できること。また、思考図を整理することで、子どもの問題解決の過程を明確にできること。そのため、子どもにとって思考する必然性をもった単元展開が可能になりました。普段の授業で、さっそく取り入れたいくなる2つの御提案でした。今回の定例研で提案された先生方、そして、御指導を頂いた岡本指導主事様、植松勝先生、本当にありがとうございました。

# 香社研だよりVOL.3

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 佐藤 正文  
発行日 平成22年9月25日(土)

## 香社研テーマ

「社会科ノートによる思考力の育成」  
—新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる—  
—平成22年度研究の視点「学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める」—

## 三観社研テーマ

個が育ち、生きる社会科学習の創造  
— 考える力をつけるための社会科学習をめざして —

9月定例会 三豊・観音寺ブロック集会

平成22年9月25日(土) 於：芙蓉の里文化の里館(三豊市豊中町)

### 1 三観社研提案

観音寺市立一ノ谷小学校 合田 雅気先生

#### (1) 三観社研の研究テーマ

研究テーマについて次のようにとらえて、継続研究を行ってきた。

『個』・・・『経験』に照らし合わせながら、自分なりにものごとを考え実践  
することのできる責任ある意志決定の主体。

『個が育ち、生きる』・・・『個』がそれぞれにもつ経験を背景に、社会的事象に  
対する考えを出し合い、みがき合い、高め合う過程。

個が育ち、生きる過程を通して、より高い社会的事象の概念が作られ、個の見  
方、考え方が深まっていく。この意味で三観社研では、公民的資質の育成に軸足  
を置いて、研究を深めてきたと言える。

#### (2) 三観社研の研究の方向性

- ① 単元観を明確にする。
- ② 学習意欲を高める。
- ③ 言語活動の質を高める。



##### ① 単元観を明確にする

個の実態と教える内容のねらいを鑑みて、どのような個を育成するかという  
教師の願いを明確にする必要がある。明確な単元観を描くことによって指導内  
容・方法の方向性が明らかになる。

##### ② 学習意欲を高める

子どもたちの学習への意欲づけの基盤となるものが、子どもたちの内に知的  
好奇心を持って追究しようとする「問い」の成立である。

##### ③ 言語活動の質を高める

言語活動の質を高めるためには、社会的事象の意味を考える際、子ども一人  
ひとりが自らの経験・体験に裏付けされた言語を駆使し、具体的な言語と抽象  
的な言語を行きつ戻りつしながらその意味を問い直す活動が重要である。



## 2 実践提案 4年「住みよいくらし 水はどこから」

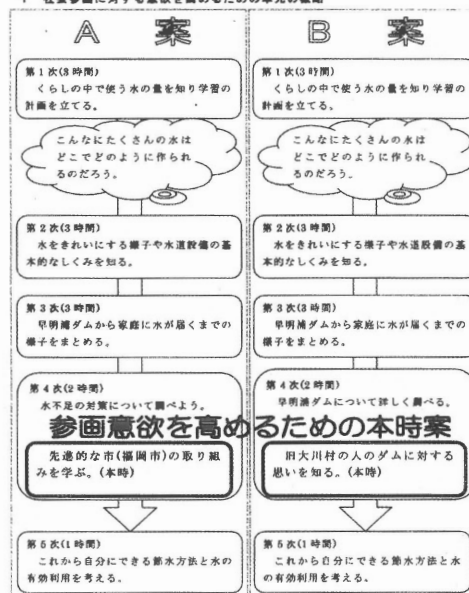
観音寺市立豊浜小学校 出濱 大資先生、三豊市立本山小学校 藤本 博文先生

4年単元「水はどこから」における社会的な見方・考え方を「私たちの生活になくてはならない水の確保には、多くの人々が計画的に対策や事業に携わっており、その対策や事業は様々な立場の人々の思いや合意のもとに成立している。」と考えている。

しかし、「人々の願い・思いが込められた水を大切に使わなければならない。」という主体の在り方にまではつながりにくい実態があった。そこで、課題を「参画への意欲を高めるにはどうすればよいか」と設定し、右図のA案とB案を作成した。

A案は、先進的な取り組みを学ぶことで、参画意欲を高める構成。B案は、旧大川村の住民のダムに対する思いを考え、人々の願いや思いを理解する情的理解を通して参画意欲を高める構成。この2案を提示し、参会の先生方から意見をいただいた。

単元「住みよいくらし」 小単元「水はどこから」  
1 社会参画に対する意欲を高めるための単元の展開



## 3 討議記録

- A案
- 子どもたちにとって自分にできることを考えやすい。
  - 折れ線グラフをもとに考えを効果的に話し合える。補助金制度や淡水化センターの資料を充実させれば、もっとよい構成となる。
  - 具体的なスキル、実践力を育てていくのに適している。
- B案
- 個人の努力や「四国は一つ」の意識を持たせていくことが重要である。
  - 「節水をなぜ、がんばるか」を心情でゆさぶることが大切である。
  - 水やごみの学習では、「計画性」「協力」がキーワードとなる。その意味でB案の方がキーワードを学ぶことができる。

## 4 ご指導

○ 香川県教育委員会 西部教育事務所 森 昭二主任指導主事

### (1) A案とB案

A案は、社会的なかわりといった視点がある。B案は、個人でのかわりに重点が置かれている。どのような事実を教材として扱うかを吟味することが大切である。

### (2) 資源としての水

水を資源としてとらえる意識は、低い。学年を経るごとに水に対する意識を高める必要がある。

### (3) 児童理解と教材開発

児童がどのような状況であるかを考えて、個別理解と集団としての理解(学びの形態、学びの経験)を行った上で、A案かB案かを考えていくことが大切である。

○ 香社研OB 三豊市教育委員会 人権・同和教育指導員 前田 高次 先生

### (1) 地域の史跡や干拓跡などを子どもたちに伝えていきたい

地名から海であったことなど、三野津湾の干拓について史実についての資料をもとにくわしく教えていただいた。

# 香社研だよりvol.4

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 佐藤 正文  
発行日 平成 22年 11月 13日

## 香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成  
—新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる—  
「学習材と開発により、集団と個のかかわりを深める」

## 高松市社研テーマ

「社会科」における思考力の育成を図る  
—子どもの学習意欲を大切にし、  
読解力と豊かな言語活動の展開による日々の授業実践の充実を目指して—

## 10月定例会 高松東ブロック集会（於：古高松コミュニティセンター）

実践提案 高松市立屋島東小学校 間島大輔先生・高松市立栗林小学校 真鍋長嗣先生  
第5学年 「自動車をつくる工業」～自動車整備工場での体験活動を通して～

### 1 提案の主張

- ① 自動車産業に関わる人の思いやその技術力に気づくことができるよう、自動車整備工場を教材化する。
  - ② 働く現場の雰囲気を感じたり、生で交流する意欲を高めたり、学習を深められるよう、地域の特性に応じた教材を開発し、見学・体験活動を重視した。
  - ③ 体験によって獲得した学習材をもとにして、グループで思考操作活動を行い、自動車工業に対する考えを深められるようにした。
- ① 自動車産業に関わる人の思いやその技術力に気づくことができるよう、自動車整備工場を教材化する。  
学習指導要領にある「工業に従事している人々の工夫や努力」に気づくために、従来の自動車作りに重きを置く構成ではなく、自動車産業に関わる技術者が浮かび上がってくる学習活動をねらいとした。そこで、本社、自動車製造工場と消費者をつなぐ役割を担っている自動車整備工場を教材化することにした。
- ② 働く現場の雰囲気を感じたり、生で交流する意欲を高めたり、学習を深められるよう、地域の特性に応じた教材を開発し、見学・体験活動を重視した。  
学習指導要領（総則）に「体験的な学習や問題解決的な学習を重視する」とあるように、その地域で体験できる教材の開発が必要である。自動車工業の学習では、自動車製造工場の見学が多いが、地域に製造工場がなかったり、校外学習での日程調整が難しかったりと、単元の中にうまく構成することができないことが多い。そこで、県内どの地域にもあり、授業の中にも取り入れやすい整備工場の見学を考えた。
- ③ 体験によって獲得した学習材をもとにして、グループで思考操作活動を行い、自動車工業に対する考えを深められるようにした。  
体験だけで終わらせてはならない。整備工場での交流によって得た情報をもとにつくられた「インタビューカード」を学習材として、グループごとに類別を行った。この思考操作活動により共通点と相違点を見つけ、整備工場働く人々の思いや技術力に気づき、考えを深めることができた。

### 2 討議記録

- ・ はじめて気持ちカードを書くとき教科書から書いていたが、どのような内容を書いていたのか？  
→ 教科書の内容をそのまま書いている児童もいたが、自分で考えたことも書くよう指導し、内容を付け加えている児童もいた。
- ・ 整備工場では部品についての話もあったのか？  
→ 自由に質問することができた。最近の自動車の部品はさわりにくくなっているの、自動車会社に問い合わせることもあるなど、自動車会社と整備会社が連携していることが分かった。
- ・ 単元を通しての児童の課題意識はどんなものだったのか？  
→ はじめは「自動車づくりのひみつを探ろう」ということであったが、最後の課題に向けては強引なところがあつたと思う。どのようにすればよかったか・・・

- 高松西ブロックの提案で、児童の予想と事実との違いから学習問題を追究することができていた。カードを類別するという方法もよかったが、児童の課題意識、目的意識が薄く、カード操作をするための見学になっていたのではないか。児童が課題をしっかりともっていたら、類別したものに名前をつけるときに困ることもなかったのではないかな。身近な体験ということで整備工場を取り上げたことは画期的であるが、その体験がどの段階でのものなのかをはっきりさせることが大切。（課題をもつための体験なのか？課題を解決するための体験なのか？課題の解決を確認するための体験なのか？）自分だったら、児童の予想のずれから課題をつくる。携帯電話でも同じことがいえる。

- 地域にある整備工場見学を単元に取り入れることは今までにはない考えでとてもよかった。実際に働いている人と話をすることによって、気持ちや苦勞が分かる。ただ1次のところで自動車で止まってしまったため、そのようなしくみは自動車だけという感じになってしまった。自分の学校では、単元のおわりに自動車以外の工場見学を設定している。それによって、他の工業製品でもそうであるという全体のまとめをすることができる。
- 市社研の「言語活動」という視点での提案であった。工場見学は3・4年の地域理解を目的したものと、5年の国の産業という視点のものがある。資料でわかることは自動車の作り方などで人の願いなどは見えにくい。今回の見学は「見えにくい人の願いを見つけに行こう」という課題をもつとよかったのではないかな。香社研の研究テーマである学習材の開発→思考という流れがあった。
- 教科書の体験をどうつなぐか。従来は教科書をそのまま体験させていた。(自動車工場)それが無理なら別の種類の工場を見学するという手段。今回は第3の体験を提案してくれた。地域の整備工場の見学を設定することで、地域も元気になり、地域との関わりをもつことができる。
- 校外学習の日程と見学をあわせることは難しい。そこで画期的な整備工場の見学はよかった。もう一つのよさは、製造工場と整備工場の比較にあるのではないかな。中学年から5年の農業、漁業までは人の働きという面が大きかったが、工業になってその影が薄くなる。工業にももちろん人が大きく関係しているのでその比較をすることで見えてくるのではないかな。単元のおわりにその比較を入れるといいのでは。カード操作に関しては、働く人の気持ちと仕事の内容とが混在しているので難しかった。やはり分けるべき。
- 一般化をすることが大事。単元の終わりに他の工業製品についてもみるといい。カード操作は2次元にして気持ちと仕事を分けるといいのではないかなと思う。また、4年生での工場の学習とつなげて比較してもよい。

### 3 御指導

#### 【1】高松市教育研究所 小原 敏昭 教育支援係長

- 新学習指導要領を意識した取り組みであった。消費者の多様な需要にこたえることを理解するために、各自で「注文票」を作成することで気付くことができていた。教材の構造図を見ると、人や物のつながりを意識させている。
  - ・ 「教科書に見る基礎・基本の事項と内容」をまとめている。
  - 指導内容を概観的につかむことができる。
  - ・ 児童にとって、身近な整備工場を見学の場としている。
  - 新たな疑問が生まれても、再度、聞き取り等を行い解決することができる。
- 問いが連続するような教師のしかけが不足している。原材料の輸入国を地図や地球儀で調べることが大切。
  - ・ 本時に児童に理解させたいものは何かを考える。
  - ・ なぜ、「点検」するのか、なぜ「修理」するのかなどに対する児童の気付きが消えてしまっている。

#### (改善方法)

- ・ 「関係図」等に「気持ちカード」を添付し、整備士の仕事の意義を価値付ける。
- ・ 今後の自動車開発に必要なポイントをまとめ、交流させる。「開発者のあなたは、今後の自動車開発で何に一番こだわりますか？」という課題で考え、討論させる。自動車開発の方向性を探ることを通して、今後の工業が発展していくためのキーワードを理解させる。

(環境保護・ユニバーサルデザイン・ユーザーの重視)

#### 【2】香社研OB、高松市市民文化センター 平和記念室 センター学習担当 関根 建一 先生

##### 平和学習について

平和学習とは「平和な社会を創造し、接続していくことのできる人づくり」。最近の子どもたちは、戦争を知らない、高松で空襲があったことを知らない。なぜなら、語り継ぐお年寄りがいないから。戦争の話をするとき、目を光らせてきくのは若い教師である。人間は歴史を学び、歴史を知ることによって、人間の在り方・生き方を考えることができるのである。しかし、歴史を知ろうとしないものがある。子どもたちに話をするだけでは伝わりにくいので、映像を見せる。平和記念室では、ただ戦争を知る、空襲を知るのではなく、空襲の恐ろしさ、人の命の尊さ、今その命が大切にされていないことを知り、今後どうしていくかを考えられるようにしたい。平和のために武力抗争をするという考えではなく、武力を行使しない世界平和を考えるようになるように平和学習という学習材を通して学ぶ。今後同じことを繰り返さないように、地元の高松で起こったことを知り、それをスタートとしてほしい。歴史を知ること、知ってどうするか、どうしなければならぬかを考えてほしいと願っている。

#### 【編集後記】

今回は、自動車工業の学習に新しい風を吹かせた素晴らしい実践でした。体験、見学を基盤とした確かな理解が求められる今、5年生の工業の学習で整備工場を取り上げ、実践を積み上げられた成果は大変大きいものでした。体験を重視する一方、子ども達にとっての学びの目的や見通しをもたせることの大切さも討議の中にできました。本提案を参考に各学校でさらに実践が積み上げられることを祈っています。

今回の定例研で提案された先生方、そして、御指導を頂いた高松市教育研究所小原敏昭教育支援係長様、高松市市民文化センター平和記念室センター学習担当関根建一先生、本当にありがとうございました。(香社研事務局)

# 香社研だより vol.5

発行者 香川県小学校社会科教育研究会  
香川県小学校教育研究会社会科部会  
会長 佐藤 正文  
発行日 平成22年1月15日(土)

## 香社研テーマ

「社会科ノート」による思考力の育成  
—新学習指導要領に基づく社会科をひらくカリキュラムによる—  
—平成22年度研究の視点「学習材の開発により、集団と個のかかわりを深める」—

## 坂綾社研テーマ

分かる喜びを実感できる社会科学習の展開  
—体験的な学習・問題解決的な学習の充実を通して—

11月定例会 坂出・綾歌ブロック集会 平成22年11月13日(土) 於：綾川町立羽床小学校

### 1. 坂出・綾歌社会科研究会提案 宇多津町立宇多津北小学校 教諭 宮武克明先生

#### ○ 提案の主張点

- (1) 体験的な学習の充実
- (2) 問題解決的な学習の充実

#### (1) 体験的な学習の充実と言語活動

児童は、体験的な学習を通して、人々の行為や出来事などの事実を適切に把握し、具体的、実感的にとらえることができる。体験を通して感じることや考えることは、多様である。これらを自分の言葉に置き換えることで、児童同士の意見の違いが顕在化する。この違いをもとにすれば、追求意欲が持続する学習問題や話し合いへとつなげることができる。

#### (2) 問題解決的な学習の充実と言語活動

問題解決的な学習の過程における「言語の役割」として「人々の行為や出来事の実事をとらえる役割」「人々の行為や出来事の社会的な意味を考える役割」「協働的な学びあいを展開する役割」の3点が挙げられる。話し合いの場面では、「人々の行為や出来事の実事をとらえる役割」「協働的な学びあいを展開する役割」が発揮される活動を設定する。同じ社会的事象に対して違う意見をもつ児童同士がお互いに説得し合う活動を通して、より確かな考えや判断へと至ることができる。

### 2. 実践提案 綾川町立昭和小学校 教諭 西尾由加先生

第6学年 「一所懸命 農村に住む武士のくらし 『源頼朝と鎌倉幕府』の実践を通して」

#### ○ 提案の主張点

- (1) 問題解決的な学習の充実
- (2) 体験的な学習の充実

#### (1) 問題解決的な学習の充実

導入時に児童が、「どうして?」「なんでこうなるのだろう?」という心の状態になるような中心資料を提示する。

問題を解決するために、教師が児童の実態に合わせた資料を作成し提示した。児童が資料を一読で理解できる分量は、A4半分程度だと考え、本単元では、A4資料半分のものを6枚用意し、7分間で分かったことをノートにまとめさせた。

ノートの書き方は、坂出・綾歌社研でマニュアル化形式を用いた。「ノートは第2の資料集」を合言葉にし、見やすく後で振り返りがしやすいノートにするために、できるだけカラーの資料を貼ったり、ナンバリングをしてページ番号の代わりにしたりした。

授業の最後には、キーワードマップ図を書かせ、学習問題に対するまとめをさせた。また、単元の学びが終了すると、一枚の新聞に活字にしてまとめる活動をした。

## (2) 体験的な学習の充実

鎌倉武士にとって、自分の領地を守り豊かにし、そして子孫に渡すことは重要である。しかし、現在の子どもたちにとって、土地に対する価値はさほど高くなく、なぜそのようなもののために命をかけてまで奉公するのか理解が難しい。そこで、本単元では、1時間かけて児童が荒地を開墾し、作物を植える体験を設定した。

また、武士の戦いに備えたくらしぶりに関しては、教科書の武家造の学習に加えて、地元の羽床城を取り上げた。

## 3. 討議記録

- 本校では、6年生は茶臼山古墳へ行く体験を通して、大和朝廷の力について考えている。
- 昔の道具を使って開墾体験をすることで、土地の上にある人々やものを守るために人々が生きていたことが分かる。
- 社会科でいう体験活動は、見学や実験、作業的なものまであり、広い。体験活動をする時間がかかる。目的と方法を吟味して、コンパクトな体験活動が大切である。
- 有地区校である。人権同和と社会をからめて実践している。
- 本校6年生は、地域にある爺神山城を調べた。長曾我部氏が攻めてきたとき、ふもとでたくさんの人が戦死したことやお殿様の子孫が今もいること、お殿様や家来を祭る場所や大切にしている人がいることを子どもたちは学んだ。体験後の表現活動を行う時間を確保することが課題である。

## 4. ご指導

### ◎ 香川県教育委員会義務教育課 大谷伸一主任指導主事

#### (1)社会科の評価について

- ・関心・意欲・態度：考えようとしている態度を大切にする。
- ・思考・判断・表現：言語活動の充実を通して育てる。
- ・知識・理解：社会的事象についての理解と社会的事象の意味についての理解
- ・確かな授業をどう提供するのか。子どもたちにこういう力をつけさせたいとすっきりと整理された実践が大切。

#### (2)体験活動について

- ・開墾作業をとおして、中世までの土地制度について考えることができた。また、なぜ土地を中心に歴史は動くのかを考えることができる体験であった。

#### (3)表現活動について

- ・マップ図を使うことで多様な表現活動が行われている。

#### (4)課題

- ・学習指導要領、中学校では、どう扱われているのかを整理することで、魅力ある授業になる。
- ・問題解決が、子どもにとって問題になるのか。「なぜ～」の前に、「どのような～」「どのように～」を味わう部分もある。

### ◎ 香社研OB 唐木裕志先生

#### (1) 教材研究について

- ・子どもに教師の教材研究を隠してはいけない。過程を大切に授業を作る。

#### (2) 資料について

- ・国土地理院のHPに空中写真や地図のデータがある。活用してほしい。

#### (3) 地域教材について

- ・中世の城は、県内に400ほど見つっている。中世の城は土塁、堀しかない。いざ決戦になると、土塁の上に櫓を建てていた。
- ・メインは地域の史跡。参考資料として、教科書にのっている史跡。

#### (4) 羽床城をフィールドワーク

【編集後記】今回は、問題解決的な学習の充実と言語活動、体験的な活動の充実と言語活動をテーマに提案発表が行われました。問題解決的な学習を充実させることによって、単元の終末まで児童の意欲化を図ることができました。また、体験的な活動を取り入れることで、鎌倉時代の背景を実感として児童はとらえることができました。参観者からも、体験的な活動の大切さについて話がありました。提案発表の後には、唐木先生からお話をうかがいながら羽床城を見学しました。今回の定例会で提案された先生方、そして、ご指導をいただいた唐木先生、大谷主任指導主事様、本当にありがとうございました。



## 「研究フォーラム2010」報告

例年、1年のまとめの会として位置付けられていた香社研「研究委員会」は、より広くより多くの先生方の学びの場となるようにと、昨年度から香社研「研究フォーラム」という名前に変え、パネル発表という形で実践交流を行っています。本年度は、さらに新たな試みとして國學院大學教授安野功氏（前文部科学省初等中等教育局教科調査官）をお招きし、ご講演いただきました。

### 1 目的

- ・ 各郡市の今年度の実践を交流したり、講師の方々の講評、講演を通して、研究を深化し、来年度の研究の方向性を探る。
- ・ 香社研の研究を広く県内外や他教科の先生方にも広める。

2 日時 平成23年2月19日（土）13:00～16:50

3 場所 香川大学教育学部附属坂出小学校 体育館

### 4 日程

12:30～13:00 受付（発表準備）

#### ◆ 開会 13:00～13:05

会長挨拶（佐藤 正文 校長先生）

#### ◆ 実践交流（パネル発表） 13:05～14:25

13:05～13:10 準備・移動

13:10～13:35 第1ラウンド（さ・東、高松東、坂・綾）

13:35～14:00 第2ラウンド（小豆、高松南、丸亀）

14:00～14:25 第3ラウンド（高松西、三・観）

#### ◆ 本部提案「来年度の方向」 14:30～15:00

研究部長 香川大学教育学部附属高松小学校 大嶋 和彦 先生

#### ◆ 講評 15:05～15:15

香川県教育委員会 義務教育課 主任指導主事 大谷 伸一 先生

#### ◆ 講演 15:15～16:45

「評価から探るこれからの社会科授業」－客観性から妥当性へ－

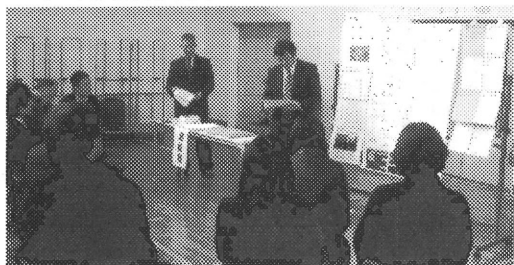
國學院大學教授 安野 功先生

#### ◆ 閉会 16:45～16:50

副会長挨拶（岡根淳二校長先生）

## 5 活動の概要

### (1) 実践交流



各郡市社研において、本年度実践された成果を持ち寄り、パネル発表という形で交流を行いました。

まず、各郡市社研の基本的な考え方が提案され、次に、資料を使って実践が報告されました。そして、参会者から質問や意見が出され、熱心な討議が行われました。

実際に授業で使った子どものノートを囲んでそれを基に話し合いが進んだり、開発した教材・教具を実際を使って模擬授業が行われたり、と趣向を凝らした報告が次々に行われました。参会された先生方からは、「非常に具体的で勉強になる。」「明日からの実践に即、生かせる提案だ。」という声が聞かれ、大変好評でした。これらの郡市の提案をいかに来年度研究に反映させるかが今後の課題となります。



### (2) 本部提案・講評

研究部長大嶋先生から、来年度研究の方向について提案がありました。来年度は、研究3年計画の3年目になります。視点Ⅰ「動機付け」、視点Ⅱ「思考力」研究の成果をふまえ、視点Ⅲ「評価の観点を生かした授業改善」へと歩を進めます。

講評をいただいた香川県教育委員会義務教育課主任指導主事大谷伸一先生からは、フォーラムの試みを価値付けしていただくと共に、発達段階に応じた思考とその評価について貴重なご示唆をいただきました。



### (3) 講演

國學院大學教授安野功先生から「評価から探るこれからの社会科授業 ―客観性から妥当性へ―」と題してご講演をいただきました。

「よい評価問題は、授業が見えるものでなければならない」「客観性から妥当性へとシフトした背景には負担軽減がある」「思考の評価は、表現に依るが、思考の過程における表現か、思考の結果としての表現かを見極めること」

など、具体的な事例を基に分かりやすくお話いただきました。来年度研究へとつながる貴重なご示唆をいただきました。

